
令和6年度 事業報告書

学校法人 村崎学園

目 次

I. 法 人 の 概 要 1

1. 基本情報
2. 建学の精神、使命・目的
3. めざす大学像
4. 沿革
5. 設置学校等
6. 役員の概要
7. 評議員の概要
8. 教職員の概要

II. 事 業 の 概 要 8

1. 令和6年度の主な事業
2. 教育研究の概要
3. 3ポリシー
4. 就職状況
5. 管理運営の概要
6. 中期目標・中期計画
7. 特長ある取り組み

III. 財 務 の 概 要 89

1. 決算の概要
2. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

I. 法人の概要

1. 基本情報

(1) 法人の名称

学校法人 村崎学園

(2) 学園本部の住所、電話番号、FAX番号、ホームページアドレス

住 所 〒770-8560 徳島市寺島本町東1丁目8番地

電話番号 088-622-0097

FAX番号 088-626-2998

ホームページアドレス

<https://www.bunri-u.ac.jp>

2. 建学の精神、使命・目的

本学の建学精神は「自立協同」である。

この建学精神は、学祖村崎サイが明治28(1895)年7月徳島に私立裁縫専修学校を設立した歴史に由来する。学祖は、「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念を持ち「女性の自立」を唱えて村崎学園を創立した。昭和20(1945)年7月、学園は戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した村崎凡人元理事長は、学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、「他からの協力、他への協力なくして、『人間の自立』はあり得ない」との確信に至り、学祖村崎サイの精神を受け継ぎ、「村崎学園」の建学精神を「自立協同」としたものである。

この建学精神の意味するところは、成長してゆく人間として、「自立」は重要な到達目的であり、「協同」は「自立」を具現化する方法、とするものである。「協同」は「力を合わせて物事をする」ことなので、個としての「自立」は、「協同」すなわち「他からの協力、他への協力」という体験の中で促される。「人」はその体験を通して人間的な成長を遂げる。学園における教養的教育、専門的学術・芸術探求の教育は、まさに「人間の自立」を促す「協同」の場であらねばならない。

爾来、学園はこのような歴史に基づいた「自立協同」の建学精神のもと、教育を推進し、幼、小、中、高、大学・短大、大学院併せて9学部27学科、6研究科、3専攻科、そして5研究所、1相談室を有する総合学園として発展してきた。

今後とも建学精神のもと、ますます精進し、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学でありたいと願っている。

大学の目的は「学則」第1条に「本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。」と定めている。大学院は学則第2条に、短期大学部は学則第1条にそれぞれの目的を定めている。また、教育研究上の目的についても大学は学則第3条2項に、大学院は学則第5条2項に、短期大学部は学則第4条2項に明記している。

このように、本学の使命は、建学精神の下、「学則」等に記した教育研究上の目的を達成することにある。本学の使命・目的は、学祖が女性の自立を唱えて建学したこと、村崎凡人元理事長が第2次世界大戦で軍役に服した経験を生かし、さらに、戦後の社会状況から芽生えた近代精神を取り入れたこと、村崎正人前理事長がドイツ留学において社会経済学を学んだ経験に基づき、新たな国際感覚を吹き込んだこと等から形作られている。

その目的は、「自立協同」の建学精神を基本に、高度な教養と専門的能力を身につけるための教育と研究を実践し、並びに、幅広い教養を身につけた社会人や、あるいは、研究心と独立心を持って社会の発展に寄与する人材を養成することである。また、本学は教育機関であると同時に研究機関でもある。研究機関としての本学の使命は、研究成果を社会に還元し、文化の創造と発展に貢献していくことである。

3. めざす大学像

(1) ブランドスローガン「あなたの未来を創る 徳島文理大学」

本学は、令和7(2025)年の学園創立130周年に向けて、「あなたの未来を創る 徳島文理大学」をブランドスローガンに制定し、高松駅キャンパスの開学を契機に、さらなるブランド力の向上を目指している。創立130周年に向けて特に力を入れてきたのが“地域のニーズに応える特色ある教育・研究”

で、9学部が連携し、地域の健康や福祉・教育・食料・災害・公共政策など、SDGsに寄与する教育・研究を展開している。それぞれの分野での取組を一層強化し、AI・データサイエンスに関する教育も文系・理系問わず積極的に導入して、新時代を先導する人材の育成を推進する。

(2)文理融合の教育

本学は、人間教育の視点から、日常的な学生の交流をとおして成熟した社会人への成長を支援できるように、文系3学部（音楽学部・総合政策学部・文学部）、理系3学部（薬学部・理工学部・香川薬学部）のほかに、文理融合の2学部（人間生活学部・保健福祉学部）と短期大学部を設置し、総合大学の特性を生かした文理融合の教育をめざしている。

(3)教育目標・方法等の明示と自立学修

本学は各学部・学科の教育目標・方法等を履修ガイド及びシラバスに明示し、目標達成のため教員と学生はともに努力している。

また、カリキュラムの充実のほか、国家試験、資格試験での合格率の向上と、資格取得に努めている。そのために、学生自らが課題を見つけ解決するいわゆる「自立学修」ができる教育も実践している。

(4)教育への信頼（安心と安全）

～適切できめ細やかな教育と学生の成長を支援する充実した教育・研究環境～

本学が掲げる「安心」とは、学生に対し親切に接し、いい教育・わかる教育を行うことつまり教育の質を保証するものであり、「安全」とは、今後予測される南海トラフ地震の発生に備えた耐震化等、学生・教職員の教育環境を整えることである。

本学では、学年・学期の各段階で、学生に適切できめ細やかな教育を行うよう努めている。入学前教育は、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試に合格した段階から開始しており、学生の出身校と連携をとりながら、入学後の学修がスムーズに進むよう支援している。

また、新入生一人ひとりに各学部・学科のチューターあるいは担任が付き、平成25(2013)年からWeb化した「学習ポートフォリオ」をもとに面談を行い、教員とのきめ細かな連携を構築しながら、大学生活をサポートしている。

なお、新入生は、本学の特色である「文理学」を必修科目として履修している。「文理学」では、理事長の「徳島文理大学の建学精神と歴史」や学長の「大学で学ぶとは」の講義に続いて、「学習ポートフォリオの使用説明」を行い、学生の自主学修を促している。

そのほか、全学共通教育センターでは、学生の個々の事情に合わせた各学部・学科教育の専門的な学修に備えるための支援として「学力充実講座」を開講している。また、eラーニングによる学修システムも導入し、個別メニューで効果的に独自学修が行えるようサポートをしている。それに加え、教員・保育士をめざす学生には「教員・幼保養成対策講座」、公務員をめざす学生に対しては「公務員試験対策講座」での指導を通じて、進路の実現を支援している。

さらに、「FD研究部会」は、FD(Faculty Development)研修会・講演会の開催、研究授業、全学授業アンケート、在学生対象・学修状況アンケート、卒業予定者対象・大学生生活満足度アンケート等を行い、教育活動の質の向上に努めるだけでなく、学生と教員の連携を円滑に進めている。

教育・研究環境面では、メディアセンターにICT(情報通信技術)教育設備を設置し、語学や基礎学力向上を図るセンターや、生活面をサポートする施設等を置き、学生の自主的な学びの場や学生と教職員とのコミュニケーションの場として活用されている。

また、徳島及び香川両キャンパスにある図書館は、豊富な資料を揃えており、情報システムのもとDVD、CD、ビデオ等あらゆる視聴覚資料を学生に提供し、教育環境の完備に努めている。

さらに、徳島キャンパスには、世界最高水準の音楽ホール「むらさきホール」並びに「アカンサスホール」、「ポストンホール」を設置しており、学生のレッスン、学生による定期演奏会、OB定期演奏会等に利用している。同ホールでは、国際的に活躍している演奏家や指揮者による演奏も行われており、学生はそれらを直に聴くことができる。また香川キャンパスには、同様の機能を有した「村崎サイメモリアルホール」を設置している。

優れた教育を支える活発な研究活動は本学の特徴でもある。研究活動は学生の問題発見能力と問題解決能力の育成に役立ち、その成果を社会に発信できた時の喜びは学生と教員が共同して成し遂げた教育成果としても分かち合える。徳島・香川キャンパスには充実した教育・研究機器が整備され、最先端の研究が展開されている。

(5)地域に密着した教育貢献

本学は地域に密着した教育貢献を心がけている。これは、本学が徳島の地で戦災から復興し今日の発展に至ったのは、県民の教育への思いや、成功をおさめた多くの卒業生、多数の保護者、教育に尽力した教職員、地域住民等の限らない協力と支援に負うところが大きかったと考えるからである。

地域に密着する教育貢献としては、公開講座や公開講演会、定期演奏会、高等学校等への出張講義、児童・生徒を対象とした科学・工作教室等の開催、徳島・香川県等との地域連携事業の推進のほか、本学施設を一般の講演会と演奏会等の会場としても提供しており、地域住民の参加を歓迎している。

また、平成27(2015)年4月には、地域貢献・地域連携を担う中核として地域連携センターを設立し、社会的ニーズに対応した教育貢献に努めている。

(6) グローカル教育

本学は四国に位置していることから、日本や世界の流れを踏まえつつ地域とともに歩める人材を育成することを目的とし、グローバルに考え、ローカルに行動する「グローバル教育」を実践している。そして、そのために必要となるICT能力やコミュニケーション能力の向上を図れるように、メディアセンターの充実や、ICTの導入、総合大学の特色を生かした多様な講義の受講機会を設ける等、教育環境を整えている。また、地域を知り、厳しい社会環境を生き抜き活躍していけるよう、学生には地元企業や地域とのインターンシップに積極的に参加するよう推奨している。

(7) 国際交流

本学は総合大学である特徴を生かし、米国、カナダ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアなどの12ヶ国32大学と大学間の学術交流協定を締結している。また高大連携は9校となっている。

米国のマサチューセッツ工科大学との協定は日本で最初に締結したほか、音楽療法の先進校である米国のシェナンドー大学から日本の大学として初めて音楽療法教育を導入した。

このほか、オーストラリア・グリフィス大学、韓国・檀国大学校、水原大学校等、香港伍倫貢学院（旧香港城市大学）及び台湾の中山医学大学等とは、学生の短期・長期の滞在を含めた定期的な交流を行っている。

これらの国際交流を通じて、本学の学生は、海外の教育を受けたり異文化に触れたりすることができ、異文化への理解や国際的な視野をひろげることにつながっている。また、本学の教員も国際シンポジウムに招待されることが多く、本学が高い研究レベルを維持し、国際的に活躍できる大学としての特色を備えている証左でもある。

また、平成26(2014)年度、国際交流グループと語学センターを統合し、国際部を新設した。現在、10名体制で運営を行っており、平成28(2016)年度、学内横断的な組織である国際交流委員会を設立し、国際交流・グローバル化を推進する体制を整備した。

4. 沿革

1895年（明治28年）	村崎サイ、私立裁縫専修学校創立 「女性の自立」を唱え、自立協同を建学の精神とする
1924年（大正13年）	徳島女子職業学校設置許可
1932年（昭和7年）	徳島女子職業学校経済科設置許可
1944年（昭和19年）	財団法人村崎女子商業学校認可
1947年（昭和22年）	財団法人村崎学園認可 村崎高等女学校と校名変更
1948年（昭和23年）	村崎女子高等学校と校名変更
1951年（昭和26年）	学校法人村崎学園認可
1958年（昭和33年）	徳島女子高等学校と校名変更
1961年（昭和36年）	徳島女子短期大学創立、家政科設置
1962年（昭和37年）	徳島女子短期大学家政科専修分離（家政専修、食物専修）
1963年（昭和38年）	徳島女子短期大学保育科設置
1966年（昭和41年）	徳島女子大学創立、家政学部家政学科設置 徳島女子短期大学文科（国文専攻、英文専攻）、音楽科設置
1967年（昭和42年）	徳島女子大学家政学部家政学科専攻分離（家政学専攻、管理栄養士専攻）
1968年（昭和43年）	徳島女子大学音楽学部音楽学科設置
1970年（昭和45年）	徳島女子大学家政学部児童学科設置 徳島女子短期大学商科設置
1972年（昭和47年）	徳島女子大学薬学部薬学科、衛生薬学科設置 徳島女子大学を徳島文理大学と校名変更
1973年（昭和48年）	徳島女子短期大学を徳島文理大学短期大学と校名変更 徳島文理大学附属幼稚園開設
1974年（昭和49年）	徳島文理大学短期大学家政科専攻分離（家政専攻、食物専攻）
1975年（昭和50年）	徳島文理大学音楽専攻科設置 徳島文理大学附属中学校開設
1976年（昭和51年）	徳島女子高等学校を徳島文理高等学校と校名変更 徳島文理大学附属中学校を徳島文理中学校と校名変更
1979年（昭和54年）	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[修士課程]設置
1980年（昭和55年）	徳島文理大学短期大学を徳島文理大学短期大学部と校名変更
1981年（昭和56年）	徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻[博士課程(後期)]設置
1983年（昭和58年）	香川キャンパスを開学 徳島文理大学文学部日本文学科、英米文学科設置（香川キャンパス）
1984年（昭和59年）	徳島文理小学校開設
1987年（昭和62年）	徳島文理大学短期大学部経営情報科設置（香川キャンパス）

1988年（昭和63年）	徳島文理大学短期大学部家政科を生活科学科（生活科学専攻、食物専攻）に名称変更 カナダ バンクーバー・コミュニティ・カレッジと姉妹校協定締結
1989年（平成元年）	徳島文理大学工学部機械電子工学科、情報システム工学科設置（香川キャンパス） 村崎サイメモリアルホール完成（香川キャンパス）
1992年（平成4年）	徳島文理大学文学部コミュニケーション学科設置（香川キャンパス） 徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻[修士課程]設置（香川キャンパス）
1993年（平成5年）	徳島文理大学家政学専攻科設置 徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス） 学園創立100周年村崎凡人記念図書館、総合体育館完成（徳島キャンパス）
1994年（平成6年）	徳島文理大学家政学部生活環境情報学科設置 徳島文理大学大学院文学研究科地域文化専攻[博士課程(後期)]設置（香川キャンパス）
1995年（平成7年）	徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻[博士課程(後期)]設置 （香川キャンパス） アメリカ マサチューセッツ工科大学〔MIT〕と大学間協定締結 カナダ ランガラ大学と姉妹校協定締結
1996年（平成8年）	徳島文理大学短期大学部文科英文専攻を英語文化専攻に名称変更
1997年（平成9年）	徳島文理大学大学院家政学研究科食物学専攻、生活環境情報学専攻[修士課程]設置 徳島文理大学短期大学部文科国文専攻を日本文学専攻に名称変更
1998年（平成10年）	徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻（児童教育学コース、臨床心理学コース） [修士課程]設置 徳島文理大学大学院薬学研究科医療薬学専攻[修士課程]設置 徳島文理大学家政学部人間発達学科設置 徳島文理大学文学部文化財学科設置 徳島文理大学工学部環境システム工学科設置 アメリカ インディアナ大学と学術交流協定締結
1999年（平成11年）	徳島文理大学大学院家政学研究科人間生活学専攻[博士課程(後期)]設置 ベトナム ハノイ国家大学と学術交流協定締結 徳島文理大学大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コース、臨床心理士養成の 指定を受ける 徳島文理大学短期大学部文科を改組し、言語コミュニケーション学科設置
2000年（平成12年）	徳島文理大学総合政策学部総合政策学科設置 学園創立110周年記念むらさきホール完成（徳島キャンパス） オーストリア ウィーン国立音楽大学・アメリカ シェナンドー大学と姉妹校協定締結
2002年（平成14年）	徳島文理大学薬学部衛生薬学科を医療薬学科に名称変更 徳島文理大学家政学部家政学科管理栄養士専攻、生活環境情報学科を改組し、 食物栄養学科、生活情報学科、住居学科設置 徳島文理大学家政学部を人間生活学部に変更
2003年（平成15年）	徳島文理大学家政学部家政学科家政学専攻を人間生活学部人間生活学科に変更 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科設置 徳島文理大学人間生活学部人間発達学科を心理学科に、文学部英米文学科を 英米言語文化学科に変更 香港大学と学術交流協定締結
2004年（平成16年）	徳島文理大学短期大学部経営情報科を地域ビジネス情報科に名称変更（香川キャンパス） 徳島文理大学工学部ナノ物質工学科設置（香川キャンパス） 徳島文理大学大学院総合政策研究科地域公共政策専攻[専門職学位課程]設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科設置（香川キャンパス） 韓国 檀国大と学術交流協定締結
2005年（平成17年）	徳島文理大学大学院香川薬学研究科創薬科学専攻 [博士課程(前・後期)] 設置 （香川キャンパス） 徳島文理大学家政学専攻科を人間生活学専攻科に変更 徳島文理大学大学院家政学研究科を人間生活学研究科に変更 徳島文理大学大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、 心理学専攻[博士課程(前期)]設置 徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻[博士課程(前・後期)]設置 香港城市大と学術交流協定締結 スロベニア ヨーゼフ・ステファン国際大学院と学術交流協定締結

2006年（平成18年）	徳島文理大学人間生活学部生活情報学科をメディアデザイン学科に名称変更 徳島文理大学薬学部薬学科[4年制]、医療薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]設置 徳島文理大学香川薬学部創薬学科[4年制]を改組し、薬学科[6年制]、薬科学科[4年制]設置 イタリア パヴィア大学と学術交流協定締結 徳島文理大学短期大学部地域ビジネス情報科廃止
2007年（平成19年）	徳島文理大学工学部臨床工学科設置（香川キャンパス） 徳島文理大学人間生活学部人間福祉学科を改組し、人間福祉学部人間福祉学科設置
2008年（平成20年）	徳島文理大学人間福祉学部を保健福祉学部に変更 徳島文理大学文学部英米言語文化学科を英語英米文化学科に、工学部機械電子工学科を機械創造工学科に、情報システム工学科を電子情報工学科に名称変更（香川キャンパス） 徳島文理大学保健福祉学部看護学科設置 オーストラリア グリフィス大学と学術交流協定締結
2009年（平成21年）	徳島文理大学工学部を理工学部に変更（香川キャンパス） 徳島文理大学助産学専攻科設置 徳島文理大学人間生活学部住居学科を建築デザイン学科に名称変更 イギリス グロスターシャー大学と学術交流協定締結 台湾 中山醫學大學と学術交流協定締結 台湾 新民高級中學と高大連携校協定締結
2010年（平成22年）	徳島文理大学保健福祉学部理学療法学科設置 徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻[修士課程]設置（香川キャンパス） 台湾 台北醫科大學・大仁科技大學・台南應用科技大學と学術交流協定締結 台湾 台北市立南湖高級中學・樹徳高級家事商業職業學校・新光高級中學と 高大連携校協定締結
2011年（平成23年）	台湾 嘉南薬理科技大學・義守大學・東海大學・国立台中教育大學・国立台湾師範大學と 学術交流協定締結 台湾 高雄市立三民高級中學と高大連携校協定締結
2012年（平成24年）	徳島文理大学保健福祉学部診療放射線学科設置、臨床工学科を理工学部から 保健福祉学部へ移行（香川キャンパス） 徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士課程(4年課程)設置 台湾 中原大學・逢甲大學・開南大學と学術交流協定締結
2013年（平成25年）	中国 厦門大學と学術交流協定締結 韓国 水原大學校・水原科學大學と学術交流協定締結 台湾 康橋双語學校と高大連携校協定締結
2014年（平成26年）	徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻[修士課程]設置 韓国 安山江西高等學校と高大連携校協定締結 台湾 淡江大學と学術交流協定締結
2015年（平成27年）	中国 広東省外語芸術職業学院と学術交流協定締結 中国 北京語言大学附属大連高級中学と高大連携校協定締結 地域連携センター開設 2号館アカンサスホール完成（徳島キャンパス）
2016年（平成28年）	徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻〔博士課程(後期)〕設置 徳島文理大学大学院総合政策学研究科総合政策学専攻〔修士課程〕設置
2017年（平成29年）	徳島文理大学保健福祉学部口腔保健学科設置
2018年（平成30年）	ポーランド ルブリン医科大学と学術交流協定締結
2019年（令和元年）	トレーニングセンター完成(徳島キャンパス)
2025年（令和7年）	高松駅キャンパスを開学 徳島文理大学総合政策学部経営学科設置(高松駅キャンパス)

5. 設置学校等

理 事 長 村 崎 文 彦

徳島文理大学大学院 学 長 田村 禎通 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示 1 8 0 (徳島キャンパス)
〒769-2193 香川県さぬき市志度 1 3 1 4 - 1 (香川キャンパス)
薬学研究科 (博士課程) ・ 文学研究科 (博士課程) ・ 工学研究科 (博士課程)
人間生活学研究科 (博士課程) ・ 看護学研究科 (博士課程) ・ 総合政策学研究科 (修士課程)

徳島文理大学専攻科 学 長 田村 禎通 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示 1 8 0
人間生活学専攻科 ・ 音楽専攻科 ・ 助産学専攻科

徳島文理大学 学 長 田村 禎通 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示 1 8 0 (徳島キャンパス)
〒769-2193 香川県さぬき市志度 1 3 1 4 - 1 (香川キャンパス)
人間生活学部 人間生活学科 ・ 食物栄養学科 ・ 児童学科 ・ メディアデザイン学科
建築デザイン学科 ・ 心理学科
音楽学部 音楽学科
薬学部 薬学科
文学部 日本文学科 ・ 英語英米文化学科 ・ 文化財学科
理工学部 機械創造工学科 ・ 電子情報工学科 ・ ナノ物質工学科
総合政策学部 総合政策学科
令和7(2025)年4月 経営学科を設置(令和6年8月22日設置に係る届出受理)
香川薬学部 薬学科
保健福祉学部 人間福祉学科 ・ 看護学科 ・ 理学療法学科 ・ 診療放射線学科 ・ 臨床工学科
口腔保健学科

徳島文理大学 学 長 田村 禎通 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示 1 8 0
短期大学部 生活科学科、保育科、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科

徳島文理 学校長 竹内 薫 〒770-8054 徳島市山城町西 4 丁目 2 0
中学校 ・ 高等学校

徳島文理小学校 学校長 長井 明福 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 6 8 - 1 0

徳島文理大学 園 長 西岡 純子 〒770-8055 徳島市山城町東浜傍示 2
附属幼稚園

6. 役員の概要

(1) 定員数

理事	7
監事	2

(2) 理事

(令和6年5月1日現在)

氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
村崎 文彦	令和6年3月11日	常 勤	(学)村崎学園 理事長
田村 禎通	平成30年4月1日	常 勤	徳島文理大学 学長
村崎 和子	平成18年4月8日	常 勤	徳島文理大学 教授
中村 敏雄	平成31年4月18日	常 勤	(学)村崎学園 経理部長
竹崎 克彦	平成22年4月8日	非常勤	無職
高橋 淳	平成18年4月8日	非常勤	(株)高橋商店 相談役
早雲 洋一	平成29年4月25日	常 勤	(学)村崎学園 事務局長

(3) 監事

(令和6年5月1日現在)

氏 名	就任年月日	常勤・非常勤	主な現職等
細溪 英一	平成14年6月18日	非常勤	池田屋(有) 代表取締役
新見 延安	令和5年4月1日	常 勤	無 職

(4) 役員賠償責任保険契約及び責任限定契約の状況

1) 役員賠償責任保険契約

令和2年4月1日から私大協役員賠償責任保険に加入した。

- ① 契約者（団体） 日本私立大学協会
- ② 被保険者 記名法人：学校法人村崎学園
個人被保険者：理事・監事
- ③ 補償内容
 - ・記名法人に関する補償
法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等
 - ・役員（個人被保険者）に関する補償
法律上の損害賠償金、争訟費用等
- ④ 支払い対象とならない主な場合（免責事由） 法律違反に起因する対象事由等
- ⑤ 保険期間中総支払限度額 3億円

2) 責任限定契約

私立学校法及び学校法人村崎学園寄附行為に基づき、令和5年8月1日に責任限定契約を締結した。

- ① 対象役員（非業務執行理事等）の氏名
 - ・非業務執行理事（2名）：竹崎克彦、高橋淳
 - ・監事（2名）：細溪英一、新見延安
- ② 契約内容の概要

非業務執行理事等が任務を怠ったことによって生じた損害についてこの法人に対し賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、金15万円と私立学校法において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の規定に基づく最低責任限度額とのいずれか高い額を限度とする。
- ③ 契約によって職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置

契約の内容に、非業務執行理事等がその職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときに限る旨の規定がある。

7. 評議員の概要

(1) 定員数

評議員	15
-----	----

(2) 評議員

（令和6年5月1日現在）

氏 名	就任年月日	主な現職等
竹内 薫	平成21年4月1日	徳島文理中学校・高等学校 校長
長井 明福	平成30年4月1日	徳島文理小学校 校長
西岡 純子	令和5年5月13日	徳島文理大学附属幼稚園 園長
村崎 明子	令和6年4月16日	徳島文理大学 講師
吉川 恵理	平成19年5月13日	(株)高砂家具 専務取締役
田村 祥祐	平成26年5月13日	田村薬品(有) 代表取締役
村崎 文彦	平成30年12月20日	(学)村崎学園 理事長
原井 俊典	平成31年4月1日	徳島文理大学短期大学部 教授
戸川 友美	令和3年5月13日	(学)村崎学園 広報企画監
村崎 和子	平成3年4月1日	徳島文理大学 教授
竹崎 克彦	平成22年5月13日	無職
茅田羅勝義	平成22年5月13日	徳島文理大学 教授
早雲 洋一	平成25年4月1日	(学)村崎学園 事務局長
中村 敏雄	平成31年4月18日	(学)村崎学園 経理部長
佐々木和昭	令和3年5月13日	徳島文理大学 教授

8. 教職員の概要

(1) 教職員数

（令和6年5月1日現在）

	法人本部	大学	短期大学部	その他	合計
本務教員	0	310	36	73	419
兼務教員	0	106	75	70	251
本務職員	1	117	11	9	138
兼務職員	0	37	10	0	47

（注）平均年齢は、本務教員 56.41 歳、本務職員51.35 歳です。

Ⅱ. 事業の概要

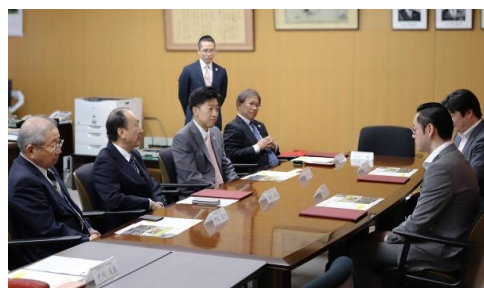
1. 令和6年度の主な事業

(1) 協定等

1) 主な協定書締結

① 徳島文理大学と株式会社東京リーガルマインドとの公務員試験対策に係る連携協定書

令和6(2024)年6月4日(火)、本学は、株式会社東京リーガルマインド(LEC)との公務員受験対策にかかる連携協定を締結した。本協定は、LECが公務員試験の傾向やその対策についてこれまでに培ってきたノウハウと大学教員の専門知識を活かしたより効果的で効率性の高い公務員受験対策の提供を目指すことを目的とする。



② 徳島県立城南高等学校と徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部との包括的連携協力に関する協定書

令和6(2024)年7月24日(水)、本学は、徳島県立城南高等学校と包括的連携協力に関する協定を締結した。本協定は、包括的連携のもと、教育内容の充実と生徒及び学生の資質向上を図るとともに、地域社会に貢献することを目的とする。



(2) 教育研究関係

1) 公的外部資金の獲得

令和6(2024)年度の公的外部資金の獲得は、文部科学省科学研究費6,188万円(42件)となり全国の採択私立大学590校中128位であった。また、環境省406万円(1件)があり獲得額は合計6,594万円となった。

2) 文部科学省の補助金の獲得

○私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)

文部科学省の私立大学等研究設備整備費等補助金(私立大学等研究設備等整備費)に「研究設備(香川キャンパス:理工学部:災害救助に適したAIドローンネットワーク研究設備)」が採択された。

補助金:574.2万円

○学校安全特別対策事業費補助金(学校における性被害防止対策に係る支援)

文部科学省の学校安全特別対策事業費補助金(学校における性被害防止対策に係る支援)に「徳島文理大学附属幼稚園」が採択された。

補助金合計:5万円

(3) 施設設備関係

1) 徳島キャンパス

- ① 令和6年8月 7号館食堂 洗浄室床 防水修繕工事を行った。
- ② 令和6年11月 21号館地下階 実験排水用配管の改修工事を行った。
- ③ 令和6年12月 14号館2階・3階の照明をLED化に更新改修工事を行った。

2) 香川キャンパス

①令和7年3月 高松駅キャンパスが完成し開学式を執り行った。

- ・設計・監理委託会社 株式会社教育施設研究所
- ・建物建築請負業者 西松建設株式会社 ・建物設備請負業者 株式会社四電工)



【令和7年4月開校 高松駅キャンパス】



【高松駅キャンパス 周辺マップ】

3) 徳島文理中学・高等学校の環境整備

施設改修工事

- ①令和6年4月 文理中高本館1階 天井・壁修繕工事を行った。
- ②令和6年12月 文理中高体育館屋上 防水修繕工事を行った。

4) 徳島文理小学校の環境整備

施設改修工事

- ①令和7年3月 小学校玄関ポーチ 床タイル修繕工事を行った。
- ②令和7年3月 小学校 特別教室をLED化に更新改修工事を行った。
- ③令和7年3月 小学校受水槽修理工事を行った。

(4) 国際交流

「中期計画・中期目標」に基づく「行動計画」にしたがって国際交流の推進に取り組んだ。行動計画では「留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ること」及び「留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備すること」の2項目に取り組んだ。

前者のうち、人の移動を伴う交流事業(短期の海外研修の派遣・受入、新規の交換留学生の派遣・受入)は、新型コロナウイルス感染症の5類相当移行を受けて、派遣・受入ともに本格的に再開している。ただし、留学生(正規生)については、入学者数5名(前年度10名、前々年度17名)の入学者に留まった。これは、国内の日本語学校の在学者数の減少と定員管理方法が変更になった結果、都市部大学に進学しやすい環境になったことが、留学生の確保にも影響を与えているためと推定される。

令和3年度から導入したオンラインによる海外研修や交流については引き続き計画・実施した。具体的には、令和6年8月には台湾の協定校中山医学大学との学生とのオンライン交流「オンライン台湾留学」を、令和6年9月には「SDGs オンライン海外研修」を行った。オンラインプログラム参加促進を図るため、令和5年度にオンライン国際交流プログラム参加支援金を新設し、有料プログラムについては、1万円の支援金を支給することとした。支援金導入2年目となった令和6年度については、12名の有料プログラム参加者があった。

さらに、令和6年度から看護学科・理学療法学科の中山医学大学との交流プログラムを新設した他、個人留学相談を強化する中で、単なる語学学習以外のスタディーツアーへの参加者も得られた。

後者(留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制の整備)については、令和5年度に導入を決定した、広東省外語芸術職業学院(3年制大学)の卒業年度の最後の半年を交換留学生として本学で学び、その間に同学科に編入学試験を経て編入学し、1.5年の在学後卒業するプログラムについて具体的制度を決定し同学院に募集を開始した。また、10月には留学生(交換留学生を含む)を主対象とした文化・史跡研究を企画し、徳島県美波町で行われた日和佐八幡宮の例大祭に1泊2日で参加した。



2. 教育研究の概要

(1) 名称及び教育研究上の目的

1) 大学院

自立協同の建学精神に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成することを目的とする。

研究科名	教育研究上の目的
薬学研究科 (4年課程)	医療薬学分野と基礎薬学分野を融合した教育・研究を通じて、高度な専門的知識・技術を修得し、医療人としての広い視野と能力、高い倫理観、並びに医療現場で提起される臨床的課題の解決に向けた優れた研究能力を有する指導的臨床薬剤師及び医薬品開発の中心的な役割を担える研究者を養成することを目的とする。
文学研究科	文学、言語学、考古学、歴史学、文化史学、地理学などの教授研究を行い、地域文化の継承と創造的発展に寄与しうる探求心と学問的客観性を体得した人材を養成することを目的とする。
工学研究科	システム制御工学及びナノ物質工学におけるより高度の専門学術の教授研究を行い、課題研究を遂行し、工学進展に寄与する研究者及び社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。
人間生活学研究科	人間生活学、食物学、生活環境情報学、児童学、心理学における各専門分野の深い学識と学際分野の幅広い知識を習得し、学芸の進歩に貢献できる創造性豊かな人材を養成することを目的とする。
看護学研究科	看護学における学術性及び高度な専門性を教授・探究し、先駆的な研究・教育・管理能力、卓越した看護実践能力をもつ人材を養成することを目的とする。
総合政策学研究科	法律、行政、経済、金融、企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

2) 専攻科

精深な程度において特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。

専攻科名	専攻	教育研究上の目的
音楽専攻科	器楽専攻 声楽専攻	音楽の領域に関する専門的な実技を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
人間生活学専攻科	人間生活学専攻 児童学専攻	生活科学及びその隣接領域の学問分野並びに児童学の分野を、精深な程度において教授研究し、社会の要請に応えられる人材を養成する。
助産学専攻科		周産期を担える専門職の実践教育を重視するとともに、助産学分野を精深な程度において教授研究し、女性のライフサイクルの総合的な助産ケアの能力を培った人材を養成する。

3) 大学

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成することを目的とする。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
人間生活学部	最先端の知識・技能を教授研究し、かつ人間と生活環境との共生を総合的・学際的に追究して、より豊かで幸せな人間生活の実現のために、広く社会貢献をなし得る人材の養成を目的とする。	人間生活学科	健康で安全・快適な人間生活の実現のため、人と生活について科学的、総合的な教授研究を行い、専門的知識・技能を持ち、地球社会に貢献できる自立した人間性豊かな人材を養成する。
		食物栄養学科	人々の健康を、食から支える栄養のスペシャリストとして、必要な専門的知識・技能を涵養し、社会に貢献できる他人に優しい管理栄養士・栄養士を養成する。
		児童学科	教育・保育に対する使命感、教育愛、倫理観に裏付けされた豊かな人間性を涵養するとともに、高度な専門的知識やすぐれた指導技術を学び、子どもたちと共感的に向かい合える総合的人間力を備えた指導者を養成する。
		メディアデザイン学科	デジタルデザイン技術を学び、インストラクショナルデザイナーに関する知識・技能を身につけ、さらに分析、企画、プロデュースする能力及びプレゼンテーション能力を備えた人材を養成する。
		建築デザイン学科	建築デザインに関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、快適で安全な住まい、美しい住環境を創ることをめざし、「建築デザイン」に関する基礎的、専門的な知識・技術を持った人間性豊かな人材を養成する。
		心理学科	心理学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、精神的危機をもたらす社会環境への適応に向けて、人間関係改善の相談支援並びに専門的サポートシステムの担い手となる人材を養成する。
音楽学部	音楽に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	音楽学科	音楽の領域に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、音楽の表現・鑑賞並びに音楽療法にかかわる専門的知識・技能を備え、文化の昂揚啓発に貢献する人材を養成する。
薬学部	薬学に関して深い知識・技能・態度をもつ有能な人材を養成するとともに、最高最新の科学を教授研究することを目的とする。	薬学科	薬剤師として必須の知識・技能・態度を習得するだけでなく、問題解決能力を有した薬剤師を養成する。
文学部	各時代の文学を通じ、日本文学・語学及び文化を精究し、英語を駆使できる国際人、先人が残した多様な文化遺産を現代に創造的に生かせる人材を養成することを目的とする。	日本文学科	古代から近現代に至る文学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、巨視的な観点を保ちつつ、その時代特有の思想や態度を精研するとともに、日本語学を体系的に学び、日本語の運用能力を身につけた人材を養成する。
		英米文化英米科	英米言語文化にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、英語の運用能力のスキルを高め、欧米の文化についての知識を幅広く獲得することにより、広く国際社会に貢献できる真の国際人を養成する。

文 学 部		文化財学科	先人が残した多様な文化遺産の調査・分析方法を教授研究し、専門技能・学識や探求心・実践力を身につけ、文化・歴史・風土に対する知識や感性を社会の創造・発展に向けて活用できる人材を養成する。
理 工 学 部	「創造力のあるもの創り」、「情報通信」、「環境・バイオテクノロジー」、「ナノテクノロジー・材料」、「ライフサイエンス」をキーワードとして、理学的・工学的基礎のうえに、専門的学術を教授研究し、科学技術の進歩に柔軟に適応できる能力を身につけ、豊かな社会を創造する技術者を養成することを目的とする。	機械創造工学科	機械設計に必要な基礎知識を教授し、産業の基盤技術である「もの創り」の理解を深め、手法を会得し、創造性豊かな技術者を養成する。
		電子情報工学科	電気・電子工学及び情報工学に関する学術を教授研究し、高度情報社会の発展に不可欠なコンピュータシステムを理解し、自由に使いこなせる能力を身につけた情報システム技術者を養成する。
		ナノ物質工学科	応用化学・応用生物学・光工学分野における無機・有機・高分子・複合材料等、ナノ材料の基礎を教授し、資源・環境問題を認識したグローバルな視点から新素材開発に取り組み、豊かつ高度なナノ構造解析機器と解析技術力を活用できる人材を養成する。
総合政策学部	法学・政治学・経済学・経営学・社会学など、社会科学の幅広い学問の教授研究を行い、広い視野を有するゼネラリストを養成することを目的とする。	総合政策学科	地域に立脚した総合政策を立案・推進する手法の総合的、学際的な教授研究を行い、複眼的志向を持つ問題解決型の人材を養成する。
香 川 薬 学 部	薬学に関する教育プログラムに基づき、薬の科学者としての技量・学識と医療倫理観を兼備した薬剤師及び探求心を有した薬の科学者を養成することを目的とする。	薬 学 科	基礎及び専門教育をとおして、薬にかかわる科学を教授研究し、病院・薬局での臨床実習をとおして、医療人としての自覚と技量を養い、探求心と人間性を兼備した質の高い薬剤師を養成する。
保 健 福 祉 学 部	医療・保健・福祉に関するすぐれた研究者及び専門的職業人等を養成し、社会の要請に応えられる人材を養成することを目的とする。	人間福祉学科	社会福祉学に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、社会福祉にかかわる幅広い専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、地域の要請に応えられる社会福祉士、精神保健福祉士を養成する。
		看護学科	医療・保健衛生・健康の分野にかかわる学術の総合的、学際的な教授研究を行い、保健衛生・健康にかかわる専門的知識・技能、豊かな人間性を兼ね備え、社会の要請に応えられる看護師、保健師、助産師を養成する。
		理学療法学科	生命を尊重し、人間の尊厳と権利に関する深い洞察力を持ちながら、健康と福祉の向上に貢献できる質の高い理学療法士を養成する。
		診療放射線科	放射線技術に関する諸科学・医学及び高度医療機器・設備等に精通し、チーム医療に貢献するとともに教育・行政、医療機器関係の企業等の諸分野において活躍できる診療放射線技師を養成する。
		臨床工学科	高度先端医療に対応できる工学的・医学的知識を教授研究し、臨床工学に係わる専門的知識・技能を身につけ、豊かな人間性を兼ね備え、高度先端医療に対応できる臨床工学技士を養成する。

学部名	各学部における教育研究上の目的	学科名	各学科における教育研究上の目的
保 健 福 祉 学 部		口 腔 保 健 学 科	人々の健康増進の担い手としての使命感を常に持ち、修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を、保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して十分に発揮できる、福祉マインドを持った専門性の高い歯科衛生士を養成する。

4) 短期大学部

教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健なる人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする。

学科名	教育研究上の目的	専攻	教育研究上の目的
生 活 科 学 科	生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身につけ、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成する。	生 活 科 学 専 攻	衣食住における「ものづくり」とおし、創造力、問題発見・解決能力を身につけ、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成する。
		食 物 専 攻	食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、食品科学技術認定証の資格を取得し、食のスペシャリストを養成する。
保 育 科	次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成する。		
言語コミュニケーション学 科	プレゼンテーション技術を身につけることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成する。		
音 楽 科	音楽学に関する学術を教授研究し、音楽にかかる専門的知識・技能、豊かな教養を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。		
商 科	ビジネスにかかわる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成する。		

(2) 教育研究上の基本となる組織並びに教員数

1) 大学院

教員数には助手、実験助手、副手を含む

令和6年5月1日現在

研究科名	専攻科名	課程	教員数
薬学研究科[4年制課程]	薬学専攻	博士課程	52(52)
文学研究科	地域文化専攻	博士前期課程	13(13)
		博士後期課程	9(9)
工学研究科	システム制御工学専攻	博士前期課程	12(12)
		博士後期課程	12(12)
	ナノ物質工学専攻	博士前期課程	9(9)
		博士後期課程	9(9)
人間生活学研究科	人間生活学専攻	博士後期課程	10(10)
	食物学専攻	博士前期課程	8(8)
	生活環境情報学専攻	博士前期課程	6(6)
	児童学専攻	博士前期課程	6(6)
	心理学専攻	博士前期課程	9(9)
看護学研究科	看護学専攻	博士前期課程	17(17)
		博士後期課程	12(12)
総合政策学研究科	総合政策学専攻	修士課程	14(14)

() 内は兼務

2) 専攻科

専攻科名	専攻	教員数
音楽専攻科	器楽専攻	9(9)
	声楽専攻	4(4)
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	8(8)
	児童学専攻	7(7)
助産学専攻科		5(2)

() 内は兼務

3) 大学

学部名	学科名	教員数
一般総合科目		18
人間生活学部	人間生活学科	7
	食物栄養学科	16
	児童学科	13
	メディアデザイン学科	6
	建築デザイン学科	6
	心理学科	12
音楽学部	音楽学科	10
薬学部	薬学科	48
文学部	日本文学科	7
	英語英米文化学科	6
	文化財学科	5
理工学部	機械創造工学科	9
	電子情報工学科	9
	ナノ物質工学科	9
総合政策学部	総合政策学科	17
香川薬学部	薬学科	34
保健福祉学部	人間福祉学科	12
	看護学科	26
	理学療法学科	14
	診療放射線学科	12
	臨床工学科	10
	口腔保健学科	8

4) 短期大学部

学科名	専攻	教員数
一般総合科目		3
生活科学科	生活科学専攻	4
	食物専攻	7
保育科		9
言語コミュニケーション学科		6
音楽科		4
商科		6

5) 専任教員数

職位	徳島文理大学	徳島文理大学 短期大学部
教授	159	15
准教授	76	14
講師	58	5
助教	15	2
助手	2	0
実験助手	7	2
副手	0	1
計	317	39

6) 教員1人当たりの学生数（ST比）

	ST比
徳島文理大学	11.6
徳島文理大学短期大学部	2.8

7) 研究所他

生薬研究所
比較文化研究所
健康科学研究所
未来科学研究所
神経科学研究所
臨床心理相談室

徳島文理高等学校
徳島文理中学校
徳島文理小学校
徳島文理大学附属幼稚園

8) 各教員の業績及び保有学位

本学のホームページをご参照ください。

<http://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/teacher/>

9) シラバス

本学のホームページをご参照ください。

<https://www.bunri-u.ac.jp/about/pub-info/edu-info/>

(3) 学生に関する情報

1) 入学者、在学者、卒業（修了）者等の状況

① 大学院

(令和6年5月1日現在)

研究科名	専攻科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
薬学研究科	薬学専攻（博士後期）	6	3	24	14	2	0	2
文学研究科	地域文化専攻（博士前期）	6	0	12	1	2	0	2
	地域文化専攻（博士後期）	3	0	9	0	0	0	0
工学研究科	システム制御工学専攻（博士前期）	8	8	16	16	6	0	6
	システム制御工学専攻（博士後期）	4	0	12	1	1	0	1
	ナノ物質工学専攻（博士前期）	8	1	16	3	1	0	1
	ナノ物質工学専攻（博士後期）	4	1	12	1	0	0	0
人間生活学研究科	人間生活学専攻（博士後期）	3	1	9	3	1	0	1
	食物学専攻（博士前期）	6	1	12	3	2	0	2
	生活環境情報学専攻（博士前期）	6	0	12	0	0	0	0
	児童学専攻（博士前期）	8	0	16	2	1	0	1
	心理学専攻（博士前期）	10	8	20	18	9	0	9
看護学研究科	看護学専攻（博士前期）	7	1	14	4	3	0	3
	看護学専攻（博士後期）	3	0	9	2	0	0	0
総合政策学研究科	総合政策学専攻（修士課程）	5	1	10	6	1	0	0

② 専攻科

(令和6年5月1日現在)

専攻科名	専攻	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	修了者数	進学者数	就職者数
音楽専攻科	器楽専攻	4	1	4	1	2	0	1
	声楽専攻	2	0	2	0	2	0	2
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	8	0	8	0	0	0	0
	児童学専攻	6	0	6	0	0	0	0
助産学専攻科		10	8	10	9	5	0	5

③ 大学

(令和6年5月1日現在)

学部名	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数	卒業者数	進学者数	就職者数
人間生活学部	人間生活学科	40	21	160	107	24	1	17
	食物栄養学科	90	45	360	187	60	0	54
	児童学科	100	24	400	183	74	1	68
	メテ ^ィ アテ ^ィ サ ^ィ イン学科	30	18	120	95	22	1	18
	建築テ ^ィ サ ^ィ イン学科	45	30	180	154	52	0	46
	心理学科	100	66	400	285	91	9	55
音楽学部	音楽学科	30	4	120	32	12	1	11
薬学部	薬学科	150	45	930	388	64	1	46
文学部	日本文学科	30	23	120	102	36	0	30
	英語英米文化学科	30	16	120	64	11	0	10
	文化財学科	30	19	120	92	29	0	26
理工学部	機械創造工学科	30	13	120	66	32	2	26
	電子情報工学科	40	51	160	185	48	7	35
	ナノ物質工学科	40	12	160	68	21	1	17
総合政策学部	総合政策学科	100	57	400	289	83	1	72
香川薬学部	薬学科	90	42	540	236	30	0	22
保健福祉学部	人間福祉学科	30	6	120	46	15	2	12
	看護学科	100	61	400	318	89	3	84
	理学療法学科	70	68	280	274	50	0	50
	診療放射線学科	60	65	240	277	52	0	37
	臨床工学科	45	21	180	125	32	1	25
	口腔保健学科	40	13	160	60	10	1	9

※ 2025（令和7）年度より入学定員を変更

経営学科(新設)80名、児童学科70名、心理学科80名、音楽学科20名、総合政策学科80名

④短期大学部

(令和6年5月1日現在)

学科名	専攻	入学定員	入学人数	収容定員	在学者数	卒業人数	進学者数	就職者数
生活科学科	生活科学専攻	40	5	80	19	11	1	10
	食物専攻	40	4	80	14	6	0	4
保育科		70	11	140	30	13	2	9
言語コミュニケーション学科		20	4	40	7	10	0	8
音楽科		20	1	40	1	4	0	3
商科		40	15	80	38	26	1	23

※ 2025（令和7）年度より入学定員を変更

生活科学科生活科学専攻20名、生活科学科食物専攻20名、保育科40名、言語コミュニケーション学科10名、音楽科10名

2) 社会人受入

(令和6年5月1日現在)

大 学	正 規 学 生	9
	科 目 等 履 修 生	3
	専 攻 科 生	2
短 期 大 学 部		0

3) 収容定員充足率

(令和6年5月1日現在)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
大 学	73.73%	71.69%	70.84%	68.14%	62.75%
短 期 大 学 部	38.70%	35.87%	33.26%	30.43%	23.70%

(4) 学修の成果に係る評価及び卒業及び修了の認定に当たっての基準

1) 単位の認定（履修要綱）

- ① 授業科目の単位は、授業時数の3分の2以上出席履修し、かつ試験に合格したときに認定される。試験は必ずしも筆記試験によらないで、演習成績、学修態度、報告書などをもってその全部又は一部に代えることができる。
- ② 授業科目の単位は、45時間の学修をもって1単位とする。ただし、この学修時間には教室外における自学自習も含めて計算する。その割合は授業形式によって異なり次のように定められている。したがって残余の時間は自宅、図書館等における自主学習にあてねばならない。
 - ・ 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ・ 実験・実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲内で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ・ 芸術等の分野における個人指導による実技の単位については、別に定めるところによる。

2) 成績評価（履修要綱）

- ① 各科目において毎学期末成績は、100点法によって評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。
 - ・ 学生に通知する場合の成績は100点法で示される。
 - ・ 学外に発行する成績証明書については、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とし、いずれも履修単位を認定する。59点以下は記載しない。
- ② 学修の成果を示す指標として、学期末に学生に通知する成績通知書に「当期f-GPA」「年間f-GPA」「累積f-GPA」を、学外に発行する成績証明書に「累積f-GPA」を記載する。

- ・ GP(グレード・ポイント)は次の計算式により算出する。

$$GP = (\text{各科目の成績評価の得点} - 55) / 10$$

- ・ f-GPAに算入する科目は卒業に必要な単位とする。

- ・ 「当期f-GPA」「年間f-GPA」「累積f-GPA」の算出方法は次のとおりとする。

評 語	得 点	GP
秀	90～100	3.5～4.5
優	80～89	2.5～3.4
良	70～79	1.5～2.4
可	60～69	0.5～1.4
不認定/再試	0～59	0
追試/保留/通年科目の途中評価	対象外	

$$\text{当期f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該学期に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該学期に履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{年間f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該年度に履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該年度に履修登録した科目の総単位数}}$$

$$\text{累積f-GPA} = \frac{\{ (\text{当該学期までに履修登録した科目のGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \} \text{の合計}}{\text{当該学期までに履修登録した科目の総単位数}}$$

3) 修了の認定に当たっての基準

① 研究科

研 究 科	専攻	課 程	修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数 (単位以上)		修得可能な学位 及び専攻分野の名称	備 考
					必修	選択		
薬 学 研 究 科	薬 学 専 攻	博士課程	4	34	16	18	博 士 (薬 学)	博士前期課程及び修士課程は、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。
文 学 研 究 科	地 域 文 化 専 攻	博士前期	2	32	0	32	修 士 (文 学)	
		博士後期	3	8	8	0	博 士 (文 学)	
工 学 研 究 科	システム制御工学専攻	博士前期	2	30	12	18	修 士 (工 学)	
		博士後期	3	8	0	8	博 士 (工 学)	
	ナノ物質工学専攻	博士前期	2	30	16	14	修 士 (工 学)	
		博士後期	3	8	8	0	博 士 (工 学)	
人 間 生 活 学 研 究 科	食 物 学 専 攻	博士前期	2	30	14	16	修 士 (食 物 学)	
	生活環境情報学専攻	博士前期	2	30	8	22	修 士 (生 活 環 境 情 報 学)	
	児 童 学 専 攻	博士前期	2	30	8	22	修 士 (児 童 学)	
	心 理 学 専 攻	博士前期	2	34	24	10	修 士 (心 理 学)	
看 護 学 科	看 護 学 専 攻	博士後期	3	10	0	10	博 士 (学 術)	
		博士前期	2	32	6	26	修 士 (看 護 学)	
総 合 政 策 学 研 究 科	総 合 政 策 学 専 攻	博士後期	3	18	12	6	博 士 (看 護 学)	
		修 士	2	30	10	20	修 士 (総 合 政 策 学)	

②専攻科

専攻科		修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数 (単位以上)	
				必修	選択
音 楽 専 攻 科	器 楽 専 攻	1	30	12	18
	声 楽 専 攻	1	30	26	4
人 間 生 活 学 専 攻 科	人 間 生 活 学 専 攻	1	30	6	24
	児 童 学 専 攻	1	30	10	20
助産学専攻科		1	36	36	0

4) 卒業の認定に当たっての基準

①大学

学部	学科	修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位 及び専攻分野の名称
				一般総合科目 (単位以上)		専門教科科目 (単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
人間生活学部	人 間 生 活 学 科	4	124	14	12	22	76	学 士 (人間生活学)
	食 物 栄 養 学 科	4	124	14	12	30	68	学 士 (食物栄養学)
	児 童 学 科	4	124	14	12	6	92	学 士 (児 童 学)
	メディアデザイン学科	4	124	14	12	8	90	学 士 (情 報)
	建築デザイン学科	4	124	14	12	44	54	学 士 (住 居 学)
	心 理 学 科	4	124	14	12	6	92	学 士 (心 理 学)
音 楽 学 部	音 楽 学 科							
	ピアノ・声楽・管弦 打楽器・音楽クリエイター &アーティストコース	4	124	14	12	38	60	学 士 (芸 術 学)
	音楽療法コース	4	124	14	12	44	54	
薬 学 部	薬 学 科	6	186	17	2	161	6	学 士 (薬 学)
文 学 部	日 本 文 学 科	4	124	14	12	28	70	学 士 (文 学)
	英語英米文化学科	4	124	14	12	26	72	学 士 (文 学)
	文 化 財 学 科	4	124	14	10	18	82	学 士 (文 学)
理 工 学 部	機械創造工学科	4	124	14	12	40	58	学 士 (工 学)
	電子情報工学科	4	124	14	12	41	57	学 士 (工 学)
	ナノ物質工学科	4	124	14	12	39	59	学 士 (理 工 学)
総合政策学部	総 合 政 策 学 科	4	124	14	12	14	84	学 士 (総合政策学)
香 川 薬 学 部	薬 学 科	6	186	13	6	163	4	学 士 (薬 学)
保 健 福 祉 学 部	人 間 福 祉 学 科	4	124	14	12	48	50	学 士 (社会福祉学)
	看 護 学 科	4	127	14	0	108	5	学 士 (看 護 学)
	理 学 療 法 学 科	4	124	14	0	109	1	学 士 (理学療法学)
	診療放射線学科	4	124	14	2	107	1	学 士 (放 射 線 学)
	臨 床 工 学 科	4	124	14	6	91	13	学 士 (臨床工学)
	口 腔 保 健 学 科	4	124	14	6	91	13	学 士 (口腔保健学)

②短期大学部

学科	専攻	修業 年限 (年)	必要修得 単位数 (単位以上)	科目区分ごとの修得単位数				修得可能な学位 及び専攻分野の名称
				一般総合科目 (単位以上)		専門教科科目 (単位以上)		
				必修	選択	必修	選択	
生 活 科 学 科	生 活 科 学 専 攻	2	62	8	0	2	52	短 期 大 学 士（生活科学）
	食 物 専 攻	2	62	8	0	36	18	短 期 大 学 士（食 物）
保 育 科		2	62	8	0	23	31	短 期 大 学 士（保 育）
言語コミュニケーション学科		2	62	8	0	4	50	短 期 大 学 士（言語文化）
音 楽 科		2	62	8	0	2	52	短 期 大 学 士（音 楽）
商 科		2	62	8	0	8	46	短 期 大 学 士（商 科）

(5)校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

1)徳島キャンパス

【学部等名】

大学院	専攻科	大学	短期大学部
薬学研究科 人間生活学研究科 看護学研究科 総合政策学研究科	音楽専攻科 人間生活学専攻科 助産学専攻科	人間生活学部 音楽学部 薬学部 総合政策学部 保健福祉学部	生活科学科 保育科 言語コミュニケーション学科 音楽科 商科

【所在地】

徳島県徳島市山城町西浜傍示180番地

【主な交通手段】

J R	徳島駅下車
スクールバス	スクールバス発着場から本学まで約15分
路線バス	JR徳島駅前から徳島市バス山城町行き「徳島文理大学前」下車徒歩1分
タクシー	JR徳島駅前から約10分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
1号館	管理棟・人間生活学部研究棟（調理室、実習室、実験室、共同機器センター、チャレンジラボ）、健康科学研究所
2号館	アカンサスホール（大講義堂）、保健センター、地域連携センター
3号館	保健福祉学部棟（看護学科実習室）
5号館	音楽学部棟、学園創立110周年記念むらさきホール（音楽ホール）、児童学科ピアノレッスン室
6号館	総合体育館（卓球場、柔・剣道場、トレーニングルーム、アリーナ）
7号館	研修センター、学生食堂、レストランパティオ、売店、部室
8号館	トレーニングセンター
9号館	人間生活学部棟
10号館	附属幼稚園、教育実習室
13号館	薬学部実験棟
14号館	文芸棟、給食経営管理実習室、保育科ピアノレッスン室
21号館	薬学部研究棟（NMR測定室、国際会議室、生薬研究所、ハイクレリサーチセンター、情報処理センター）
23号館	総合政策学部棟（プレゼンテーション室）
24号館	薬学部研究棟（機器分析センター、RI実験センター、電子顕微鏡室、共焦点レーザー顕微鏡室、動物実験センター）
25号館	メディアセンター（情報センター、学生部、就職支援部、全学共通教育センター、メディアラボ、語学センター、コンビニエンスストア）
図書館	村崎凡人記念室、ラーニングコモンズ、ブラウジングコーナー、A Vホール、グループ学習室、書庫、茶室
学生寮	寄宿舎
エネルギーセンター	省エネルギー発電装置
弓道場	弓道練習場
運動場	野球場、サッカー場
テニスコート	オムニコート
実習支援センター	臨地実習施設
クラブハウス	テニスコート、グラウンド利用学生専用

【課外活動の状況】

体育系クラブ （18部）	硬式テニス部、ソフトテニス部、バレーボール部（男・女）、バスケットボール部（男・女）、バドミントン部、卓球部、ダンス部、剣道部、弓道部、日本拳法部、空手道部、準硬式野球部、サッカー部（男・女）、フットサル部、陸上競技部
文化系クラブ （12部）	人形浄瑠璃部、HOT STAFF部、軽音楽部、コミックアート部、茶道部、写真部、将棋部、手話部'Friends'、箏曲部、和太鼓部'億'、BBS部、とくしま思春期ピアサークル部、
郷土芸能振興 （2団体）	エイサー団体'ニライカナイ'、徳島文理大学連（阿波踊り）
同好会・サークル （10部）	羽球同好会、籠球同好会、心理サークル'KOKORO'、ハンドベルクワイア、バレーボールサークル、薬学部テニスサークル、サッカー・フットサルサークル、地域防災研究会、中国語サークル談華、吹奏楽同好会

2) 香川キャンパス

【学部等名】

大学院	大学
文学研究科 工学研究科	文学部 理工学部 香川薬学部 保健福祉学部

【所在地】

香川県さぬき市志度1314-1

【主な交通手段】

J R	志度駅下車徒歩25分
路線バス	JR志度駅からさぬき市コミュニティバス小田線で「徳島文理大学」下車
タクシー	JR志度駅前から約5分

【主要施設】

施設名・号館	主要用途
3号館	管理棟
4号館	学生サポートセンター、(茶室、コンビニエンスストア、部室)
5号館	講義棟
6号館	研修センター(学生食堂)
7号館	中央研究棟(文学研究棟、比較文化研究所、保健センター、国際会議室)
8号館	講義棟(実習室)
9号館	体育館
10号館	理工学研究棟(中央機器室、未来科学研究所)
11号館	理工学部・保健福祉学部実習棟(実習工場、コンピュータ室、医工学シミュレーションセンター)
12号館	村崎サイメモリアルホール(音楽ホール)
13号館	講義棟
14号館	講義棟
15号館	保健福祉学部研究棟(X線CT室、MRI、メディカルシミュレーション室)
16号館	リサーチ アンド メディア ライブラリー(図書館、メディアセンター、語学センター、エネルギーセンター、110周年記念室)
17号館	理工学部・保健福祉学部研究棟
18号館	理工学研究棟(チャレンジラボ・中央機器室)
20号館	香川薬学部研究棟(中央機器室、実習室、神経科学研究所)
21号館	香川薬学部実習棟(実験動物研究施設、R I 実験施設、実習室)
運動場	野球場、サッカー場
テニスコート	オムニコート

【課外活動の状況】

体育系クラブ	弓道部、男女硬式テニス部、トレーニング部、男女ソフトテニス部、バスケットボール部、バドミントン部、総合競技部(陸上・水泳)、卓球部、バレーボール部、ダンス部、軟式野球部、フットサル部
文化系クラブ	軽音フリーミュージック部、茶道部、書道部、文芸部、パソコン・TRPG部、漫画研究部、レインボーの会(ボランティア)、ロボットクラブ、アニメ研究部
同好会・サークル	なし
愛好会	写真愛好会、二輪四輪愛好会、麻雀愛好会、家政愛好会

(6) 学生納付金に関すること

(単位：円)

	学部・研究科等名		入学金	授業料	施設設備 拡充費	実習 図書費	その他	合計
大学院	薬学研究科	博士課程	※2 200,000	600,000	※1 ※2 200,000	-	※3 ※4 37,300	1,037,300
	人間生活学研究科	博士前期課程	200,000	450,000	※1 200,000	-	※3 37,300	887,300
		博士後期課程	※2 200,000	450,000	※2 200,000	-	※4 37,300	887,300
	看護学研究科	博士前期課程	200,000	600,000	※1 200,000	-	※3 37,300	1,037,300
		博士後期課程	※2 200,000	600,000	※2 200,000	-	※4 37,300	1,037,300
	工学研究科	博士前期課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300
		博士後期課程	※2 200,000	500,000	※2 200,000	-	※4 37,300	937,300
専攻科	文学研究科	博士前期課程	200,000	300,000	※1 200,000	-	※3 37,300	737,300
		博士後期課程	※2 200,000	300,000	※2 200,000	-	※4 37,300	737,300
	総合政策学研究科	修士課程	200,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	937,300
大学	音楽専攻科		250,000	500,000	※1 200,000	-	※3 37,300	987,300
	人間生活学専攻科		200,000	400,000	※1 200,000	-	※3 37,300	837,300
	助産学専攻科		200,000	800,000	※1 300,000	200,000	※3 37,300	1,537,300
	薬学部	薬学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	人間生活学部	食物栄養学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		児童学科	280,000	670,000	200,000	100,000	89,300	1,339,300
		心理学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		メディアデザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		建築デザイン学科	280,000	670,000	200,000	120,000	89,300	1,359,300
		人間生活学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
	保健福祉学部	口腔保健学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		理学療法学科	280,000	850,000	300,000	200,000	37,300	1,667,300
		看護学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		人間福祉学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
	総合政策学部	総合政策学科	280,000	700,000	200,000	120,000	89,300	1,389,300
	音楽学部	音楽学科	300,000	1,110,000	500,000	170,000	37,300	2,117,300
	香川薬学部	薬学科	400,000	1,120,000	500,000	250,000	37,300	2,307,300
	保健福祉学部	診療放射線学科	280,000	920,000	300,000	200,000	37,300	1,737,300
		臨床工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	理工学部	ナノ物質工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		機械創造工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
		電子情報工学科	280,000	920,000	250,000	160,000	37,300	1,647,300
	文学部	文化財学科	280,000	670,000	200,000	120,000	37,300	1,307,300
		日本文学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
		英語英米文化学科	280,000	670,000	200,000	100,000	37,300	1,287,300
短大	商科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	言語コミュニケーション学科		200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	(生活科学専攻)	200,000	630,000	200,000	100,000	37,300	1,167,300
	生活科学科	(食物専攻)	200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	保育科		200,000	630,000	200,000	100,000	89,300	1,219,300
	音楽科		250,000	860,000	300,000	130,000	37,300	1,577,300

※1本学大学卒業生は免除

※2本学大学院博士前期課程・修士課程修了者は免除

※3本学大学卒業生は研修部入会金(1,000円)を免除

※4本学大学院博士前期課程・修士課程修了者研修部入会金(1,000円)を免除

○入学検定料は15,000～30,000円

○人間生活学部食物栄養学科・児童学科・メディアデザイン学科・建築デザイン学科及び総合政策学部総合政策学科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○短期大学部商科・生活科学科食物専攻及び保育科は学科特別費として、前・後期 各26,000円を納付する。

○学費等の金額は卒業年度まで据え置き

【入学手続き時に納める金額】

「入学金」と「学費（半期）」及び「その他の納付金」の合計となる。なお、納付された「入学金」は理由を問わず返還しない。

【入学手続き等における分割納入について】

公募制推薦入試Ⅰ・Ⅱ期及び大学入学共通テスト利用入試Ⅰ期については入学金と学費等の分割納入ができる。その他の入試区分では、一括納入を原則とする。

【学費等の転用について】

入学手続き完了後に、その後の入学試験で合格し、改めて入学手続きをする場合は、すでに納入されている入学金・学費のうち、入学金を除く入学手続き時納付金を、振り替えることができる。ただし、差額がある場合は、追加徴収する。
振替を希望する場合は、振替手続き書類にて行う。

【入学手続き完了後の入学辞退について】

本学への入学手続き（A 入学金納入、B 入学手続き書類提出、C 学費等納入）を完了した後に、入学を辞退する場合は、2024年3月31日（日）までに、本学が定める手続きにより申し出た場合に限り、入学金を除く納付金を返還する。学費等を納入しない場合、入学の意思がないものと判断するため、入学辞退手続きの必要はない。

(7)学生支援と奨学金に関すること

1)学生支援組織

項目	組織名	機能
就 職 支 援	就 職 支 援 部 就 職 支 援 委 員 会 教 員 養 成 対 策 室 全 学 共 通 教 育 セ ン タ ー	1.組織 本学では、創立以来「自立協同」の建学精神のもと、高度の知識技能を研究教授し、人格の陶冶を図り文化の創造と発展に貢献する人材を育成することを目指し、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしている。学生の就職支援については、学長を委員長に、各学部代表委員からなる就職支援委員会とインターンシップ推進委員会を連携軸に、各学部学科担任・チューターをはじめ、就職支援部、全学共通教育センター、教員養成対策室が連携し、全学を挙げての支援を行っている。 2.取組みの概要 本学では特色ある学科で取得した資格や知識を生かした就職に向けた支援を充実させるため、一般企業・公務員・教員に分けた支援を行い、全体をととした支援は就職支援部で実施している。 また、保護者に対しては、夏季休業中を中心に全国16カ所で開催の保護者会で担任及び就職支援部の就職相談を実施している。 採用活動のオンライン化にいち早く対応するなど、急激に変化する就職活動に即した柔軟な取り組みを推進している。 (1)一般企業対策支援 各種支援策を就職支援部が中心となって実施している。一人一人の学生のニーズや各学科の特質に対応するため、学科担当を決め入学時から継続したきめ細やかなサポートを行っている。この他、学生の就職先を中心に新たな企業も含めた事業所訪問・求人開拓等の支援を行っている。 また、卒業後も随時の就職相談に対応したり、卒業後1年間の学内就職支援システムの学外からの利用の便宜も図っている。 ○キャリア推進プログラム ・全学部の1年生全員を対象にキャリアガイダンスを実施。 ・インターンシップガイダンスによるインターンシップ参加の推進。 ・インターンシップ推進委員会による各学科におけるインターンシップ推進。 ○就職支援プログラム ・就職ガイダンス、独自作成の「就職活動の手引き」による学科別就職説明会を、卒業前年度の学生に対し年3回実施。採用活動の早期化に対応して2年生にも拡大して実施。 ・就職セミナーの実施(就活サイト登録と活用、インターンシップ対策、企業研究と就職情報の収集、就職活動のマナー、自己分析、自己PR文の作成、SPI・筆記試験対策、論文文対策、応募書類の書き方、面接試験対策、模擬面接演習、集団討論対策、企業説明会への参加、就活直前対策、後期スタートアップ講座、2年生対象キャリアガイダンス) ・就職試験の内容に対応した就職試験対策集中講座を年2回実施 ・就職常識・能力の模擬試験の実施、適性検査の実施 ・就職状況調査を年3回実施 ・就活ツアー(大阪)の実施と事前説明会の実施 ・学生と企業等との交流会の実施と事前説明会の実施 ・個別の企業説明会の実施 ・学内就職支援システム及び求人受付NAVIによる就職情報のインターネット提供 ・いつでも対応する個別面談による常時相談の実施と面接・マナー・書類添削指導、カウンセリング (2)公務員対策支援 全学共通教育センターが筆記試験対策として「公務員試験対策講座」を開講しており、香川キャンパスの学生もオンライン参加できるようになっている。また、就職支援部で公務員模擬試験の実施や各種公務員説明会の開催、公務員就職体験発表会等を行っている。 (3)教員・保育士対策支援 全学共通教育センターが採用試験対策のための「教員・幼保養成対策講座」や教職ガイダンス・各種セミナーを開講し、筆記試験や面接、模擬授業等の指導を行うとともに、模擬試験を実施している。また、多様化する採用試験についての情報提供や個別相談、面接や場面指導、模擬授業等の個別指導を随時行っている。さらに、次年度対策として、本学OBの現任教員や保育士を招いての「パネルディスカッション」や「教員・幼保合格体験発表会・交流会」を開催している。
アルバイト	学 生 支 援 課	アルバイトは学生にふさわしい職種を選び、学業に支障のないようにしている。 1.手続き アルバイト求人票でアルバイトの申込みがあれば、内容を検討して受け付け・掲示をし、学生に申込みをさせている。(派遣会社からの受付はしていない) 2.留意点 下記のようなアルバイトは禁止している。 ・身体的危険を伴うもの。 ・風俗営業に類するもの。 ・遊興の場所(パチンコ、ゲームセンター等)に類するもの。 ・学業に差し支える時間帯に及ぶもの。 ・その他学生として適当でないと思われるもの。

項目	組織名	機能
修 学 支 援	学生支援課	1.修学上の相談(履修相談等) 2.各種証明書発行
生 活 支 援		1.生活相談 2.事故対応 3.学生駐車場 4.下宿・アパートの相談・紹介
経 済 支 援		1.奨学金 2.授業料の分納・延納 3.アルバイトの紹介
課 外 活 動 支 援		1.クラブ・サークル活動 2.山城祭 3.賞罰
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動		1.情報発信(ボランティアパスポート含む) 2.企画
なんでも相談窓口	保 健 セ ン タ ー	1. 合理的配慮の提供等
保 健 ・ 衛 生		1.各種健康診断 2.健康相談 3.救急・応急処置 4.健康の保持増進及び予防啓発 5.健康診断書の発行 6.各種調査・報告 7.学研災・付帯賠償保険への加入および保険金請求
メ ン タ ル ス ヘ ル ス		1.精神疾患の相談 2.対人関係の相談 3.心理・性格の相談 4.修学上の相談 5.発達障害の相談 6.ハラスメント相談 7.保護者からの相談 8.学生に関する教職員の相談 9.専門機関への紹介

2)奨学金

種類	条件及び給付金額	申込み
村 崎 さい 奨 学 金	全学部・学科の本学学生で学費担当者の事故(死亡等)により修学困難となった学生で成績優秀にして学業継続の意志のある学生。当該年次1ヶ年の授業料相当額を給付する。	担任の奨学金給付申請書に本人の奨学金給付願、戸籍謄本、家庭の所得証明書を添付のうえ、学生支援課長に提出。
徳 島 文 理 大 学 就 学 奨 学 金	本学への入学、編入学生及び在学生で徳島文理大学提携教育ローンを利用している学生。申請年度より最短修学期間まで利息相当分(含む保証料)を奨学金として給付する。	保護者と連名して給付申請書を学生支援課長に提出。
創立130周年記念 徳 島 文 理 大 学 特 待 生 選 考 試 験 (薬学部・香川薬学部、音楽学部・短期大学部音楽科を除く)	本学に入学する学力優秀でかつ経済的要件を満たす志願者に対して、大学で80万円(4年間)、短期大学部で40万円(2年間)給付する。	一般入試Ⅰ期A日程出願時
薬学部・香川薬学部 特 待 生 選 考 試 験	薬学部・香川薬学部で入学試験の成績優秀者に対し、学費を減額する。Ⅰ型(6年間で810万円減免)、Ⅱ型(6年間で300万円減免)の2種類がある。	公募制推薦入試Ⅰ期出願時 一般入試Ⅰ期A日程出願時 大学入学共通テスト利用入試出願時
兄 弟 姉 妹 在 籍 入 学 サ ポ ー ト	新年度入学生(大学・短期大学部)で、本学の大学及び短期大学部に兄弟姉妹が在籍している者に対して、入学後に10万円を給付する。 兄弟姉妹の同時入学者も対象。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課長に提出。
ス ポ ー ツ ・ 音 楽 特 待 生	スポーツ・音楽特待生の入学者に対して、大学で100万円(4年間)、短期大学部で50万円(2年間)を上限として給付する。	スポーツ・音楽特待生の入学者が対象、学園本部入試事務局へ提出
短 期 大 学 部 専 願 入 試 入 学 サ ポ ー ト	短期大学部の専願(総合型選抜、指定校制推薦、資格利用)入試の入学者に対して、入学後に10万円を給付する。	合格通知受取後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。
ア カ ン サ ス 会 奨 学 金	本学卒業生で、アカンサス会員(本学同窓会会員)のお子様に対して、入学後に10万円を給付する。	入学後に所定の申請書を添付のうえ、学生支援課に提出。
「ミライのわたし」予 約型応援奨学金	本学での学びに強い意欲を持ち、「自立協同」の建学精神に基づき「ミライのわたし」の実現をめざす学生を応援する制度。大学は80万円(4年間)、短期大学部は40万円(2年間)を給付する。	総合型選抜入試Ⅰ期のエントリー時に「ミライのわたし」設計シートを提出し入試面接を受け内定した者で、入学手続きを行った者が対象。

3. 3 ポリシー

(1) 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の教育課程において、厳格な成績評価のもと、所定の単位を修得し、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ①「自立協同」の精神を基本に、幅広い教養と専門的知識を身につけ、健全な価値観と倫理観をもった良き市民として、幸せな人生を追求することができること。
- ②修得した知識と技能を活用しながら他者と議論し、問題の解決に取り組み、それを評価して次の思考と行動に活かしていくことができること。
- ③新しい知識や経験に関心をもつとともに、立案した企画について、目的達成を目指し、家庭・地域・社会における協働を通じ、実践していくことができること。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻		医療の高度化により、医療現場における本博士課程修了者の活躍の場は広く、本研究科独自の研究に基づく専門教育システムの成果である高度な知識と問題解決能力を生かし、医薬品の研究・開発など製薬企業や関連業界で活躍する専門家となることが期待されます。例として、高度な専門的技量を備えた指導的役割を果たせる薬剤師、地域医療の先導的役割を担う薬剤師、治験コーディネーター、薬学分野の大学教員、製薬企業の医薬品研究・開発従事者及び創薬研究者、食品・栄養関連分野の研究者・教育者となることなどが挙げられます。
文学研究科	地域文化専攻	歴史学、地理学、国語学、英語学、日本文学、英文学などの専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を体得している。	左記専攻分野について、研究活動を行うことができる高度な研究能力及びその基礎となる学問的客観性を養い、学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうる豊かな学識を体得している。
工学研究科	システム制御工学専攻	1.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の分野において、問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として取り組むことの必要性・重要性が十分に体得できるようになる。 2. 科学や技術が社会に及ぼす影響を理解しつつ、身につけた問題解決能力を通じて社会の発展に貢献できるようになる。	1.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の複合分野における高度な専門知識を持ち、その分野の研究結果を正確に評価理解できるようになる。 2.「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」、「制御工学」、「システム工学」の複合分野において、独創的な技術を創出することができるようになる。
	ナノ物質工学専攻	1. ナノ物質工学に対する基礎知識を背景に、ナノ物質工学の最先端の成果を理解できるようになる。 2. ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し、その内容を論理的に検討・説明できるようになる。 3. ナノ物質工学の諸課題を抽出分析し、自立協同の精神のもとに身につけた問題解決能力により、高度な技術者として社会に貢献できるようになる。	1. ナノ物質工学の高度な専門知識を持ち、最先端の研究結果を正確に評価理解できるようになる。 2. ナノ物質工学の諸課題を積極的に見出し、的確に対処し、解決法を粘り強く探求できるようになる。 3. ナノ物質工学の最先端の課題を抽出分析し、新しい考えに基づいて、技術を創出できるようになる。
人間生活学研究科	人間生活学専攻		1. 人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の専門分野において博士の学位を取得できる研究者であることを、学識と能力と研究成果の発表により証明することができる。 2. 自立して研究活動を行い、創造性豊かな研究を成就し、専門分野において社会に貢献することができる。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻（臨床心理学コース）	1. 人間生活学（食物学・生活環境情報学・児童学・心理学）に関する学術的理論と応用を深く究め、学位を取得するに足る研究能力及び実践力をそなえている。 2. 人間生活学の高度な専門知識と問題解決能力を生かし、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することができる。	

看護学研究科	看護学専攻	看護学研究科に所定の期間在学し、本研究科の開設科目を履修して修了要件単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて高度な看護実践者、看護教育者、看護管理者として従事するために必要な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を身につけ、修士論文の審査及び最終試験に合格した者に学位、修士（看護学）を授与する。	専攻分野（各自の研究課題）について基準となる単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けて研究者として自律して研究活動を行い、同時に高度な看護研究者・教育者・管理者、高度看護専門職の指導者として従事するために必要な研究能力及びその基礎となる哲学的基盤となる豊かな学識をそなえ、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、博士（看護学）を授与する。
総合政策学研究科	総合政策学専攻	総合政策学研究科は、以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身につけていると判断したときに、「修士（総合政策学）」の学位を授与する。 【知識】 複雑化・多様化する地域社会の問題を、学際的かつ総合的な視点に立って理解し、問題の原因が分析できるようになる。 【技能】 その分析結果を用いて、問題の本質を見抜き、問題解決策を具体的な政策案として立案できるようになる。その政策案を実施する組織において、政策案を記述し、関係者を説得し、意思決定者に助言し、最適な方法を実装又は実施できる。 【姿勢】 常に、地域や組織に課せられた課題を認識し、解決策に向けて行動できる。	

【専攻科】

音楽専攻科		音楽専攻科の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に修了証書を授与します。 〔器楽専攻器楽コース・声楽専攻〕 1. 学部教育の基礎に立ち、より高度で専門的な音楽の歴史、理論、様式、体系を総合的に理解し、身につけている。【知識・理解】 2. 上記の専門的知識と理解により、さらに高度で実践的な演奏能力、創作能力を身につけている。【思考・判断】【技能・表現】 3. 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、リーダーシップや協調性、社会性を身につけ、社会で求められる様々なニーズに応えることができる。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 4. 深い教養を身につけ、演奏、音楽教育、創作活動など地域社会、国際社会における様々な音楽活動に能動的に参画することができる能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】 〔器楽専攻音楽療法コース〕 1. 人々の健康と幸せのために、理論、実践、研究を結び合わせた“Best Practice” が実践できる音楽療法士である。【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲・態度】 2. 地域（Local）のヘルスケアニーズに気づき、世界基準（Global）の音楽療法の知識を生かして、問題の解決にあたる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】 3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、高度なレベルで、学際チームの一員として他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】 4. 自分自身の教育の続行のために、また社会での音楽療法の普及のため日々の実践や過去の研究からテーマを選定し、音楽療法研究をおこなう能力を身につけている。【知識・理解】【思考・判断】【関心・意欲・態度】
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	1. 各専門分野において、自らの研究課題に対する研究方法や、実践方法等を身につけているとともに、専修免許状の取得に相応しい専門的知識や、教育的実践力が培われていること。 2. 食・衣・住・養護・教育の分野にわたる専門的知見のもとに、より高い人間生活向上のための探究心、応用力、創造力があること。 3. 望ましい教員、社会人に必要なコミュニケーション能力を身につけ、自己表現できること。 4. 建学の精神を会得し、豊かな人間性、倫理観、使命感をもって、主体的に社会貢献できること。
	児童学専攻	児童学専攻では、以下の4つの観点に示された事項を修得したと判断されると、小学校教諭と幼稚園教諭の専修免許状を授与します。 【知識・理解】 児童学・保育学分野の知識・理解に基づき、教育・保育活動が科学的に実践できる。 【思考・判断】 科学的・合理的な思考ができ、子どもと円満なコミュニケーションを構築できる。 【技能・表現】 多様な教育・保育技術を身につけ、身体的並びに言語的な表現が豊かにできる。 【関心・意欲・態度】 児童に関わる諸問題（貧困、虐待等）を深く理解し、チーム力で解決しようとする。
助産学専攻科		1. 妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア、正常からの逸脱の診断及びケアができる。 2. リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。 3. 思いやりを大切にし、助産師としての自覚と倫理感性を磨き、対象者ひとりひとりを尊重し、自らの役割と責任を果たすことができる。 4. 専門職業人として継続して学び続けることができる。

【大学】

■人間生活学部

多様な6学科から構成されており、人々の生活に欠かせない食・衣・住に加えて、教育、心理、さらには高度化する情報化社会などについて総合的かつ専門的に学ぶとともに、現代社会が抱える様々な課題に柔軟に対応し、21世紀の豊かな生活を切り開いていく能力・資格を身につけることを目指します。	
人間生活学科	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 1. 衣食住や保健に関する最新技術・知識、柔軟な思考力を持った専門性を身につけ、健康で安全・快適な人間生活の実現に向けて寄与することができる。 2. 免許や多様な資格の取得を通して、幅広い知識と豊かな教養を身につけ、自他の幸せな人生を創造することができる。 【関心・意欲・態度】 3. 地域の課題に関心を持ち、その解決に向けて情報発信力や他者と協働する力を働かせ、地域社会の発展に貢献しようとすることができる。
食物栄養学科	【技能・知識】 1. 健康の専門家として、生体内で起こっていることを説明することができる。 【技能・知識】 2. 食の専門家として、食品の3機能や加工法、安全性について説明することができる。 【思考・判断】 【関心・意欲・態度】 3. 管理栄養士として、地域集団の健康増進や疾病予防に貢献したいという意志を持ち、かつ実践できる。 【技能・知識】 【関心・意欲・態度】 4. 管理栄養士として、疾病予防および健康増進のための適切な栄養アセスメントと栄養マネジメントを実践するために必要な基礎・専門分野の知識を修得している。 【関心・意欲・態度】 【技能・知識】 5. 管理栄養士として他職種と連携し、保健・医療の分野に携わることができる。 【関心・意欲・態度】 【技能・知識】 6. 管理栄養士として他職種と連携し、給食・福祉・教育などの分野に携わることができる。 【思考・判断】 【技能・知識】 【関心・意欲・態度】 7. 栄養の専門家として健康を増進するために、個人の行動の変容を起こすことができる。 【思考・判断】 【関心・意欲・態度】 8. 専門職業人として常に科学の進歩に対応できるよう、生涯学び続ける意志を持っている。
児童学科	【知識・理解】 1. 人間の成長・発達に関する幅広い教養を修得している。 【知識・理解】 2. 教育・保育制度を知り、小学校・幼稚園・保育所等の意義と役割を理解している。 【思考・判断】 3. 物事を科学的・論理的に思考し、判断して、真理を主体的に追究することができる。 【思考・判断】 4. 柔軟な思考力と判断力を持ち、他者と協働しながら常に学び続ける向上心がある。 【興味・関心・態度】 5. 常に新しい知識や技能の修得に関心をもち、変化する社会に対応できる自己教育力がある。 【技能・表現】 6. 教育・保育の内容や諸課題に対して、創意工夫し、問題を解決していく技能を身につけている。地域の保護者に対する支援活動のあり方や、地域の専門機関との連携方法を把握している。
メディアデザイン学科	【知識・理解】 1. 情報通信技術を活用し、現代社会のさまざまな問題解決のために企画立案・実践を行うことができる。 【関心・意欲】 2. 現代社会が抱える問題について、情報通信技術を用いて分析する能力を生かし、積極的に情報発信することで社会に貢献できる。 【思考・判断】 3. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、的確な分析力を基に思考・判断を行うことができる。 【態度】 4. 専門的職業人としての責任感、指導力及びコミュニケーション能力を身につけ、適切な行動ができる。 【技能・表現】 5. 学科で定めた基本4領域（情報領域・データサイエンス領域・コンテンツ領域・共通領域）に関する技能を修得しており、問題解決の手段を「デザイン」することができる。
建築デザイン学科	【知識・理解】 1. 建築計画を進めるための基本的な知識や、歴史・文化などが修得でき、また建築を構成する素材や構造形式、さらには力学的な知識を応用展開することができる。 2. 建築設備や建築を取り巻く環境について、経済性、機能性などの幅広く知識を得ることができる。 【技術・技能】 3. 専門的な知識において、製図など具体的な形にするための技術や技能、应用能力を身につけ、美しく機能的に創造する能力を身につけることができる。 【技術・技能】 4. 建築構造・設備を表現し、構造計算、材料試験、また測量などの技術・技能などを修得し、専門知識とその実应用能力および科目を通じて物事の問題解決の手法を身につけることができる。 【態度】 5. 工事現場の見学や実務担当者との交流により、実社会をより実践的な教育ができることや、他学科・自治体などとの融合の教育が実践でき、責任感や協調性を身につけて、是非の判断ができるようになる。 【表現】 6. 研究発表・プレゼンテーションなどを行うことにより、より自分を表現でき、コミュニケーション能力を身につけることができる。またリーダーシップを発揮でき協働できる人間性が備えられる。 7. 建築高度情報化に対応するようになり、他者へ提案・説明ができ、社会に奉仕ができるようになる。また、かたちや色彩の効果的なデザインについての能力、さらにはデジタル化とその活用能力が身につけられる。

心理学科	【知識・理解】 1. 心理学の専門家として、必要な基本的知識を修得し、社会の多様な心の問題に対して、心理学の専門的知識に基づいて、多面的で柔軟な理解ができる。 【思考・判断】 2. 心理学の専門家として、心の問題・課題について実証的なデータに基づいて科学的に思考するとともに、他者への共感的理解に基づいた判断をすることができる。 【関心・意欲・態度】 3. 心理学の専門家として、社会から寄せられる多様なニーズを敏感に読み解き、積極的に専門的知識を活かそうと努力し、科学的で冷静な判断と他者への思いやり・共感的な理解とのバランスをとることができる。 【技能・表現】 4. 心理学の専門家として、実証的なデータを用いた研究、心理テスト等を用いたアセスメント、エビデンスに基づき各種心理療法等を用いた介入を実施することができ、かつそれらを分かりやすく他者に対して説明することができる。
------	--

■音楽学部

本学部の教育課程において、厳格な成績評価のもと所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

〔ピアノコース・声楽コース・管弦打楽器コース・音楽クリエイター&アーティストコース〕

1. 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】
 2. 上記1に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】【技能・表現】
 3. 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】
 4. 専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、演奏家、教育者など様々な音楽分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技能・表現】
- 〔音楽療法コース〕
1. 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】【関心・意欲・態度】
 2. 世界基準（Global）の音楽療法を学び、地域（Local）のヘルスケアニーズに応えられる“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】【技能・表現】
 3. 音楽療法の独自性とその効果を生かしつつ、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】【関心・意欲・態度】
 4. 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラピーの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】【関心・意欲・態度】

■薬学部

「自立協同」の精神のもと、科学的根拠に基づいた創造的思考により人類社会の抱える様々な薬学的課題の解決に取り組み、医療・福祉・公衆衛生を実践できる能力を有する人材を育成する。定められた教育課程を修めて所定の単位を修得し、下記の基本的な資質・能力を身につけた者に学士（薬学）を授与する。

1. プロフェッショナリズム
 - 1) 薬剤師として必要な豊かな人間性と倫理観、医療・福祉・公衆衛生に貢献する精神を備えている。
 - 2) 薬剤師に関わる法規範を理解し、職務を果たすための責任感を備えている。
2. 専門的知識
 - 1) 物理・化学・生物系に関する基礎薬学の知識と技術を修得している。
 - 2) 基礎薬学の知識を基盤とした薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤に関する医療薬学の知識と技術を修得している。
 - 3) 基礎薬学と医療薬学の知識を基盤とした衛生・公衆衛生に関する衛生薬学の知識と技術を修得している。
 - 4) 基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識を基盤とした医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケアのいずれかに関する専門知識と技術を修得している。
3. 情報・科学技術活用能力
 - 1) 保健医療に関する統計情報・データから医療における課題を的確に見出し、その対応策を立案することができる。
 - 2) 医療や科学に関するデータベースから医薬品情報や薬学的課題に関する文献情報を収集・解析し、その結果を適切に活用することができる。
4. コミュニケーション・多職種連携能力
 - 1) 患者や医療人の言動をその文脈を踏まえて理解することができ、共感的なコミュニケーションをとることができる。
 - 2) 地域医療やチーム医療に関連する多様な職種と信頼関係を構築し、連携・協同して医療を実践する意欲を備えている。
5. 科学的探究力
 - 1) 最先端の薬学に関する学術論文を読解し、その内容について評価することができる。
 - 2) 薬学的課題の解決に向けて、科学的根拠に基づいた創造的思考により課題に取り組む探究心（研究マインド）を備えている。
 - 3) 自ら行った研究成果を解析・理解するとともに、学術的な報告・発表とこれに基づいた討論を行うことができる。
 - 4) 最先端の薬学・医療を生涯にわたって学修することの重要性について説明できる。
6. 社会貢献力
 - 1) 患者や生活者の身体的・社会的背景を総合的に把握して、医療・福祉・公衆衛生を実践する意欲を備えている。
 - 2) 社会における医療のあり方について、地域社会から国際社会にわたる幅広い視野に立って理解することができる。
 - 3) 社会における環境・衛生上の問題について、科学的知見に基づいた解決策を立案することができる。
7. 薬物治療実践能力
 - 1) 医療薬学を基盤とした薬物治療を実践するために必要な知識を修得している。
 - 2) 薬物治療における具体的な症例や事例の問題点に対し、その改善や解決策を立案することができる。

伝統文化の上に立ち、国際化の時代を生きる人間として必要な考察力を身につけ、あわせて情報化社会に適応した取捨選択能力を獲得することで、文学や文化遺産を創造的に生かす人材となることを目的とします。

■理工学部

本学部は、本学部の教育課程を経て、学士としての一般的な教養、理学と工学に関する基礎的知識、各学科の専門科目に関する【知識・理解】、【関心・意欲】、【思考・判断】、【態度】、【技術・表現】を修得しておくことを求めています。

- 30 -

■総合政策学部

総合政策学部は、以下のような「知識」「技能」「姿勢」が身につけていると判断したときに、学士（総合政策学）を授与します。	
【知識】	法学・政治学・経済学・経営学・社会学など社会科学の幅広い学問の知識の中核をなす原則的な知識について十分に理解していること。またその知識を応用し、社会問題の解決のための対策案を考案できること。
	【技能】
	1. 聴く。社会問題の解決策を立案するために、自分より専門性の高い人材の意見を聴き、必要な情報を得る技能をもっている。
	2. 表現する。自分の問題意識、解決策の思考過程、解決案を組織の人々に理解されるよう表現することができる技能を有している。
【姿勢】	3. 説明する。自らが考案した問題解決策を組織の人々に説明し、同意をえるよう説得するコミュニケーション力を有している。
	常に、社会における問題、組織の抱える問題を発見できるよう行動する。社会における多様な価値観や個人の差異を理解し、問題発見のきっかけを見逃さないよう行動する。問題解決に向けて努力を惜しまないで行動する。

■香川薬学部

教育理念に基づいた学修の成果として所定の単位を修得し、以下に示す能力を備えた学生に「学士（薬学）」の学位を授与する。	
1. 医療人としてふさわしい豊かな人間性と使命の尊厳に関する深い認識をもち、高い倫理観と使命感を身につけている。 2. 患者や生活者を全人的、総合的に捉えて、一人ひとりに寄り添う姿勢を身につけている。 3. 自己研鑽と共に教え合いながら、自ら到達すべき目標に向かって学ぶ姿勢を身につけている。 4. 薬学的視点から課題を的確に見出し、その解決に向けて科学的探究を計画・実践する能力を身につけている。 5. 薬のスペシャリストとして化学物質と生命や環境に関する専門的知識と技能を習得し、これらを統合的に活用する能力を身につけている。 6. 先端技術に関心を持ち、専門性を活かし、倫理・法律等を遵守して、情報・科学技術を活用・可視化する能力を身につけている。 7. 薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、医薬品の適正使用を推進する能力と、医薬品の供給、調剤、服薬指導、処方提案等の患者本位の薬学的管理を実践する能力を身につけている。 8. 患者や生活者の意思決定を支援するために、患者や生活者、医療者と良好なコミュニケーションをとり、的確かつ円滑に情報を共有・交換する能力を身につけている。 9. 患者や生活者中心の医療・福祉・公衆衛生を実践するために、関係する多職種と互いの役割を理解し、連携・協働する能力を身につけている。 10. 地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、人々の健康の維持・増進、質の高い医療、公衆衛生の向上に貢献する意欲を身につけている。	

■保健福祉学部

人間福祉学科、看護学科、理学療法学科、診療放射線学科、臨床工学科、口腔保健学科より構成されている。 ・4年の課程を修了して、卒業に必要な単位数を修得する。 ・生命に対し深い畏敬の念を抱き、豊かな人間性と良識を持つ。 ・保健、医療あるいは福祉の専門家として必要な論理的思考、問題解決能力、協調性、コミュニケーション能力を身につけている。	
人間福祉学科	【知識・理解】 人々の生活の質を向上させるための知識を有し、人間と社会について多角的な視野から理解を深めることができる。 【技能・表現】 他者の価値観を理解するとともに、自らの考えを他者に示すことができる。 【思考・判断】 様々な福祉課題を多角的な視点から分析することができる。 【関心・意欲・態度】 様々な福祉課題を持つ人びとに共感し、専門的技術を身につけ、課題の解決に取り組むことができる。
看護学科	【知識・理解】 1. 看護の基盤となる幅広い教養を修得している。 2. 看護の基盤となる人の健康と健康障害に関する知識を修得している。 3. 看護の目的や理念の理解のもと、看護専門分野の学問内容を修得している。 4. 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割、及び他職種の役割を理解している。 【思考・判断】 1. 科学的根拠に基づき計画的に看護を提供する思考を身につけている。 2. あらゆる対象と健康レベルに対し、論理的な思考に基づき判断することができる。 【興味・関心・態度】 1. 人間を愛し生命に対する畏敬の念を抱き、看護専門職者として倫理観が定着している。 2. 看護専門職者として自己の責務を自覚している。 3. 看護の向上とともに、地域社会の発展に寄与しようとしている。 4. 看護専門職者として、生涯にわたり自律して学び続け、専門的能力を向上させようと自覚している。 【技能・表現】 1. 科学的根拠に基づいた技能を対象特性に応じて提供できる。 2. あらゆる対象と健康レベルに対応できる基本的技能を身につけている。 3. 看護専門職者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。 4. 保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働できる基本的技能を身につけている。

理学療法学科	【知識・理解】 リハビリテーション（理学療法）の専門家として必要な基本的知識を修得している。また、健康と障がいに関する知識、情報収集の手段を修得している。更に、最新の知識に対する関心とその情報収集を心掛けることができる。 【汎用的技能】 高度で多様化するリハビリテーション（理学療法）に対応するための基本的な技能（技術）を修得している。また、その技能（技術）を一般の人たち、関連する分野の人たちに、的確に、分かり易く伝達することができる。更に、最新の知識（技術）の修得のために、その技能（技術）を活かすことができる。 【態度・指向性】 理学療法（士）に関する基本的な「理念（ideology）」と「哲学（philosophy）」を思考している。また、論理的思考、問題解決能力、協調性及びコミュニケーション（意思疎通）能力を身につけている。更に、健康に関わる専門職（allied health profession）として「根拠に基づく理学療法（evidence based physical therapy, EBPT）」を思考することができる。このような観点から生涯を通して学習に対する意欲を継続的に持ち続けることができる。
診療放射線学科	【知識・理解】 1. 診療放射線技師として、豊かな人間性と良識・学識を持つ医療人になるために必要な基礎学力を養う。 2. 放射線診療を実施するために必要とする人体解剖・生理学・倫理学などの基礎的な基本知識を学ぶ。 【関心・意欲・態度】 1. 医療で利用される診療用放射線に関する基礎的な専門知識・法令等を習得する。 2. 優れた診療放射線技術を応用して、患者に安全に放射線診療を実行し、画像診断に貢献できるように学習する。 【技能】 診療放射線技師として必要とする工学的な専門知識を習得し、医療用X線画像の生成過程を習得する。 【思考】 診療放射線技師として、臨床で必要とする実践能力を習得し、チーム医療としての協働活動に、責任感と使命感を持って参加できるようになる。 【判断】 診療放射線を利用して人体を画像化する各モダリティの基本原則を理解して、画像診断の補助ができるように体得する。
臨床工学科	【知識・理解】 1. 医療機器の専門家としての安全かつ質の高い医療を遂行できる臨床工学の基礎知識を修得している。 【関心・意欲】 2. 医療の進歩に対応できる課題発見能力・問題解決能力を修得し、生涯にわたって学習を継続する意欲を保ち、医療の発展に寄与できる。 【思考・判断】 3. 高い倫理観、豊かな人間性とコミュニケーション能力を有し、医療人としての的確な判断を行うことができる。 4. 対象となる人体や機器の様々な現象を多様な情報から科学的に評価するとともに総合的な判断を下し、行動することができる。 【態度】 5. 専門的職業人としての責任感、指導力、及び、多世代にわたる対人関係能力を身につけ、医療人として適切な行動ができる。 6. 科学の進歩及び社会の医療ニーズの変化に対応し、患者の立場に立った医療を推進できる。 【技能・表現】 7. 自立協同の精神を理解し、チーム医療の一員として主体的に行動することができる。 8. 医療人としての自覚や責任と幅広い知識を背景として臨床工学の役割を正しく理解し、表現することができる。
口腔保健学科	【知識・理解】 1. 人の健康及び口腔の健康に関する基本的な知識をベースとし、口腔保健に関する幅広い専門知識を修得している。 2. 各ライフステージにおける健康基盤形成、疾病・介護予防及び介護などを、口腔保健と関連付けた知識として理解・修得している。 3. 地域の医療・保健・福祉システムにおける多職種連携の意義及び口腔保健の専門職として自らの果たすべき役割を理解している。 【技能】 1. 歯科衛生士の3大業務である歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導に関する基本的な技能を確実に修得している。 2. 高度で多様化する歯科診療における診療補助ならびに周術期の患者や要介護高齢者など特別な配慮を必要とする患者に対する専門的口腔ケアが実践できる。 【思考・判断】 1. 適切な思考・判断力に裏付けられた問題発見及び問題解決能力を備え、科学的根拠に基づいた計画的な口腔保健業務を担うことができる。 2. 歯科疾患の予防と食（咀嚼・嚥下）の支援を通じて、口腔の健康を全身の健康につなぐ視点を常に有している。 【態度・意欲】 1. 人を尊重し、他者を思いやる心を常に持ち、医療専門職の一員としての自覚と倫理観が身についている。 2. 生涯にわたって学ぶ姿勢を持ち続け、口腔保健に関する新発見や情報を的確に選別・収集し、自らの専門業務に反映させることができる。

【短期大学部】

生活科学科	生活科学専攻	【知識・理解】 - 生活に関する基礎知識を学び幅広い視野を身につけている。 - 生活に必要な「ものづくり」知識と、企業や社会で求められる「ものづくり」知識を身につけている。 【技能・表現】 - 身につけた「ものづくり」の知識・技能を活用し、表現することができる。 【思考・判断】 - 独創性のある発想を生み出す努力ができる。 【関心・意欲・態度】 - 目標を実現するための計画を立て主体的に行動することができる。 - 他者と協力し合って目標に向かって取り組むことができる。
	食物専攻	【知識・理解】 - 栄養と健康と食に関わる基礎及び専門分野の知識を獲得している。 【技能・表現】 - ひとびとの健康管理に携わる技術を修得し、栄養士・食のスペシャリストとしての実践力や表現力を身につけている。 【思考・判断】 - 修得した知識や技能をもとに思考・判断を行い、課題発見・解決をすることができる。 - チームの一員として個々の役割を理解し、協調性を持ちつつ主体的な行動がとれる。 【関心・意欲・態度】 - 食や健康について自主的に探究し、向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を示すことができる。
保育科		【知識・理解】 - 社会人として必要な教養を身につけている。 - 保育者として求められる専門知識・技能を体系的に修得している。 【技能・表現】 - 保育に関する専門知識・技術をふまえた保育実践力を身につけている。 - 保育者としてふさわしい豊かな感性と表現力を身につけている。 【思考・判断】 - 子どもや子どもを取り巻く状況の理解に基づいて保育を構想し、実践できる。 【関心・意欲・態度】 - 社会の一員としての自覚を持ち、他者と協働して主体的に問題解決に取り組むことができる。
言語コミュニケーション学科		【知識・理解】 - 言語に対する分析的な視点が形成されている。 - 文学・音楽・絵画・動画など、さまざまなジャンルの芸術を通じ、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めている。 【技能・表現】 - 書かれている文章を論理的に読み解く技術を習得する。 - 対話型コミュニケーション能力、すなわち、情報を正確に理解する能力に加え、自己の主張によって相手を説得できる表現能力が備わっている。 【思考・判断】 - 意見・評価・批判の交換といったプレゼンテーションの練習によりチームで働く力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 - 異文化に対する理解・知識をもとに、自分が暮らす国や地域のものとは異なる文化を許容し、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立している。
音楽科		短期大学部音楽科の教育課程において、所定の単位を修得し、「自立協同」の精神を基本に、次のような能力を身につけた学生に学位を授与します。 ●音楽療法コース - 幅広い教養を身につけ、芸術と科学の融合である音楽療法について理解し、人々の健康と幸せのために働くことができる。【知識・理解】 【関心・意欲・態度】 - 世界基準 (Global) の音楽療法を学び、地域 (Local) の高齢者のヘルスケアニーズに応えられる、“グローバル人材”としての能力を有する。【知識・理解】 【技能・表現】 - 高齢者を対象とした音楽療法について理解するとともに、他の専門職と協働する能力を有する。【技能・表現】 【関心・意欲・態度】 - 自らの関心や提議された問題について探索し、知識を得ること、またセラビープの実践を積み重ねることにより、学問において、また人間的に、生涯にわたって成長し続ける基盤を形成する。【思考・判断】 【関心・意欲・態度】 ●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース - 音楽の歴史、理論、様式、体系を理解し、身につけている。【知識・理解】 - 上記1に則した演奏能力、創作能力を身につけ、自らの演奏や作品を確立することができる。【思考・判断】 - 上記2を基盤とし、合奏や合唱などのアンサンブルを通して、協調性、社会性を身につけている。【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能・表現】 - 専門分野のみならず幅広い教養を身につけ、音楽関係、教育関係、一般企業など様々な分野で活躍する能力を身につけている。【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 【技能・表現】
商科		【知識・理解】 - 社会人としての一般常識やビジネス活動の基本となる専門知識を習得している。 【技能・表現】 - ビジネスの現場で求められる実践的能力を修得し、自分の意見を表現できる。 【思考・判断】 - 自律的な思考力や状況判断能力を身につけている。 【関心・意欲・態度】 - 広い視野で社会の動きに関心を持ち、現状と課題について自主的に探究できる。 - 主体性を持って自分の役割を果たすとともに、キャリア意識を持ち続けることができる。

(2)教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーの提示する学位取得の要件を満たすことを目指す学生に対して、本学は次のような科目から成る教育課程を提供します。

- ①社会に適応しつつもそれを改革できる人物に必要とされる、専門性にとどまらない教養を涵養するために、本学が、多様な専門教育機関を有する総合大学であるがゆえに提供できる「共通教育科目」を配置する。
- ②文化・文明の進歩に貢献する、高度に専門的な知識・技能を開拓・活用できる人物となるために、本学の各学部学科が提供する「専門教育科目」を配置する。

【学修成果の評価】

- ①各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
- ②成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
- ③ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻		高度な専門知識と問題解決能力を生かし医療分野及び関連業界で活躍する専門家を育成するため、本研究科に①～⑤分野を設置し、ディプロマ・ポリシーに基づき学位を授与すべき人材を養成する教育プログラムを編成した。 ①医療・薬物療法分野：薬を用い医療の現場で高度な知識を駆使できる人材を養成する。 ②健康・高齢者医療分野：高齢化社会に備え、健康科学をリードする人材を養成する。 ③医薬品開発・高度医療分野：新薬開発の中心的役割を担える人材を養成する。 ④医療解析・医療安全分野：副作用情報を解析し、薬物療法の安全性を高める人材を養成する。 ⑤がんに詳しい薬剤師を養成するために、中国・四国がんプロ臨床腫瘍薬剤師コースを設定する。 1年もしくは2年次に専門的学識を深めるため分野ごとに必要な専門科目を選択、履修し、同時に「薬学演習」及び所属研究室において設定された「薬学専門研究」が進行するプログラムを編成している。2年次では、選択専門科目の履修及び「薬学演習」と「薬学専門研究」を継続履修し、研究の途中成果を各種シンポジウム及び各種学会で発表する。3年次も2年次と同様に研究を中心とするカリキュラムを設定し、4年次に研究を完成、成果発表に至るプログラムを編成している。 ④の医療解析・医療安全分野のために高知大学医学部・附属病院と大学間連携して、創薬（新しい医薬品を開発）教育だけでなく、育薬（新しい薬効や適用法を開発）教育を展開できる体制を構築し、医薬共同研究を推進する。また、徳島赤十字病院とも連携し、薬物治療等の最新の動向を学ぶこともできる。臨床課題の研究には、徳島赤十字病院の隣接地に設立した徳島文理大学実習支援センターが活用できる。さらに香川大学医学部・附属病院、香川県立保健医療大学と、高度な医療人養成のための地域連携型総合医療教育研究コンソーシアムを形成している。
文学研究科	地域文化専攻	文学研究科のディプロマ・ポリシーに基づき、「文化と地域」と「言語・文学と地域」の研究区分を設けている。それぞれの研究領域において歴史・地理分野や言語・文学分野などの研究を行い、特講では精深な学識を身につけ、演習では研究能力を体得する。	左記の二つの研究区分において前期課程で学修した成果を一層掘り下げ、特別研究では学術的に地域社会の創造的発展に寄与しうるテーマの追究に努め、特別研究課題演習及び博士論文の作成により研究活動を行うことができる高度な研究能力と学問的客観性を体得する。

工学研究科	システム制御 工学専攻	1. 問題点の抽出から得られた成果の文書化までを総体として行うことを体得するために、必修科目としてシステム制御ゼミナールとシステム制御特別研究を履修する。 2. 選択科目では、個々の専門技術習得に加え、複合分野の技術も修得するために他分野の講義・演習も履修する。	1. 基礎的研究、応用的研究のいずれにおいても、より高度な研究を推進するためには、その分野に問題の把握、最新の研究動向の把握が重要になる。そのために、システム制御工学基礎特別研究あるいはシステム制御工学応用特別研究のいずれかを必ず履修する。 2. 複合領域におけるより高度の技術も修得するために、基礎領域と応用領域のそれぞれの領域から1科目ずつ履修する。
	ナノ物質 工学専攻	1. 必修科目は、生命科学、材料科学の分野で、研究課題の立案、実施、考察までを能動的におこなえることを到達目標とする。そのために、1年次にナノ物質工学ゼミナールⅠ、2年次にナノ物質工学特別研究Ⅰを履修する。 2. 選択科目は、ナノ物質工学の高度な専門知識を修得し、各自の研究に活用できることを到達目標とする。そのために、1年次、2年次に光物質工学、ナノ材料工学、微生物工学、薬科学に関する授業科目を履修する。	1. 生命科学、材料科学の分野で、ナノ物質工学の幅広い専門知識を系統的に醸成させることで、社会に貢献できる独創的な研究を遂行し、結論にむけて十分に考察できる能力を到達目標とする。そのために、1年次から3年次まで、指導教員が個別指導形式で実施するナノ物質工学ゼミナールⅡとナノ物質工学特別研究Ⅱを履修する。
人間生活学 研究科	人間生活学 専攻		1. 自立協同の建学精神のもと、人間と生活に関する先端知識の習得と研究能力の涵養のために、各分野の専門科目を置く。 2. 研究計画に基づいて体系的に適切な研究指導を行い、研究の集大成として博士論文を課す。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻 (臨床心理学コース)	1. 人間生活学の発展のために、食物学・生活環境情報学・児童学・心理学について深い学識及び高度な職業能力を培うことを目的とした各分野の専門科目を置く。 2. 自立協同の建学精神に基づき、適切な研究指導の下で本学学位規程に定められた学位論文を課す。	
看護学研究科	看護学専攻	高度な看護実践や課題解決する研究能力、看護職の人材育成、看護管理能力を培う素地となる能力育成のための土台として共通科目を開講する。 1. 共通科目は、大学院生の興味・関心のある研究テーマによって必修科目と選択科目で構成する。 2. 専門科目は、教育目的・目標を達成するために、「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2区分とする。専門領域は、「基盤機能看護学」は“理論看護学”“看護管理学”“看護教育学”を開講し、「実践看護学」は“療養支援看護学（臨床）”“療養支援看護学（地域・在宅）”“母子健康看護学”を開講する。 3. 履修する専門領域を決め、専門領域の理論と研究の幅を広めるために、「特論」で基礎理論を深め、「演習Ⅰ」で論文クリティカル力を培えるよう1学年次に履修する。 4. 専門領域の高度な実践や研究に関連する理論と文献を探究し、修士学位論文への取り組みを支援するため、演習Ⅱでは研究分野に関するフィールドワークを必要に応じて行う。 5. 博士前期課程から博士後期課程へ一貫して発展的に学べるように、共通科目を土台に、「基盤機能看護学」と「実践看護学」の2分野で組み立て、博士前期課程を修了後、博士後期課程へ進学できるカリキュラムを構築している。	専攻分野（各自の研究課題）について、研究者として自律して研究活動が行えるよう、また高度看護研究者、看護教育者、看護管理者、高度看護専門職の研究的・教育的指導ができるために必要な研究能力の育成及びその基礎となる哲学的基盤となる学識を養うことを目的に教育課程を編成して、教育・研究を推進する。

総合政策学 研究科	総合政策学 専攻	本総合政策学研究科の教育課程は、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材の養成、グローバルな視点も踏まえた適切な解決策を立案し、政策決定者へ提言できる人材の養成、また、そうした人材を養成するための学問的・理論的に深く独立して研究活動が続ける人材の養成を目指した教育課程を編成するものである。 そこでの基本的な考え方は、地域社会の抱える様々な問題を解決するための政策立案能力を持ち政策決定者へ提言できる人材を養成するためには、法律、行政、経済、金融、企業経営等、社会科学の理論的基盤が必要であること、加えて、学問的・理論的に深く独立して研究活動が続ける人材を養成するためには、創造性豊かな研究開発能力が必要であることを重視している。 問題解決策を考案するときに必要な理論や知識を、既存の「法学」「経済学」「社会学」「経営学」といった社会科学の各学問分野に求め、そのなかから理論や知識を「総合的に」「組み合わせる」、問題解決策を考案するところに「総合政策学」の特徴があると考えている。「総合政策学」には、問題解決を実際に主体となっておこなう部門として「公共部門」と「民間部門」があり、その区分にしたがって「公共政策」「企業政策」として問題解決策を概念としてとらえる場合がある。従って、教育課程では、「公共政策分野」と「企業政策分野」の2つの大きな専門分野とし、「公共政策分野」に、法学関係、経済・経営学関係、社会学関係の科目を、「企業政策分野」に、法学関係、経済・経営学関係の科目を、専門科目及び専門演習科目として設定している。更に、基礎的素養を修得し、専門分野の専門科目や専門演習科目で扱った理論を深め、広い視野を身につけ、高度な専門的知識・能力を修得するための関連科目（13科目）を設定した教育課程としている。 更に、「公共政策分野」と「企業政策分野」の専門分野を超えた研究をおこない、公共部門と民間部門が一体となって、地域社会の問題解決にあたる政策を策定するとともに、政策決定者に提言できる能力を持った人材養成を目指すために、社会科学全体を見渡す「体系講義科目」と、複数の教員と複数の大学院生による議論を中心とした「総合政策学特別研究」を設定している。	
--------------	-------------	---	--

【専攻科】

音楽専攻科	音楽専攻科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。 【器楽専攻器楽コース・声楽専攻】 1. 音楽の歴史、理論、様式、体系に関する「作品研究」、「音楽特論」等の科目を配置し、より高度で専門的な知識と、それらの総合的な理解力の修得を図る。 2. より高度な演奏能力、創作能力を修得するため、上記理論系科目の上に立つ「専攻実技」を配置する。 3. より高い協調性、社会性、リーダーシップを身につけ、社会の様々なニーズに応えられる人材育成のために、「室内楽」、「管弦合奏」等、学部学生との交流を図る授業を開講する。 4. 修了時には、1年間の研究成果を発表する場として「修了演奏」を開講し、リサイタルを実施する。 【器楽専攻音楽療法コース】 1. 全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（専修）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を配置する。 2. 「専攻実技」では、Functional Piano（ピアノによる機能音楽）について学び、療法的な目的のために音楽を創造し、演奏する技術の修得を図る。 3. 「音楽療法インターンシップ」では、就職を希望する施設を含めた複数の事業所において就業体験の場を提供する。過去の音楽療法研究及びその他の関連する学問分野の最新の知識からなるEvidence-based Practice（根拠にもとづいた療法の実践）の実施とドキュメンテーションが求められる。 4. 「音楽療法インターンシップ」において自身がおこなったセラピーから研究テーマを設定し、過去の文献ならびに「心理統計学」、「心理療法」で得た知識ももちいて発表をおこなう「修了プレゼンテーション」を開講する。 【学修成果の評価】 音楽専攻科は、全学カリキュラム・ポリシーに基づき、学修成果を評価する。 1. 各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。 2. 成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。 3. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。	
人間生活学専攻科	人間生活学専攻	人間生活学専攻においては、学士課程等で修得した知識・技能を踏まえて、さらなる学問研究の意欲を高め、人間生活の質的向上と専修免許状（養護教諭，中・高の家庭科）取得に必要なとされるより高度な知識修得のための科目を設けるとともに、課題解決力及び実践力を確かなものにしていく教育課程を編成している。
	児童学専攻	学部で学んだ基礎教育から発展するよう、広い視野に立つて専攻分野を研究し、精深な学識と研究能力を養うことに重点を置き、児童学及び児童教育学並びにその関連分野における科目を設定して、教員の専修免許状取得にも対応できるように教育課程を編成している。
助産学専攻科	助産学専攻科は、看護学を修得し看護師免許を保有する学生を受け入れるため、看護学で修得した基礎学力を基盤とし、高度な専門知識と技術を持った助産師を育成する学科である。 助産学専攻科のディプロマ・ポリシーは、「1. 妊娠・出産・産褥各期において正常経過の診断及びケア，正常からの逸脱の診断及びケアができる。」「2. リプロダクティブ・ヘルスの視点から見たライフサイクル各期の女性の健康を支援することができる。」「3. 思いやりを大切にし，助産師としての自覚と倫理感性を磨き，対象者ひとりひとりを尊重し，自らの役割と責任を果たすことができる。」「4. 専門職業人として継続して学び続けることができる。」であり，これらを実現するために，次の教育を実施する。 助産師として必要な実践力・判断力を身につけるために，講義・学内演習・臨地実習・課題研究発表の順序で，系統的に学習できるカリキュラムを構築している。 具体的には，基礎助産学7単位（うち1単位は選択），助産診断・技術学9単位，地域母子保健3単位（うち1単位選択），助産管理2単位，課題研究2単位，助産学実習12単位の計35単位（うち2単位選択）となっている。 1. 基礎助産学や助産診断・技術学（妊娠期・分娩期・産褥期・新生児乳幼児期）において，女性の健康を支える知識・技術を修得するとともに，助産及び周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎を修得する教育としている。 2. 基礎助産学の「ウイメンズヘルス」や「地域母子保健」，「地域の健康探索」などからライフサイクル各期の女性の健康生活のニーズを把握し，産後の家庭訪問や在宅育児家庭相談室などの実習，各種母子イベントなどへの積極的な参加を通して地域の母子や女性と家族及び地域の健康に貢献できる教育としている。 3. 学内演習は，充実した設備で妊婦診察・指導技術や分娩助産技術を修得し，より臨床に近い形で実習を行い臨地実習に臨むことができるような教育としている。 4. 「助産学実習」は，12単位で総合病院，クリニック，助産所での実習を通して分娩助産10例以上を達成する。実習では，産婦の状況に合わせて夜間実習を行い，一人の産婦の入院から退院まで継続的に関わり，どのような援助が必要か，どのように関わっていくかを学び，やさしさと包容力を持ち，対象者との信頼関係を構築し，対象者に寄り添いその人に合った安全で安楽なケアを提供できる教育としている。 5. 基礎助産学の「助産学概論」，「助産生命倫理学」，「プロフェッション論」，課題研究などから専門職業人として必要な倫理感性，責任感，生涯学び続ける必要性を養うとともに研究的視点で物事を捉えることのできる教育としている。 6. 「健康教育論」を学び，臨地実習で健康教育の運営・実施を通して，対象者に分かりやすい講義を行う。また，卒業前の課題研究発表会では，研究した内容を簡潔にまとめて発表するなど，分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。	

【大学】

■人間生活学部

6学科から構成されている。一般総合科目、専門的基礎分野の開講を出発点として、教育実習等の関連性にも配慮しつつ、順次高度な専門分野を加えるように体系的に編成している。なお、講義科目や実験・実習科目等の配分には細かい注意を払っている。

人間生活学科	人間生活学部及び人間生活学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「幅広い知識、豊かな教養、衣食住や保健に関する最新技術・知識、柔軟な思考力を持った専門性を身につける」とともに「家庭科・保健科教諭、養護教諭、フードスペシャリスト、二級建築士、上級情報処理士などの資格・免許を取得し、地域社会の発展に貢献できる」人材の輩出を実現するため、次の教育を実施する。 1. 健康で安全・快適な人間生活の実現につながる知識・技能を幅広く学ぶため、「家庭経営学」、「衣生活論」、「食品学」、「栄養学」、「調理学実習」、「住生活論」、「保育学」、「衛生学」など、人間の豊かな生活づくりに関する多様な科目を1年次から順次開講する。 2. 地域課題を自分のこととして捉え、地域共生社会の担い手として、他者と協働し主体的に行動する力を育成する。そのために、1年次は、地域社会を取り巻く環境や歴史の変遷などを学ぶ「生活と環境」、「生活文化論」、2年次は、地域の具体的事例や身近な地域が地球社会へつながりを持つことを学び、フィールドワークを経験する「コミュニティ・デザイン」を開講する。 3. 教育への強い情熱を持ち、よりよい生活の実現に向けて主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力の育成や、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力の育成に資することができる中・高の家庭科・保健科教諭を育成する。実践的指導力の育成に向けて、衣食住や保健に関する専門性の高い各分野の知識・技術を基盤に、3年次に「家庭科教育法」、「保健科教育法」、「事前・事後指導」、4年次に「教育実習」、「教育実践演習」を開講する。 4. 教育への強い情熱を持ち、心と体のケアができ、学校保健推進に必要な高度な指導力と的確な救急対応ができる看護能力を備えた養護教諭を育成する。そのために、1年次は、「養護概説」、「基礎看護学」などの基礎的な科目を、2年次は、救急処置能力の向上と看護・保健に関する専門分野を学ぶ科目を開講する。2年次後期には、「臨床看護実習」、3年次には「事前・事後指導」、「養護実習」を開講する。また、教職科目において1～4年次に履修し、保健室の職務の実際を体験する「学校ボランティア実践」を開講する。 5. 多彩な資格取得に向け、フードスペシャリスト、二級建築士、上級情報処理士、社会福祉主事任用資格、医療秘書の資格取得要件として指定される科目や、ファッションビジネス能力検定、福祉住環境コーディネーター、防災士など、資格取得のための学びを支援する科目を開講する。 6. 人と生活について最先端の知識・技能を研究するため、3年次に「専門ゼミナール」を開講し、各教員にゼミナール生として数名程度を配属する。さらに4年次の「卒業研究」では、科学的根拠に基づいて課題を考え、解決方法を探究する。 7. 担任は4年間を通じて学生と面談を重ね、学修指導、資格取得や進路決定の支援を行う。また、主体的な学びを促し、他者との協働を取り入れながら将来の進路を自ら開拓することのできる力を育成するため、学年を超えての学科交流会や就職活動・教員採用試験報告会などの機会を設ける。
食物栄養学科	人間生活学部及び食物栄養学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「食と健康の専門家として地域社会や医療現場での健康増進や疾病予防に貢献する」とともに「生涯、学び続ける意志を持つ」人材の輩出を実現するために、特定非営利活動法人日本栄養改善学会より提唱された「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠して下記の教育を実施する。 1. 1年次では、「管理栄養士としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「健康管理概論」「食生活論」「文理学・地域学」「調理学実習」を設置する。また、ヒトに対する栄養学を学修する上で欠かすことができない「解剖生理学」と「基礎栄養学」を前期から開講する。後期からは、これらの授業科目を基礎において、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した科目を順次、設定する。 2. 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。 3. 本学科の特長である「栄養教諭（1種）」及び「家庭科教諭（中・高1種）」免許取得のための講義、実習は、各学年において受講生の過剰負担とならないようにバランスよく配置する。 4. 1年生からの学修指導や生活指導は担任教員が中心となっており、3年生後期からは、指導内容をより濃密にする目的で各教員にゼミ生として10名程度を配属する。 5. 4年次では、前期に管理栄養士が実際に活躍している現場を体験するために、臨地校外実習として「臨地公衆栄養学実習」「臨地給食運営実習」「臨地給食経営実習」及び「臨地臨床栄養学実習」を各1週間、設定する。実習期間中、教員による実習現場への巡視を実施し、現場からの大学への要望を聞き取るとともに、実習中の学生の状況を把握する。また、教員免許取得を希望する学生は、この時期に教育実習を行うことで、教員志望の自覚を高めた上で、教員採用試験対策講座に参加する。後期には、能動的学修を促す目的で、学生が「自分で課題を設定し、プレゼンテーションを行い、質問に答える」という演習科目を設定することで、4年間の学修効果を総合的に評価する。 6. 4年間を通じて、「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015」に準拠した教育に加え、徳島文理大学の独自教育を加えることにより、学生が管理栄養士として必要な「知識」「態度」「意志」を身につけるべく、すべてのカリキュラムを設定する。
児童学科	人間生活学部及び児童学科のディプロマ・ポリシーにもとづき、豊かな教養と人間性を培うとともに、教育学と児童学に関する専門的知識のうねに立った確かな実践力を身につけることのできるカリキュラムを編成して運営するため、以下の教育を実施する。 1. 1年次では、「児童に関わる指導者としての将来」についての具体的な目標を新入生に持たせるための初年次教育として「児童学原論」「教育原理」「保育原理」「教育方法論」「児童心理学」「教科内容・方法に関する科目（4科目）」「保育内容・方法に関する科目（4科目）」を開講する。また、教育・保育実践力の向上を目指すために、1つには「教科内容・方法に関する科目」「保育内容・方法に関する科目」で観察授業・保育を取り入れる。2つには総合科目（ボランティア）の受講を必修化すると同時に、種々のボランティア活動への学生の積極的な参加を促す。 2. 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に必要なとされる「語学」を開講する。

児童学科	3. 2年次以降から4年次に至る専門教育では、児童に関わる指導者としての資質能力を高めるための順次的・系統的なカリキュラムの配置を行う。また、学生の主体的態度、課題発見・問題解決能力を養うために、アクティブ・ラーニングを有効に活用した学修方法を導入する。 4. 教員・保育士の免許・資格取得のための講義・演習、実習は、各学年において受講生の過剰負担にならないようにバランスよく配置する。学生はこれらの授業を通して、教員・保育士の自覚を高めたうえで、教員採用試験対策講座に参加する。 5. 2年次から4年次にかけては、臨床への応用のため事前・事後指導・保育実習指導の科目、教育実習・保育実習・介護等体験を順次、配置する。また、教科教育法・保育方法演習等を通じて、模擬授業・模擬保育及び授業・保育の参観＝分析を実施する。 6. 1年次からの学修指導や学生指導では、担任・チューターが中心になり、HR活動、面談、学習ポートフォリオ、教職履修カルテや「保育・教職実践演習（幼・小）」を活用して学生の主体的な学びができるように支援を行う。3年次後期からは、指導内容をより濃密にするために各教員にゼミ生として10名程度を配属し、原則としてゼミ担当教員が継続して4年次前期・後期の卒論指導を行う。 7. 各科目を担う教員が児童に関わる指導者養成の使命を自覚し、児童に関わる指導者としての実践力についての視点や内容を互いに共有して協働する体制を組織し、教育を進めていく。また、学科の教職員が連携し、課外活動、就職支援等を通じて、学生が互いに学び合う学修環境のもとで社会人としての自覚を高め、児童に関わる指導者に求められる資質能力を身につけることができるように支援体制を整える。 8. 各科目で、到達目標を定め、到達目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知する。また、学生が各科目・課外活動等で身につけた知識・技能を統合して、児童に関わる指導者にふさわしい資質能力の育成についての評価基準を設ける。そして、その評価結果に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることにより教育の質の保証に努める。
メディアデザイン学科	人間生活学部及びメディアデザイン学科のディプロマ・ポリシーにおいて設定した「情報通信技術を活用して、さまざまな問題解決のために企画・立案・実践を行うことにより、社会に貢献しうる人材」の輩出を実現するために、下記の教育を実施する。 1. 本学科の特長である5つの領域を、各学年でバランスよく配置する。具体的には、システムデザイン領域である「プログラミング」「情報システム論」「コンピュータネットワーク論・演習」、マーケティングリサーチ領域である「応用統計学」「社会調査研究」「生活と情報」、コンテンツデザイン領域としての「メディア制作論」「Webデザイン論」「CGアニメーション」「コンピュータグラフィックス論・演習」、ライツマネジメント領域の「情報社会論」「メディアと制度」、インストラクショナルデザイン領域の「メディア教育論・演習」「インストラクショナルデザイン」を設置することで、5つの領域を系統的に学ぶ。 2. 1年次では、初年次教育として「情報技術」についての基礎科目である「コンピュータ概論」「情報処理論」「コンピュータグラフィックス論・演習Ⅰ」「応用統計学」を設置する。 3. 基礎的な知識・技術が養われた3年次以降は外部講師を積極的に招き、専門的な経験談や業界第一線の知識・技術に触れることで、より一層のスキル向上を図る。 4. 1年次・2年次を通して、身体を鍛えるための「健康スポーツ」、人間としての視野を広げるための「一般総合科目」及び、一次情報入手に欠かせない「語学」を開講する。 5. 2年次では、職業人として必要な指導力・コミュニケーション能力を養うため、「プレゼンテーション論・演習」を設置する。 6. 3年次の専門ゼミナール及び、4年次の卒業研究は、各教員にゼミ生として配属する。他学部や地域・行政と関わりを持ちながら、課題解決にむけた能動的学修を行う。 7. 1年次からの学修指導や生活指導は担任教員とチューターが中心となっており、学生とともに学修成果の評価を行う。 8. 4年間を通じて、学生が学士(情報)として必要な「知識」「態度」「技能」を身につけるべく、すべてのカリキュラムを設定する。
建築デザイン学科	将来の建築技術者として専門分野の基本的な知識を身につける。そして学んだ知識を生かし、社会の要求に応え、自己の考えを適格に表現し、コミュニケーションを円滑にできるよう、建築におけるコアカリキュラム（計画、構造、設備、環境、生産、インテリア）を中心にして、ディプロマ・ポリシーを実現するために以下のような教育を実施する。 1. 1年次は、人類が生活を始めてからの建築の歴史や文化をはじめ、建築の一般構造、建築物の創造に必要な製図・造形・色彩計画など基本的な知識や表現技術を重視した学修を設定している。 2. 2年次・3年次は、住生活についての基本的な知識、つまり、建築の意匠や関連法規、都市計画などの基礎的分野にはじまり、インテリア、環境など幅広い教科を設定し、将来建築技術者として、新たな創造や課題に対応できる知識や技術を身につけさせることを目標とする。さらに幅広いモノづくりに取り組む資質や姿勢を持たせることをテーマとし、建物の安全・快適性を重視した人間の生活を取り巻く環境に配慮できる建築技術者の養成を目指している。また、高品質なソフトウェアや最新の機器を積極的に導入し、その利用により、実社会での仕事に抵抗なく解け込む力を養う教育を設定している。 3. 4年次は、1年次から3年次までの一貫したカリキュラムツリーを基に、総仕上げ的な学修を設定している。 4. 3年次から4年次にかけて、過去に学修した知識を基に、学習意欲のある学生を中心に、卒業研究を行うとともに、地域社会との連携事業に積極的な参加を実践する。
心理学科	人間生活学部及び心理学科のディプロマ・ポリシーに基づき、「現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考（冷静な頭）」と、臨床心理学の基本である他者への共感的理解（暖かい心）を持った人材を育成する。さらに、児童生徒の心理に強い「養護教諭」、高い専門性と実績で社会に貢献する「臨床心理士」、国家資格「公認心理師」各取得援助のために、下記の教育を実施する。 1. 1年次では、主体的に考え学ぶ態度を獲得させるために、まず強力なオリエンテーションを行うとともに、社会人として必要な基本的知識と教養を身につけるために一般総合科目を中心として学ばせる。一方、専門科目領域においては、心理学の全体的体系を理解させるために、基礎科目として、「心理学概論」とともに、科学的理解の基礎となる「心理学研究法」を設置する。また、養護教諭免許取得を目指す者に対し、その基礎となる「教職概論」「養護概説」等を配置する。さらに、「建学の精神」をより深く理解し、学修目標を持ち意欲的に勉学・研究活動に取り組めるようになるために文理学を配置する。 2. 2年次では、語学等を中心とした一般総合科目の履修により、大学生としての教養の充実を図る。専門科目においては、基礎から応用へと体系づけられた科目設定に従い、「心理学実験」から「臨床心理学概論」、さらに心理学各領域科目を配置する。また、養護教諭免許取得のために、以上の科目に加えて「教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）」等の基礎的科目の充実を図るとともに、「救急処置及び看護法」等の実践的科目を設定する。

心理学科	3. 3年次では臨床心理学の実践的、応用的理解を深めるために「心理学検査法実習」「心理療法演習」等の実習・演習科目を設置する。また、教職科目においても、養護教諭としての実践的能力の向上を目指し病院実習・教育実習を配置する。後期からは、卒業研究単位取得のための研究室単位での指導として専門ゼミナール指導を設定する。 これらの指導を通じて、目指す資格取得への意思を明確化させるとともに、チューター指導による援助を行う。 4. 4年次では、前期に専門科目の履修とともに、専門ゼミナールによる卒業研究指導によって主体的研究態度と論理的思考を涵養する。また、養護教諭免許取得者は、後期に教職実践力の向上を図るため「教職実践演習」を配置する。 さらに4年次を通じて、これらの指導に加えチューター・担任等の指導により、就職活動、養護教諭免許取得、さらに臨床心理士及び公認心理師受検資格取得のための大学院進学等を援助する。 カリキュラムは、以上の実践結果や、教育的要請により適時見直され、各教員は、より効果的かつ適切な教育活動が実施されるよう連携し努力する。
------	--

■音楽学部

音楽学部は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。

【ピアノ・声楽・管弦打楽器・音楽クリエイター&アーティストの各コース】

1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、「基礎ゼミナール」と基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身につけるための一般総合科目を配置する。
2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。
3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から、より高度で専門的な内容の科目まで、順次配置する。
4. 高等学校教員免許・中学校教員免許（1種）を取得するため、また音楽指導者をめざすための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。
5. 音楽療法士（1種・2種）を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。
6. 4年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、4年間の研究成果を評価する。
7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には、発表する機会を提供する。

【音楽療法コース】

1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（1種）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。
2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。
3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1) 紹介と受け入れ、2) アセスメント、3) 治療計画、4) 実施、5) ドキュメンテーション、6) 終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。
4. 2年次の「音楽療法実習」では、「音楽療法総合演習」、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
5. 3年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を受けながら、地域の病院、福祉施設等の障がい者のニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。
6. 4年次の「音楽療法実習」では、少人数の学生グループが、自立して、地域の病院、福祉施設等のクライアントのニーズを特定し、音楽療法サービスを実践する機会を提供する。実習での教員の援助は最小限にとどめられるが、「音楽療法総合演習」において実習の内容を取り扱い、より高度なメソッド、テクニックの利用についてアドバイスを与えることによって、自身のセラピーがさらに豊かなものになるようにしている。
7. 4年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。

【学修成果の評価】

音楽学部は、全学カリキュラム・ポリシーに基づき、学修成果を評価する。

1. 各授業科目において、到達目標及び成績の評価基準・方法を明確に周知する。
2. 成績の評価は到達目標への到達度を目安とし、成績評価基準に基づき、厳格な評価を行う。
3. ディプロマ・ポリシーに基づく学生の学修過程を重視し、学修成果の全体を評価する。

■薬学部

ディプロマ・ポリシーを達成するため、体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に構築・実施する。カリキュラム実施方針ならびに学修成果の評価方法を以下に示す。

1. プロフェッショナルリズム

薬剤師として必要な人間性と倫理観を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。幅広い視野で判断ができる能力を身につけるため、1年次に医療・福祉・公衆衛生・製薬に関わる施設・企業を訪問する早期体験学習を受講する。また一般教養教育における人文科学・社会科学系の授業科目を履修する。2年次と4年次に医療倫理と法規・規範について学修する授業科目をそれぞれ受講する。さらに4年次開講科目にて参加・実践型の実務実習前教育を学修した後、5年次の実務実習において人間性豊かな医療を実践する態度を体系的に身につける。また3～6年次の卒業研究活動を通じて薬剤師として必要な人間性を育むとともに、医療や研究に係る倫理観を身につける。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「関心・意欲・態度」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

2. 専門的知識

医薬品に関する科学的知識について体系的に学修するため、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学の知識と技術を修得する講義・演習・実習科目を1年次から学年進行に応じて受講する。1,2年次では物理・化学・生物系薬学に関する科目を中心に履修する。3,4年次では薬理・病態、医薬品情報、薬物動態・製剤、衛生・公衆衛生に関する科目を中心に受講する。また3年次より本学独自の3つのコース（医薬品研究開発、先端医療薬学、漢方・セルフケア）のいずれかを選択し、より実践的で専門性の高い知識と技術を修得する。

【学修成果の評価方法】

筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。また2～4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により、その総合的な学修成果の評価を行う。

3. 情報・科学技術活用能力

情報・科学技術を医療・薬学に活用するために必要な科目を1年次から受講する。1年次では基本的な情報技術を学修する演習科目と、データサイエンスに関する基礎知識を修得する科目を履修する。3,4年次では、保健医療における統計資料、デジタル技術やビッグデータの活用状況を把握し、その情報・科学技術を利活用して医療や公衆衛生上の課題発見・解決につなげるための学修に取り組む。5年次の実務実習では医療機関や地域における医薬品情報を活用した医薬品の適正使用について学修する。また3～6年次の卒業研究活動を通じて、科学系・医療系データベースからの情報収集・解析と活用について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「技能・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

4. コミュニケーション・多職種連携能力

薬剤師として必要なコミュニケーション能力と多職種連携能力を醸成するための科目を1年次から各学年にわたり受講する。1年次は体験学習、学部間連携科目などを通して多様な背景を持つ人々と良好な人間関係を構築する。2年次からは、患者や医療従事者と適切なコミュニケーションをとれるよう、医療コミュニケーション学、チーム医療論、実務実習事前教育などの科目において参加型学修に取り組む。5年次の実務実習では患者との面談・指導の実践や、医療に関連する多職種との連携を実践する学修に取り組む。また1～3年次の薬学専門領域の各実習や3～6年次の卒業研究活動を通じて、同僚や先輩・後輩と連携・協同して実験や研究に取り組む意欲を培う。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

5. 科学的探究力

科学的探究力と問題解決能力を身につけるための体系的なカリキュラムを1年次から6年次にわたって段階的に受講する。研究マインドの基礎を築くため、1～3年次において薬学専門領域の各実習を受講する。また低学年次より自主的に研究活動に取り組むことのできる学部内インターンシップ制度を選択・参加する。主体的な学習態度、課題発見・問題解決能力を養うため、3年次から研究室に配属して卒業研究に取り組む。卒業研究の一環として薬学に関する学術論文を読解し、その内容について紹介する。6年次の卒業研究発表会において、自ら行った研究成果について発表・討論する。また学術集会や学会などに積極的に参加し、研究成果を発表する。5年次の実務実習では卒業生や先輩薬剤師とともに医療現場で活動し、医療の質的向上に貢献するため、エビデンスの再現性・信頼性・具体性を理解する。また医療人としての心構えや行動規範について学び、生涯にわたって研鑽を積み続ける意義や姿勢について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。また6年次の総合薬学研究4において、その総合的な学修成果の評価を行う。

6. 社会貢献力

社会における医療の役割について理解し、総合的に患者をみる姿勢を醸成するための科目を1年次から受講する。1年次では薬剤師として必要な資質について学修する薬学概論と、医療・福祉・公衆衛生に関わる施設を訪問する早期体験学習を受講する。2～4年次では社会と薬学および臨床薬学に関する科目において、患者の身体的・社会的背景を総合的に把握して医療を実践する意欲を培う。また社会・地域における薬剤師の活動や医薬品の規制、医療マネジメント・医療安全の実践について学修する。衛生薬学に関する科目において、社会における公衆衛生、食品衛生、環境衛生上の課題発見と解決策の立案について学修する。国際的な視野を広げるため、2,3年次の英語科目において医療現場や薬学で用いられる専門英語について学修する。5年次の実務実習ではこれまで学修した知識を活用して、医療や福祉、地域社会の現場における薬剤師の役割について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。「意欲・思考・判断」に関する学修成果は、レポートやプレゼンテーション、SGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。

7. 薬物治療実践能力

薬物治療を実践できる能力を身につけるため、薬物治療に必要な知識を修得する医療薬学の科目と、薬物治療の実践力を培うための臨床薬学の科目を、2年次から体系的に受講する。2～4年次における医療薬学系の科目では疾患ごとの薬物治療について学修し、薬物治療を実践するための基盤を作る。4年次の臨床薬学系の講義・演習科目において薬物治療の個別最適化について学修した後、5年次の実務実習において臨床現場における患者個々の状況を把握した薬物治療の実践について学修する。

【学修成果の評価方法】

「知識・理解」に関する学修成果は筆記試験や口頭試問、レポート等で評価する。また3,4年次の特別演習および6年次の総合薬学演習における試験により、その総合的な学修成果の評価を行う。「思考・判断」に関する学修成果は、プレゼンテーションやSGD、PBL等を、ルーブリックを用いて評価する。また6年次の実務実習事後学習において、その総合的な学修成果の評価を行う。

■文学部

文学部のディプロマ・ポリシーに基づき、自立協同の建学精神を体得した社会人として活躍するために、5つの領域の基礎科目群を履修し、基本的力量を修得するカリキュラムの編成をしている。即ち、3学科共通の専門科目として、多様な情報を比較・検討した上で自らの考えをまとめ、それを的確な日本語で表現し、情報機器を駆使して分かりやすくプレゼンテーションできる力を養成する。具体的には、 ・1・2年次では、日本語及び情報の基礎から応用力を体得し、併せて日本文化や欧米の歴史を学び、幅広い教養を身につける科目を設置している。 ・2・3年次では就職試験に役立つ基礎から応用力を身につける科目を設置している。	
日本文学科	文学部・日本文学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1. 1・2年次では、文学・語学の概論・概説、及び古典から近現代の文学史を学びつつ、日本文学・語学全般を俯瞰し、理解を深めるようにしている。 2. 1～3年次では、文学・語学（表現を含む）の演習、及び時代別文学の講読を学びつつ、調査力、読解力、思考力、表現力の段階的涵養を行うようにしている。 3. 3・4年次では、専門分野に特化した文学・語学の講義を学びつつ、主体的に問題点を提起し解決を目指す態度を育成するようにしている。 4. 4年次では、それまで積み重ねた調査力、読解力、思考力、表現力を動員し、独自の視点から卒業研究を推進するようにしている。研究成果である卒業論文においては、厳格な執筆条件を設け、なおかつ審査は主査と副査の複数体制で客観的評価を行うようにしている。 5. 資格科目である国語科教科教育法は2年次から3年次に配当し、複数年掛けて教案作成から実践的な授業運営までを修得し、教員資質の養成に備えるようにしている。
英語英米文化学科	文学部・英語英米文化学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1. 1・2年次では、英語運用能力の基礎となる必修科目を中心に、海外留学も視野に入れ、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能のスキルを高めるとともに、英語圏の文化の理解や、英語教育に関する基礎知識を習得するようにしている。 2. 3・4年次では、より高度な英語運用能力を習得するための必修科目とともに、文学や言語学などの各専門分野を学ぶ選択必修科目・選択科目によって、自らの関心や進路に応じて課題を発見し探究する主体的な学びの態度を養うようにしている。 3. 4年次では、それまで培った知識や思考力を発揮し、卒業研究などを通して、自らが設定したテーマに関して探究するようにしている。論理的な思考による問題解決能力だけでなく、国際化が進む社会で活躍するために必要な表現力を身につけるようにしている。 4. 英語教育に関する理論と実践的な教授法を学ぶ科目を2年次から4年次に配当し、英語教員資質の養成に備えるようにしている。
文化財学科	文学部・文化財学科のディプロマ・ポリシーに基づき 1. 1年次では、専門諸分野の基礎となる文化財に関する知識や歴史・地理などの初年次教育を行う。また、各分野に必修概論4科目を開講し、2年次の進路選択の幅広い知識・理解を深めるように編成している。 2. 2年次では、各専門分野（史料学・考古学・建築史学・地理学）を選択し、分野別の実習と文化財調査の基本技能を身につけるようにしている。 3. 3・4年次では、演習科目でフィールドワークを実施して専門性を深め、調査・分析を踏まえた思考・判断能力を身につけるようにしている。 4. 4年次では、卒業研究を実施し、社会における文化遺産に対する認識や問題解決に活躍できる力を修得する。また、同級生や下級生の前で成果（卒研を含む）発表を行い、多方面からの指導を受けながら4年間の学びの集大成を行うようにしている。

■理工学部

理工学部のディプロマ・ポリシーに基づき、社会人として必要な一般的な知識や態度を身につけ、自立協同の精神にのっとり地域や組織で適切な役割を担える能力を修得するため多くの授業を配置している。理工系の教育は、概して積み上げの色合いが強く、専門技術習得のためには基礎的な数物化系科目の修得が必須である。そのために、1年次に高大連携の導入教育や基礎教育あるいは入学前教育や補修補講を準備している。2年次専門科目では、数物化系科目の高度な修得や、各学科の専門分野の知識や論理的な思考の修得及び体験型（実験・実習）を重視した授業を行っている。職業観・勤労観の育成は、インターンシップの奨励・指導等を通じて実施するように編成している。基礎及び専門科目では「ものづくりを通して人づくり」を主眼とする、職業教育の充実を目指した教育課程を編成方針としている。 また常に変わる社会状況において新たに生まれる課題や問題を解決するため、生涯を通じて継続的に学習し、自らの能力を高め続けるための方法論を学び、効率的な修学習慣を身につける。さらに、大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力を身につける。	
機械創造工学科	1. 1年次では、数学・物理に関する共通専門科目・機械工学全般を浅く広く学ぶ科目、工作実習、製図などの各種工作機械の操作・材料の工作法・図面の読み方など製造に関する科目、コンピュータ関連の基礎科目を配置し、実習を通して協同作業を体得する。 2. 2年次から3年次にかけては、基礎的な設計能力を身につけるための材料・設計、熱流体、制御などの機械工学に関する専門科目、コンピュータ援用能力・システム化能力を身につけるための電気・電子に関する専門科目を配置し、機械工学の基礎を習得するとともに、物づくりに対する関心を高める。 3. 4年次では、各研究室において卒業研究プログラムを配置し、機械技術者に必要な論理的な判断力及び創造する能力を身につけるとともに、コミュニケーション能力を身につける。 4. 技術の進歩と社会の変化に貢献できる柔軟な適応力を身につける。また、他分野との融合を図り、問題を解決できる総合的な能力を身につける。

電子情報工学科	1. 1年次では、工学の共通基盤である数学、物理学に加え電子・情報の入門となる専門科目と実験を配置し、基礎的な知識を幅広く身につけるとともに電子情報工学に対する関心を高める。 2. 2年次では、ソフトウェア、ネットワーク、電気・電子回路などの専門科目を配置し、「電子工学」と「情報工学」の専門的知識を深め、基本的な設計能力、専門的知識を継続的に学習する能力を身につける。 3. 3年次では、専門科目と実験及び演習を配置し、コンピュータとネットワークの仕組みが分かり、基本的な電子回路の製作法を修得でき、基本情報技術者試験に対応できる知識を身につけるとともに、ものづくりに適用してゆく能力を身につける。 4. 4年次では、卒業研究を配置し論理的思考、率先して行動する姿勢、及び問題解決能力を身につける。 5. 情報システム、情報応用に関する実験などの実践的科目を配置し、併せて体験支援などの課外活動を通じて能動的学修を促進し、協調しつつ相互のコミュニケーションに基づく共同作業を推進できる能力を身につける。 6. 職業への理解を深めるキャリア教育科目を配置し、職業を通じた社会貢献に備える。
ナノ物質工学科	1. 1年次では、生命科学コースと材料科学コースの共通基盤である数学、生物学、化学、物理学に関する基礎的な知識を幅広く身につける。 2. 2年次では、生命科学コースと材料科学コースに関する専門知識を習得し、両コースの共通基盤である定性・定量分析基礎技術、バイオ操作基礎技術、物理計測基礎技術を身につける。 3. 3年次では、生命科学コースと材料科学コースの少なくとも一方の分野において専門科目を深く学び、様々な状態を精密に定性、定量的な解析を行い、現状や効果を適切に判別できる能力を身につける。 4. 4年次では、卒業研究を配置し論理的思考、率先して行動する姿勢、及び問題解決能力を身につける。 5. 社会や環境に潜む問題や課題を見つけ出し、これを解決する意欲を育むため、地域学を学び、連携に必要な能力を身につける。 6. 問題や課題を解決するための能力と論理的な思考力をつける。 7. 大学において身につけた知識・技術を社会において活用し、社会の一員として十分な活躍ができるように、自己表現力、プレゼンテーション、コミュニケーションの能力、効率よく協同作業を行える能力を身につける。

■総合政策学部

総合政策学部・総合政策学科は、ディプロマ・ポリシーの達成のために、1. 教育課程の編成方針、2. 教育内容・方法、3. 学修成果の評価、の方針を以下のとおり定める。

1. 教育課程の編成方針

- ・第1年次には、複数の視覚からの分析を行いうる基礎的知識を涵養するために一般総合科目を置く。
- ・第1年次から第2年次において、社会科学の幅広い学問に通暁した知識を得るために専門分野の基礎的内容を教授、専門教育科目に「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「経営学概論」「社会学概論」を置く。また、社会の問題への適用や複数の視覚をもちいる力を身につけるための「総合政策学概論」を置き、これらを必修科目とする。
- ・第2年次から第4年次にかけて、社会科学の幅広い学問分野を実社会の問題に適用するための知識をえる専門教育科目を設置する。一例として「現代契約法」「ミクロ・マクロ経済学」「経営戦略論」「現代社会論」などである。また、日本学術会議の分野別参照基準にいう「基本的素養」を教授する科目を設置する。
- ・第2年次後期には、「専門基礎演習」として、「卒業研究」にとりくむための、文献調査法、社会調査、データ分析等の技術を学ぶ科目を設置する。第3年次から第4年次にかけて「卒業研究」にとりくませ、具体的な社会の問題を解決に必要な総合政策を立案する能力を養う。

2. 教育内容・方法

- ・「調べ、考え、議論する、そしてそれを文章にまとめる」を教育のモットーとし、教育課程におけるすべての科目に適用する。つまり、「基本的知識を獲得する目的での講義」、「自身の知識の定着をはかる授業外学習（調べ・考え）」、「多様な価値観をもった人間同士が話し合うことで考え方の優劣を知るSGD (Small Group Discussion)（議論する）」、「その結果をレポートにまとめる」といった教育方法を有機的かつ効果的に組み合わせる。

3. 学修成果の評価

- ・知識の定着度合を評価する「筆記試験」、多様な考え方を持った者同士の議論の成果を含む「レポート」、その成果をさらに自分のものとして咀嚼する「プレゼンテーション」などの実技、など科目の教育目的に応じて組み合わせて評価する。

■香川薬学部

到達目標に達するための教育課程

カリキュラム編成

本プログラムは6年制となっている。卒業までに必要な単位数は186単位以上で、以下の条件を満たす必要がある。一般総合科目19単位以上（人文科学関係科目、社会科学関係科目、自然科学関係科目より12単位以上。ただし、人文系、社会系、自然系はそれぞれ2単位以上を含むこと。）、体育・スポーツ科目1単位以上、外国語科目（「英語」4単位を含め）4単位以上、文理學2単位、および薬学専門教育科目167単位以上。

香川薬学部は、10項目のディプロマポリシー（DP）を実現するための教育プログラムを段階的かつ効率的に編成することにより、(1)医療人に必要な高い倫理観と使命感（DP1、2）、(2)薬剤師に必要な専門的知識と技能（DP5）、(3)医療現場でおこる問題を発見する能力とその解決能力（DP4）、(4)能動的に行動する態度（DP3、10）、(5)思考力・判断力・表現力等の社会生活で必要とされる能力（DP6、7）、(6)生涯にわたって学び続ける自己研鑽力（DP3）、(7)多様な人々との協働を可能とするコミュニケーション力（DP8、9）をもつ医療人を育成する。

学習内容・方法

カリキュラムは学年進行に伴って基本的スキルから医療従事者としての専門的スキルにレベルアップしていくよう構成されている。薬剤師として身につけるべき生命・医療倫理、チーム医療とコミュニケーション、薬剤師に関わる社会の仕組みおよび課題の発見能力・課題の解決能力を醸成するための科目は、6年間かけて修得できるようにすべての学年に教育プログラムを配置している。4年次に講座配属を行い、講座における研究を通して、最新の知見を知る重要性だけでなく、医療現場でおこる様々な課題を解決できる能力を培う。実務実習準備教育プログラム「実務実習事前教育1」及び「実務実習事前教育2」を履修することにより、5年次の病院・薬局実務実習に必要な知識・技能・態度を学修する。病院・薬局実務実習では、大学で学修したことを実践することにより、医療現場で起こる様々な課題に対する解決能力をより向上させる。

学修成果の評価方法

「知識・理解」に関する科目の学修成果は、筆記試験や口頭試問、課題レポート等によって能力を点数化し評価する。「技能・意欲・思考・判断」に関する学修成果はPBL科目における制作物と到達度評価、レポート、プレゼンテーション、「卒業実習」での卒業実習報告書と発表を点数化して評価する。自己研鑽力など学生個々の能力の醸成は、学生自身がどの程度獲得し達成できているかを5段階のルーブリック表で自己評価し、その結果をみながらチューターが個別指導を行う。また、1年次から6年次までに修得した知識の到達度は、6年次の「総合薬学演習」により総括的評価を行う。

これに加えて、1～6学年の全ての必修科目について、香川薬学部の10項目のディプロマ・ポリシー（DP）へ寄与する割合（DP配分）を設定している。各授業科目の評定時の試験の得点にDP配分を乗じて（単位数も乗じる）6年間にわたり修得全科目について積算したDP得点を算出し、これにより卒業までの総合的な学修成果（DP達成度）を測定する。（DP得点/Dp累計＝DP達成度）

■保健福祉学部

授業科目を一般総合科目、専門教育科目としている。1年次は、幅広い教養を身につけ、医療・福祉の基礎を学び、2年次は、各科関連の技術を修得する。3年次、4年次は、臨地実習を行い理論と実践を統合させるとともに、自ら関心がある分野を発展させ、国家試験に向け学習する教育課程を編成している。	
人間福祉学科	人間福祉学科では、様々な福祉課題を持つ人びとの生活の質を向上させるため、人間と社会について多角的な視点から分析・理解し、課題の解決に取り組むための知識・技術を習得する、というディプロマ・ポリシーを実現するために下記の教育を実施する。 1. 全学年を通じて、社会福祉士及び精神保健福祉士のカリキュラムに準拠した専門知識・技能を学ぶための科目を配置する。資格取得のみにとどまらず、幅広い学問領域を学び広い視野を持ち、未知の問題に出会ったときに保有する知識を元に思考して解決に結びつける能力の醸成を目指す。 2. 学内での学びに加えて、学外の相談援助機関の関係者と緊密な連携のもと、外部講師の招聘及び相談援助機関の見学を行い、様々な福祉課題の実態について体験を通じて学ぶ実践教育の実現を図る。 3. 1年次は、社会福祉の意義や理念について概説し、社会福祉への学習意欲の向上を図る。また、対人援助に携わる者に求められる豊かな人間性と倫理観を習得するための基礎ゼミ、一般総合科目を配置する。 4. 2年次は、社会福祉のサービス・制度・社会的活動のあり方の理解に向けた科目を設定する。次に、相談援助演習を通して、相談者と専門家の視点を深め、相談援助機関での実習に向けたレディネスを確立する。 5. 3年次は、相談援助機関において実習を行い、これまで学習した基礎的な知識・技能を実践の場で活かすとともに、実践の場での経験から基礎的な学習の重要性を体得できるよう学習科目を配置する。加えて、実習報告会を実施し、実習の経験習得した技能を、簡潔にまとめてわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける機会を設定している。 6. 4年次は、4年間を通じて学習した専門知識を社会に出て活用できるよう、総合的な学習科目を設定している。特に学びの証として国家資格の取得に向けて、国家試験対策を重点的に実施し、確固とした専門知識・技術の習熟を図る体制を構築している。また、精神保健福祉士の資格希望者には、精神障がい者の社会復帰に係る相談援助機関において実習を行い、実践の場での経験を通して専門的・実践的技能を習得する機会を確保する。
看護学科	看護学科のディプロマ・ポリシーは、「1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身につけ、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。」「2. 看護の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。」「3. 看護の専門職者として自己の責任を自覚し、医療チームの一員として協働活動に参加できる。」であり、これらを実現するために、次の教育を実施する。 1. 看護職として必要な看護実践能力を確実に身につけるために、全学年を通じて、講義・演習・臨地実習の順序で、系統的に学習できるカリキュラムを構築している。とくに演習（技術演習）・実習（臨地）は重要で、卒業要件の総単位数の25%を占め充実させている。 2. 学生の発達段階や能力に応じて、順序だてて教育プログラムを編成している。1年次は「専門基礎分野科目」をとおり、看護実践に必要な基礎医学や保健医療福祉の基礎知識を学ぶ。2年次は「専門分野科目」を中心に看護職として必要な専門知識と技術を学び、3年次は「実習科目」をとおり、科学的思考に基づき計画的に看護を提供する能力を体得できるようにしている。4年次においては「がん看護論」「糖尿病看護論」「臨床薬理学」など特色ある多くの「臨床総合科目」を配置し、看護実践能力を高め統合できるように設定している。 3. 入学直後から、一般総合科目や「文理学」、「ボランティア」、「援助の人間関係論」などを幅広く学び、豊かな人間性と良識をもつ社会人としての基礎力を養うよう設定している。1年次前期に開講する看護技術演習や病院実習など、早い時期から医療現場を体験することで看護に関心をもち、思いやりの気持ちを養い、医療人としての自覚を体得できるようにしている。 4. 充実した学内設備で基本的な看護技術を修得し、さらに刻々と変化する患者の状態を判断し行動する能力を養うために、高機能シミュレーターや生体モデルなどを用いて実践的で有効な学内演習を行っている。 5. 学んだことを応用する力を修得するために、県内外の地域医療機関と連携し実習を行っている。5～6名の少人数の学生に1名の実習指導者が、実習終了まで一貫して指導し、実習をとおり看護の専門職として自己の責任を自覚し、医療チームの一員として協働活動に参加できる能力を身につけるよう設定している。 6. 理学療法士、臨床工学士などを養成する保健福祉学部の特性をいかし、シミュレーション学習や実践的なチーム医療を体験しながら、お互いの職種の理解を深め、チーム医療の中で看護職の役割を体得できるよう設定している。
理学療法学科	理学療法学科のディプロマ・ポリシーは、①健康に関連する専門職（allied health profession）としての理学療法士として、専門分野の学問内容や知識・技術を習得する、②生命に対して畏敬の念を抱き、豊かな人間性、良識及び教養を身につける、③健康に関わる問題・課題に対して真摯に取り組み、科学的根拠に基づいて論理的・客観的な視点を持ち、適確な判断と行動がとれる、④健康に関わる他職種と連携を取り、協働し必要な支援・援助ができる、⑤理学療法の実践を通して積極的に社会に貢献できる、などである。これらを実現するために以下に挙げる教育内容を実践する。 1. 理学療法に関する基礎的教育と幅広い分野・領域に対する包括的教育の提供 理学療法に関わる基礎的教育はもとより、広く保健・医療・福祉の分野・領域に関連する理学療法の知識・技術を習得する。また、理学療法で広がりを見せている分野（特に呼吸・循環・代謝、健康予防、スポーツ、地域ケアなど）、関連分野（社会学、保健学、社会福祉学、生活環境学など）について包括的教育を実践する。 2. 円滑で継続的（連続的）な教育カリキュラム設定 1～4年の学年進行に沿い、基礎科目・専門科目・実習科目などが円滑に継続的（連続的）に学習できるような履修配置をしている。1年次では「専門基礎分野」として基礎医学、基礎理学療法など、2年次では「専門分野」として臨床医学、理学療法関連専門科目など、3年次では「理学療法専門分野」として疾患（障がい）別の理学療法（実習を含む）、理学療法研究関連など、4年次では「臨床総合分野」として総合臨床実習、理学療法管理学、理学療法総合演習、卒業研究などを配置している。 3. 初年度からの継続的な臨床（現場）体験ができる実践重視の臨床実習カリキュラム設定 臨床（実践）現場を継続的に経験・体験するために、各実習を1年次（医療機関での見学実習）、2年次（障がい児・者、高齢者施設での見学実習）、3年次（医療機関での評価実習）、4年次（医療機関での総合臨床実習）に配置している。 4. 身体（運動）機能解析のための先端研究機器の整備（活用） 3次元動作分析装置、筋活動解析装置、呼吸・循環機能解析機器など客観的解析（分析）に必要な先端研究機器の整備（活用）によって、研究活動への導入（実践）を行う。また、その他のリハビリテーション関連機器、理学療法に必要な機器（道具）を整備（活用）する。 5. 関連する他学科（他職種）との相互理解と連携 関連する他学科（他職種）と共通する科目履修や機会を捉えた交流体験（学内・学外での社会活動、調査活動など）を通して、お互いの職種の相互理解と連携の場を多く設定している。

診療放射線学科	診療放射線学科では、高度に進化した医療機器を操作するだけでなく、チーム医療の一員として協働活動に責任感と使命感を持って参加でき、専門職として常に探求心を持って医療に関わることができる診療放射線技師を養成する、という教育目標、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。 1. 豊かな教養を持ち、放射線診療を的確に遂行できる医療人を養成することを第一の目標とする。 2. 理系出身者のみならず文系出身者にも配慮した専門科目教育を目指す。 3. 1年次は基礎教養科目を中心として学習するが、専門科目も数科目配置する。また将来の目標職種である診療放射線技師の業務を理解し、国家資格取得に向けた学習のためのモチベーションを高めるため、早期体験学習として近隣の大学病院の放射線診療施設を、白衣着用して医療人の視点から見学・学習を行う。 4. 2年次からは、より専門的な検査学や診断学についての放射線専門科目を中心として学習する。 5. 3年次は学内実習や放射線を利用した実験が中心となる。学内に設置してあるCT装置やMRI装置を実際に学生が操作して実習・実験を行うことで、さまざまな放射線診療の目的を理解するだけでなく、各診断装置の操作方法を習得する。さらに高度に専門的な学習科目も授業に加える。 6. 3年次後半から4年次にかけて担当教官の指導の下に卒業研究を行い、課題発見・問題解決能力を養う。そして研究成果を口述発表することでプレゼンテーション能力を養い、さらには論文にまとめることで文書化能力を高める。 7. 4年次には実際の医療現場である臨床実習先病院において8週間の臨床実習を行う。この実習を通して実際の医療現場を体験するだけでなく、患者接遇、医療事故防止のための対策、医療倫理等についても学ぶ。 8. 学力不足の学生には別に特別講座を設けて指導し、学力向上を目指している。また放射線に関係する国家資格取得を希望する学生には専門の講座を開設し指導を行っている。
臨床工学科	臨床工学科は、医療と工学の連携を円滑に図るための基礎知識や技能の習得に加えて進歩する高度医療機器及び新技術への柔軟な対応能力を備えた臨床工学技士を育成するとともに、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。 1. 1年次では、専門への導入のための知識と一般教養を身につけるための一般総合科目、専門性にとらわれない幅広い視野と、豊かな人間性の育成を目指すために、形態機能学、医学用語、医用工学、早期医療体験などの科目を配置する。 2. 全学年を通じて、医学系と工学系を融合する臨床工学の専門的な知識を学ぶための科目、臨床実習のための科目を配置する。 3. 2年次以降では高度医療や新技術へ対応するための技能・技術を高めるとともに、それらの実践力を養い、また主体性、創造力及び課題発見・解決能力等の育成を目指す科目を配置する。 4. 2年次からの専門科目の演習・実習・実験においては、学生が主体的に研究・発表を行い、基礎的及び実践的な知識を修得しながら、臨床現場での対応能力、コミュニケーション能力や、問題解決能力、さらには共同研究の進め方など、社会及び医療で必要となる適応力を養う科目を配置する。 5. 3-4年次では、研究室配属をすることで長期間にわたる研究を通して、主体的学習、課題発見・問題解決能力を発展させ、先進的医療機器や新技術の開発が可能な能力を養う機会を設定する。 6. 4年次には、3年間学んできた基礎知識、専門知識及び実務技能をもとに、医療施設における臨床実習を実施し、医療の現場に触れるとともに総合的・実践的な能力を深められるようにしている。
口腔保健学科	口腔保健学科のディプロマ・ポリシーは、「歯科衛生士に必要な基本的・知識・技能・態度の修得に加え、高度化・多様化する歯科医療の現場や地域の医療・保健・福祉システムの中で他の専門職種と連携して口腔保健の専門職としての役割を担うための知識・技能・態度を修得する」などであり、これらを実現するために下記の教育を実践する。 1. 高い専門性を持つ歯科衛生士として必要な実践能力を確実に身につけるために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野と段階的な履修配置とし、全学年を通じて講義・演習・臨地（臨床）実習の順序で系統的に学修できるカリキュラムを構築している。また、コミュニケーション能力及び問題解決能力等を高めるために参加型授業やPBL、小グループ討議などを多く取り入れている。 2. 1年次は主として一般教養科目を配置し、豊かな人間性と社会人として必要な一般教養を身につける。1年次後期にアーリーエクスポージャーとして「口腔保健臨床実習Ⅰ（早期体験実習）」を幼稚園及び高齢者施設で実施し、3年次に行う同じ施設での臨地実習と連動させ、人の成長発育及び老化や死について学ばせる。1年次後期から2年次前期にかけて、専門科目を学ぶ上で基礎となる専門基礎科目を歯科衛生士学校養成所指定規則の教育内容に沿った形で編成している。2年次後期から3年次前期にかけて、歯科衛生士業務を実践するうえで必要な専門的知識・技能・態度を修得する科目を配置し、充実した学内設備で行うファントムを用いた基礎実習ならびに歯科診療ユニットを使用する相互実習などに多くの時間を当てている。また、「高齢者口腔保健衛生学」、「摂食嚥下リハビリテーション学」、「口腔介護学」及び「歯科医療リスク管理学」などは授業に演習も取り入れ、有病者や要介護高齢者等に対応するための知識・技能・態度を修得させる。食物栄養学科の教員が分担する「食生活指導論」では個人及び集団に対して食事指導ができる能力を養成する。3年次後期から4年次にかけて、学外の臨地（臨床）実習及び卒業研究を配置し、大学病院、一般病院、歯科診療所、高齢者施設、幼稚園及び学校等で実践的な技能・態度を修得させる。特に病院で行う実習では専門外来での歯科臨床、周術期の口腔ケア、NST（栄養サポートチーム）の業務等を見学・体験させ、現場での多職種連携を学ぶ。卒業研究では科学的思考及び判断力と問題解決能力を修得させる。 3. 学内の関連する他学科との専門職種間連携教育や学内外での交流体験及び臨地実習などを通して、医療・保健・福祉の現場での多職種連携を体得できるよう設定している。

【短期大学部】

生活科学科	生活科学専攻	生活科学専攻は、「ものづくり（ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アート）」業界で働くための教養と基礎知識、そして業界別の専門能力を養成するという教育目的、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を編成している。 1. 1年次 1) 社会に必要な知識と教養を身につけるために一般総合科目と、キャリア能力を養成する講義科目を配置する。 2) 専門能力を養成するうえで基礎知識となる、ライフスタイルを学ぶ講義科目を配置する。 3) 専門能力養成の重要な基礎技能である、デザインスキルとカラースキルを養成する講義や演習科目を配置する。 4) ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各専門業界における基礎知識や基礎技能を習得する講義や演習科目を配置する。 2. 2年次 1) ブライダル・ファッション、パティシエ、デザイン・アートの各分野では制作技能の向上を図る演習科目を配置し、卒業制作展で発表している。 2) パティシエのため、食品に関する専門的な知識を修得する講義科目を配置する。 3) ブライダルコーディネートではブライダルファッションショーの開催という共同作業を通じて、ブライダル業界の知識修得のみならず、社会における基本的思考能力や状況判断能力を養成するようにしている。
	食物専攻	食物専攻は、栄養士・食のスペシャリストを養成するというディプロマ・ポリシー実現のため、次の方針で編成している。 1. 教育内容・方法 1) 社会人に必要とされる幅広い教養を身につけるため一般総合科目を配置し、「文理学」で調理の基礎や食文化を学ぶ内容を設定している。 2) 1年次は、食品・栄養・調理に関する専門的な知識を理解するため、前期に講義を中心とした基礎的内容を学習し、後期に実験・実習で検証するよう設定している。 3) 学生が幅広く関心のある科目を履修できるよう、栄養士の基礎科目及び専門科目に加えて、食品関係資格に通ずる科目、教職に関する科目を設置し、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。 4) 2年次は、基礎から応用につながるような講義と実験・実習を取り入れ、卒業時に応用・実践力をそなえた栄養士を育成するため、系統立てた教育内容を実施している。 5) 向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を身につけるため、食品や栄養学的な知識を基にした調理技術、ライフステージおよび疾病に対応した献立作成能力、食育を行える栄養指導能力をつけるなど、多様な実験・実習科目を提供している。 6) 2年後期の「給食運営管理実習(臨地実習)」では、集団給食施設において、これまで学習した専門的知識と技術を統合するとともに、チームの一員として役割を理解し、協調性を持ちかつ主体的な行動がとれるような育成を目指している。 2. 教育評価 学習成果は、各科目シラバスに到達目標と成績評価方法を明記し、それに基づいて到達度を評価する。またGPAを算出し、総合成績評価を行っている。
	保育科	保育科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している保育者として必要な能力を修得するために次の方針で編成している。 1. 2年間で、全学生が保育士資格及び幼稚園教諭2種免許状を取得することができる。 2. 社会人として求められる幅広い教養を身につけ、心身ともに健康な人間を育成するために、一般総合科目を配置している。 3. 保育者の養成科目について、順序性を考慮し編成している。 4. 子どもの心身の発達について広く理解し、支援について学ぶために、子どもの心身の発達に関わる科目を配置している。 5. 保育者の役割と倫理について理解し、保育・教育の意義や内容・方法についての理解を深めるため、専門知識・技術の修得に関わる科目を配置している。 6. 保育現場での課題を発見し、新たな課題に対し自主的に問題解決に取り組むことができる柔軟で創造的な思考力を持った人材を育成するために、実習科目、保育・教職実践演習（幼稚園）を配置している。 7. 学生の主体性と協働性を養うことを目的とし、保育セミナー、おとぎのくに、ペンギンクラブ、子育て支援体験などの学科行事に参加・推進する機会を設けている。 8. 個々の学生の個性を伸ばし、表現力を養うことを目的として「音楽」等独自の科目や「おとぎのくに」など対外的な行事を設けている。 9. 社会の一員としての自覚を持ち、地域の人々と良好な関係が築けるよう、子育て支援のボランティア活動への参加を、キャリア教育の一環として推奨している。

言語コミュニケーション学科	言語コミュニケーション学科のカリキュラムは、次に挙げるディプロマ・ポリシーによる要件に連動させながら編成している。 1. 言語に対する分析的な視点を形成するため、また、自分が暮らす国や地域の文化ならびに異文化に関する理解を深めるため、専門教育科目のうち「言語とコミュニケーション」と「日本語表現法」の履修を奨励し、「英米文化論」、「英米文学」、「異文化間コミュニケーション」、「日本文化論」、「日本文学」などを専門教育科目の核として設置している。また、英語の基礎・実践的英語力の養成分野においては、「英会話」や「実践英語」などの専門教育科目群を設置している。 2. 読み解く技術を習得するため、また、相手を説得できる表現能力を養成するため、「プレゼンテーション演習」などの専門教育科目を軸に、学んだ事柄の実践的な運用ができるような訓練を繰り返す。 3. チームで働く力を養成するため、また、将来的な職業生活・生涯学習に活かす素地を確立するため、主に「キャリアプランニング」、「観光総論」、「旅行業務入門」などの専門教育科目群を設置し、社会人としての基礎力を養う。
音楽科	短期大学部音楽科は、ディプロマ・ポリシーを実現するために、下記の教育を実施する。 ●音楽療法コース 1. 全学年を通して、全国音楽療法士養成協議会の定める「音楽療法士（2種）養成の教育課程」にしたがい、音楽、音楽療法、音楽療法関連の各分野を学ぶための科目を順次配置する。 2. 1年次は、幅広い教養を身につけるための「一般総合科目」と、音楽療法士に必要な演奏能力を養うために、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。そして音楽療法を概観する「音楽療法概論」、「音楽療法演習」を配置する。 3. とくに1年次後期には、2年次より開始される実習に備え、「音楽療法概論Ⅱ」として、アメリカ音楽療法協会発行の臨床実施基準（AMTA Standards of Clinical Practice）にもとづき、1)紹介と受け入れ、2)アセスメント、3)治療計画、4)実施、5)ドキュメンテーション、6)終結、という実践のプロセスを徹底して学ぶ科目を設ける。 4. 2年次の「音楽療法実習」では、「事前指導」を配置し、教員及び学生間による援助を大きく受けながら、地域の病院、福祉施設等の高齢者のニーズを特定し、グループ音楽療法サービスを実践する機会を提供する。 5. 2年次の「音楽療法実習」において、地域で自身がおこなったセラピーについてテーマを設定し、プレゼンテーションをおこなうことをもって「卒業研究」とする。これにより、自らの探求する力、また音楽療法を他者に伝え、説明する力を養う機会を創出する。 ●演奏コース・ニューサウンドコース・総合音楽コース 1. 1年次は、音楽の学修方法を基礎から学ぶと同時に、音楽に対する学修意欲を高めるため、基礎的な内容の「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」を配置する。また、幅広い知識を身に付けるための「一般総合科目」を配置する。 2. 一部の演習系科目と実技系科目においては、習熟度別のクラス編成を行い、一人ひとりの個性を重視する体制を構築している。 3. 全学年を通して、「理論系科目」、「演習系科目」、「実技系科目」において、基礎的な内容から専門的な内容の科目まで、順次配置する。 4. 中学校教員免許（2種）を取得するため、また音楽指導者をめざすための科目として、全学年を通し、「教育系科目」を順次配置する。 5. 音楽療法士（2種）を取得するための科目として、全学年を通し、「音楽療法系科目」を配置する。 6. 2年次修了時には、卒業研究として専攻実技の卒業試験を実施し、2年間の研究成果を評価する。 7. 「卒業演奏会」を開催し、卒業試験における成績優秀者には発表する機会を提供する。
商科	商科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーに明記している能力を習得するために次の方針で編成している。 1. ディプロマ・ポリシーを実現するために5つの科目群を配することで、履修科目が特定領域に偏ることなく、社会人に求められる幅広い知識を身につけることが可能となる。 科目群は「教養」、「キャリア能力」、「コミュニケーション能力」、「実務能力」、「専門能力」の5つである。 2. 各科目群における科目の配置は以下の通りである。 「教養」科目群には社会人として弁えるべき話法、礼儀やマナー、情報の取扱の基本、生活を規律する基本的な法律を1年次の科目として配置している。 「キャリア能力」科目群は、入学後1年足らずで就職活動が始まることに鑑み、社会人としてのキャリア形成や人生設計を自らの力で方向付けをするための科目を配置している。 「コミュニケーション能力」科目群には、コミュニケーション能力を育む科目を配置している。 「実務能力」科目群には、簿記やパソコン、医療事務やビジネススキルに係る科目を配置している。これらの科目は、ビジネス社会で能力評価の参考とされることが多く、資格取得により到達レベルの判定が可能である。 「専門能力」科目群には、経済、商業・経営、および法律系科目を配置している。広い視野で物事を考え、柔軟な発想のできる人材養成に繋がると考えている。 なお、簿記とパソコンはビジネスの幅広い領域で必要とされることが鑑み、一部を必修科目としている。また、経営学および経済学も、社会の現状を捉える際の基本的領域と判断し、一部を必修科目としている。

(3) 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学の教育は、明治28年の学園創立以来、建学の精神「自立協同」に基づき、一人ひとりが自立し、協同して社会に貢献できる人材の育成をめざしています。

【求める人物像】

- ①教育理念及び教育内容に共感し、強い学びの意欲を有する人
- ②知識や技能を修得するために必要な基礎的学力など、大学教育を享受する備えができている人

【入学者受入指針】

各学部・学科でその専門となる内容を学ぶためには、広い視野と知識が求められます。このため、高等学校等で幅広く基礎的な勉強に励み、大学の授業を受ける土台を身につけた人を求めます。また、入学者選抜では、学力のみでなく、調査書や面接等とおして、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、問題を発見し、自ら問題を解決する姿勢を評価します。

【大学院】

研究科名	専攻名	博士前期課程	博士後期課程
薬学研究科 (4年課程)	薬学専攻		求める人物像 医療・医薬品開発現場の中心的役割を担える薬剤師もしくは研究者になることを希望する学生を求めます。探究心と向上心、研究能力を備えた薬剤師としての独創性、さらには医療人としての広い視野と高い倫理観を身につけ、医療現場で薬物治療の専門職として指導的役割を果たす薬剤師、ならびに医薬品開発の中心的な役割を担える研究能力を備えた薬剤師もしくは研究者になることを希望する人材及び、人類の健康増進に奉仕し、地域社会の発展に貢献する希望を抱く人材を求めます。 入学試験の基本方針 英語（生物）、英語（化学）において、研究能力としての英語力を評価します。面接において、研究能力や倫理観、志望動機などを評価します。
文学研究科	地域文化専攻	文学研究科は、地域社会の創造的発展に寄与しうる学識と研究能力、学問的客観性を体得した人材の育成を目指しています。地域文化専攻には「文化と地域」「言語・文学と地域」の二つの研究区分があり、それぞれの研究領域において、特別講義と演習を設定し、上述の目的を達成すべく教育と研究に取り組んでいます。本研究科は、専攻分野に必要な知識及び語学力を持ち、地域文化に深い関心と熱意を持って意欲的に学術研究を進めようとする人を求めます。	
工学研究科	システム制御 工学専攻	教育・研究 工学研究科では、高度な科学・技術教育を行います。専門テーマに沿った実験・実習を通して、未知への挑戦を含めた研究・開発の実践的かつ理論的能力をつけることを目指します。	
	ナノ物質 工学専攻	求める人物像 今日の高度な科学・技術に興味をもち、自ら進んで新しい科学・技術にかぎらず何事へも挑戦する気概と実行力のある人。	
人間生活学 研究科	人間生活学 専攻		求める人物像 ・人間生活学（臨床人間学・食生活学・生活環境学）の研究の基礎となる豊かな学識を養い、高度な研究能力を身につけたいと希望する人。 ・人間と生活に関する高度専門職業人・研究者となり、学芸の進歩に貢献したいという意欲のある人。
	・食物学専攻 ・生活環境情報学専攻 ・児童学専攻 ・心理学専攻 (臨床心理学コース)	求める人物像 ・人間生活を取りまく食物学・生活環境情報学・児童学・心理学に関する高度の専門性が求められる職業を担うための、深い学識と能力を培いたいと希望する人。 ・各専門分野の理論と応用を研究し、学芸の進歩と創造に貢献したいという意欲をもつ人。	

看護学研究科	看護学専攻	看護学研究科は、地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者及び看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから、実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 博士前期課程で看護実践者、看護教育者、看護管理者として学ぶ意欲のある人 2 自分の関心のあるテーマを探究して修士学位論文を作成し、修士（看護学）の学位取得を目指す人 3 博士前期課程修了後、各自の領域において研究マインドを持って課題解決に取り組む意欲のある人 4 博士前期課程修了後、博士後期課程に進学する意志のある人	看護学研究科は、地域の保健医療福祉に貢献できる高度な看護研究者・看護教育者・看護管理者及び看護ケア提供者の養成を第一義的とすることから、実務経験を有する看護職者を積極的に受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 看護系教育機関における教育者・研究者として創造的に教育・研究を推進し、新たな看護学の知識体系の構築、開発に取り組む意欲を持っている人 2 チーム医療の中核的存在として学際的にマネジメントできる能力と高度な研究能力を発揮し、看護管理者として研究開発できる意欲を持っている人 3 看護実践のフィールドにおいて課題解決を推進する中心的指導力を発揮し、高度看護専門職を育成する意欲を持っている人 4 看護学の学問発展に向かって自律した研究者として挑戦的に研究に取り組む意欲を持っている人
総合政策学研究科	総合政策学専攻	総合政策学研究科は、法律、行政、経済、金融、企業経営に関する高度な研究や、政策実施現場での経験を通じ、地域社会の抱える問題を解決するための政策立案能力を身につけた人材を養成することを目的とします。 そのため、地方公共団体等の行政部門で活躍しつつ、高度な問題解決力を身につけようとしている人、地域の民間部門で活躍しつつ、地域の持つ特性や課題を分析しながら、地域の発展を支えようとする人、社会科学系学部だけでなく、理系、人文科学系などの様々な分野の学部を卒業して多様な基礎的知識を身につけた学部学生を広く求めます。 求める人物像 1 これまで長期にわたり、地域の行政部門や企業組織で活躍してきて、その活躍の場で明確な問題意識をもち、その解決策を考案し、研究を志す学生 2 地域の問題を明確に意識し、それを理論的知識と結びつけて、解決策を導く意欲をもつ学生 3 政策の実現に必要なとなる分析力、思考力及び表現力などの基礎的学力をもつ学生	

【専攻科】

音楽専攻科	求める人物像 1 学部教育における知識や技術、研究の上に立ち、より専門性の高い学修、研究と実践に努めようとする強い意欲を持っている人。 2 音楽専攻科で学修、研究した専門性の高い知識や技術、能力を生かし、社会における様々な音楽活動、音楽療法実践に対し積極的な参画をしたいと考えている人。
人間生活学専攻科	人間生活学専攻科は、人間生活学専攻と児童学専攻の2専攻からなり、人間生活学専攻では生活科学及びその隣接領域を、児童学専攻では児童学の分野を、それぞれ精深な程度において研究し、時代・社会の変化に対応できる高度な専門性をもった人材を育成しています。また、人間生活学専攻においては、養護教諭の専修免許状と中・高の家庭科専修免許状、児童学専攻では幼稚園及び小学校の専修免許状を取得できます。 求める人物像 1 各専攻における内容に関して、学士課程卒業に相当する知識・技能を修得している人を求めます。 2 幸せな生活の追究や、教育の改善等について、常に課題意識をもち、その解決に向けて意欲的に取り組んでいくことのできる人を求めます。
助産学専攻科	助産学専攻科は、高度な専門的知識や技術を持った助産師を育成するため、学士程度の学力と看護師資格を有する学生を受け入れることを基本方針とします。 求める人物像 1 助産師教育を学ぶ上で基礎となる学力を持っている人 2 お互いを尊重し、協力しながら主体的に行動できる人 3 豊かな人間性と社会性、倫理感性を持った人 4 生命の誕生に責任を持って真摯に向き合える誠実な人

【大学】

■人間生活学部

6学科それぞれで、人間生活に欠かせない学問分野を専門的に学び、豊かな生活が創造できる実践的な専門家（管理栄養士、幼・小・中・高教員、保育士、情報処理士、建築士、認定心理士など）を養成します。

1 学部の求める人物像

(1)各学科に必要な基礎知識を有し、それを生活や勉学で生じる疑問や課題の解決に応用することに興味・関心のある人を求めます。

(2)継続的な努力のできる強い意志をもつ人を求めます。

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。

一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容

人間生活学科	求める人物像 衣食住や保健、家庭、環境などについて専門的に学び、幅広い知識と豊かな教養を身につけた人材を育成します。「家庭科教諭」や「養護教諭」に加え「二級建築士」「上級情報処理士」「フードスペシャリスト」などの資格取得を支援します。そのため、人と生活に興味・関心があり勉学に意欲のある人、他者と協働できる人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 幅広い基礎学力をバランスよく身につけ、主体的に学ぶ姿勢や自分の考えを他者に伝える表現力を備えていること。
食物栄養学科	求める人物像 将来、ヒトの健康維持や疾病の予防・治療に貢献したい明確な意志と目標をもった管理栄養士を養成します。そのため、しっかりした基礎知識や能力を身につけ、学習に対する意欲や継続性、また協調性や柔軟性のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 「生物基礎」または「化学基礎」を修めていることが望ましい。
児童学科	求める人物像 豊かな人間性と確かな実践力に裏付けされた高度な専門性をもつ保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成をめざしています。そのため、次のような人を求めます。 (1)主体的に学ぶ姿勢と旺盛な探究心があり、専門的知識や技能の修得に積極的に取り組むことのできる人 (2)教職や保育職に強い関心と意欲があり、子ども一人ひとりに愛情をもち、子どもの思いに寄り添うことができる人 (3)周囲の人たちと豊かな人間関係を築くことができる人 (4)ボランティア活動の経験があり、人のために役立つことに喜びを感じ、社会への積極的な貢献に取り組む意欲のある人 高等学校等で修得が望ましい内容 各教科の基礎的学力をバランスよく修得し、明確な目的意識や熱意があること。
メディアデザイン学科	求める人物像 メディアテクノロジーを活用して、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を身につけた人材を育成します。そのため、情報メディアの活用に意欲・関心がある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要なとなる基礎学力（特に国語、数学）を身につけていること。
建築デザイン学科	求める人物像 建築デザイン学科では、豊かな暮らしを求め、住まいに関する知識また技術を基に、建築・デザインに興味を持ち創造への意欲のある方、そのうえ自らの考えを的確に表現することのできる人物を広く求めています。また、建築士や設計士はもとより、宅地建物取引士や中・高の家庭科教員を目指すなどの意欲のある方を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要なとなる基礎学力（特に国語、数学）を身につけていること。
心理学科	求める人物像 現代心理学の知見に基づく科学的な知識と思考（冷静な頭）と、臨床心理学の基本である他者への共感的理解（温かい心）をもった人材を育成します。また、児童生徒の心理に強い「養護教諭」、高い専門性で社会に貢献する「臨床心理士」、国家資格「公認心理師」取得の援助を行います。そのため、人の心や社会とのつながりを大切にし、積極的・自主的に学ぶ意欲のある人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 専門科目等の修学の際に必要なとなる基礎学力（特に国語、数学）を身につけていること。

■音楽学部

1 学部の求める人物像

(1)音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人

(2)音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

(1)音楽の基礎的知識や能力を身につけていること。

(2)部活動やボランティア活動に参加するなど、音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身につけていること。

(3)自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。

3 入学試験の基本方針

さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。特に実技、面接などでは、個人の持っている能力の可能性を評価します。

■薬学部

1 学部の求める人物像

薬学部では、医療人として「くすり」の専門家を担う薬剤師を養成します。チーム医療で必要な多職種間連携を実践する人間力を育てるために、最新の薬学を勉強するとともに、豊かな教養と人間性を身につけ、地域や国際社会に貢献できる資質を備えることが重要であると考えています。そのために、密度の高い日々の学習や研究活動への参加をとおして、より深い基礎学力、研究マインド（課題発見能力と問題解決能力）、コミュニケーション能力を養成します。このような薬学部での取り組みに共感し、薬学部の勉強に取り組みたいと強い意欲をもっている人を求めます。

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)薬学部での修学内容に対応可能な基礎学力を、高等学校等において修得している。
- (2)課題や問題に対し主体的に対応できる能力をもっていること。
- (3)豊かな人間性、協調性、コミュニケーション能力を有し、将来において医療人として活躍する明確な意欲をもっていること。

3 入学試験の基本方針

さまざまな角度から受験者の資質、能力や将来性を把握するために、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜を実施します。

■文学部

3学科でそれぞれ、日本文化、英語圏の文化及び日本の文化遺産に関する幅広い教養と専門的な知識を身につけた、応用力のある思考と行動ができる人材を育成します。「自立協同」の建学精神に則り、教員と学生あるいは学生同士が議論を交わし、主体的に学びを深めようと望む人を求めます。

1 学部の求める人物像

- (1)感性に富み、問題意識を豊かにもつ、積極性のある人
- (2)目標をもち、継続的な努力ができる人

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。
一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容

日本文学科	求める人物像 日本文学・語学に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 国語総合における古文と現代文の履修をとおして、日本の文学作品を味読・分析するのに必要な読解力と文法力を身につけていること。
英語英米文化学科	求める人物像 英語や英語圏の文化に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 コミュニケーション英語や英語表現の履修をとおして、特に英語によるリーディングやライティングに関する基礎的な力を身につけていること。
文化財学科	求める人物像 文化財や歴史・地理に対する旺盛な好奇心・探究心を有する人を求めます。 高等学校等で修得が望ましい内容 日本史や地理などの履修をとおして、文化財や遺跡の成立の背景となる歴史的・地理的事実や資料を読み解くための基礎的な力を身につけていること。

■理工学部

人や地球に優しい先端科学の知識や技術を修得し、理工学的基礎の理解に加え、応用分野の知識を備えた、実践的な科学者・技術者を育成します。

1 学部の求める人物像

- (1)自分の夢や目標をもち、継続的な努力ができる人
- (2)柔軟な発想力をもち、積極的な取り組みができる人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。
- (2)自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。

3 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。
一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

4 各学科の求める人物像

機械創造工学科	ロボットや自動車など、機械や電子制御に興味をもち、多くの仲間と協働作業をして「モノ」を作り上げることができる人を求めます。
電子情報工学科	電子・情報技術、電子回路、電気・電子機器、コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア）に興味があり、ものづくりが好きで精力的に取り組める人を求めます。
ナノ物質工学科	バイオ・医療あるいはナノ材料・ナノデバイスに興味をもち、地球環境の維持に貢献したい人や、未知への探求と未来への創造に積極的に挑戦したい人を求めます。

■総合政策学部

1 学部の求める人物像

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人を求めます。
(1)これまでの生活のなかで、価値観や意見の対立を克服した経験などをもとに、社会科学の基礎的知識を用いた問題解決策を立案する能力を身につけたい人
(2)将来、企業社会、公共分野、国際社会といった実社会の問題を解決するために、多様な価値観や考え方を知り、広い視野を有するゼネラリストとして活躍したい人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)思考力・判断力・表現力等の能力
 - ①一定量の日本語又は英語の文章を読み、筆者の考え方をくみ取ることのできる基礎的能力
 - ②テーマを与えられて、自分の意見を的確に、一定の時間と分量で論理的に記述する能力
- (2)社会事象を分析・記述するための知識・技能
 - ①社会事象を分析・記述するために必要な「数学」・「簿記」の知識
 - ②現代社会に生じている課題や現代社会を支える制度についての基本的知識
 - ③社会問題の発見のための自然科学や人文科学の基礎的知識

3 入学試験の基本方針

求める人物像の主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度と、(1)思考力・判断力・表現力等の能力、(2)知識・技能を総合して判定を行います。学力試験だけでなく、調査書、志望理由書(作文)などの資料、面接試験での応答などを試験種別に応じて組み合わせます。一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを重点的に評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

■香川薬学部

1 学部の求める人物像

今日の高度に専門化が進んだ医療に携わる薬剤師には、専門職として薬及び病気についての深い知識だけではなく、患者に寄り添う豊かな人間性と高い倫理観が強く求められています。先進的なチーム医療において「薬のスペシャリスト（専門職）」として貢献でき、病気の苦しみを理解して医療にあたることのできる薬剤師を養成します。知識、技能と医療の心を身につけ、地域に密着して活躍する薬剤師をめざすため次のような人を求めます。

- (1)意欲、探究心が旺盛で明朗な人
- (2)医療に対して高い倫理観をもち、薬学分野で貢献したいという強い志をもつ人

2 高等学校等で修得が望ましい内容

- (1)幅広い知識を構築する基礎科目に加え、薬学の基盤となる理系科目を修めていること。
- (2)文章の読解・作成等に必要と言語能力、及び表現力を身につけていること。
- (3)知識を総合的に関連づけて問題解決する能力を有すること。

3 入学試験の基本方針

2の修得が望ましい内容(1)、(2)、(3)の観点から総合的に判断します。一般選抜では、(1)の観点から、各教科の基礎が身につけていることを重視します。学校推薦型選抜では(1)、(2)の観点に、総合型選抜では(2)、(3)の観点に重点を置き、高い学習意欲と明確な目的意識を評価します。

■保健福祉学部

人々の健康と福祉の向上をめざす、質の高い、社会に貢献できる有能な専門家（診療放射線技師、臨床工学技士、歯科衛生士、理学療法士、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士など）を育成します。

1 学部の求める人物像

高等学校等で幅広い基礎学力を身につけ、保健・医療・福祉に興味をもち、継続的な努力ができる人を求めます。

2 入学試験の基本方針

教科の履修と達成度を直接測る一般選抜に加えて、求める人物像に見合う意欲のある多彩な人材を受け入れるために総合型選抜及び学校推薦型選抜を実施しています。
一般選抜では各教科の基礎が身につけていることを評価し、総合型選抜及び学校推薦型選抜では高い学習意欲や学びへの明確な目的意識に重点をおいて評価します。

3 各学科の求める人物像、高等学校等で修得が望ましい内容

人間福祉学科	求める人物像 (1)社会福祉に関する興味・関心が明確であり、将来社会福祉の専門職として実践の場で活躍できる人 (2)社会福祉の支援において、他機関連携が非常に重要となっていることから、他者との協調性に富んだ人 (3)他者への思いやりを大切にし、他者の希望を実現するために、継続的な努力ができる人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)福祉の諸問題に対し関心をもち、社会の状況を理解し、思考してまとめようとする姿勢を身につけていること。 (2)自分の考え方を相手に伝えられる基本的な文章力と口頭表現力等のコミュニケーション能力を有すること。 (3)ボランティア活動等の社会活動への積極的な参加経験があること。
看護学科	求める人物像 社会に貢献できる有能な看護職を育成します。そのために、生命に対する倫理観をしっかりともち、入学後も豊かな人間性や論理的思考力・問題解決能力を培うために主体的に学び努力ができる人を求めます。 (1)人に対する興味・関心をもち、人の尊厳や権利を尊重し実践できる人 (2)広い視野をもち、自分自身を向上させるよう努力ができる人 (3)保健・医療・福祉の課題に関心をもち主体的に多様な人々と協働して学ぶことができる人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)「国語・数学・理科・英語」等の基礎的な科目全般を修めていることが望ましい。 (2)自分の考えを他者に伝える基本的な文章力を備えていること。
理学療法学科	求める人物像 社会に貢献できる有能な健康に関わる専門職(allied health profession)を育成します。そのために、次のような人を求めます。 (1)人間が好きで、生命に対する「倫理観」を備えている人 (2)入学前の生活全般の中で「何を経験し、何を考え、何を得たのか、将来に何を求めているのか」などを自覚し、それを実践（実現）していこうとする人 (3)医学（医療）に対する関心が高く、リハビリテーション（理学療法）分野に貢献したいという積極的な「意欲・情熱」に基づく「使命感」を備えている人 (4)他者の意見を聞き、自分の意見を他者に伝えるという「意思疎通（コミュニケーション）能力」を備えている人 (5)意思疎通に関わるプレゼンテーション経験等を多くもつ人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学・理科・英語の基礎科目を修めていること。 (2)部活動やボランティア等さまざまな活動に、自ら積極的に取り組んでいること。

診療放射線学科	求める人物像 日々大きく進歩を続けている医療技術に対応し、質の高い画像診断や放射線治療をめざし、さらにチーム医療に貢献することのできる診療放射線技師を育成します。そのために、次のような人を求めます。 (1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 (2)たゆまぬ努力と地道な自己研鑽を重ねることができると持続力と忍耐力がある人 (3)他者の意見を聞き、協調して物事を進めることができるコミュニケーション力がある人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2)自分の考えを他者に伝える基本的な文章力と表現力を備えていること。
臨床工学科	求める人物像 日々進化する高度な医療技術を提供できる「臨床工学技士」の養成をめざし、「自立協同」の建学精神のもと、チーム医療を実践できる医療人を育成します。そのために、次のような人を求めます。 (1)人間に対する深い思いやりと豊かな人間味がある人 (2)明確な目的意識と旺盛な学習意欲、何事にも自分の意見をもち、発言できる積極性がある人 (3)主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり、関わりをとおして成長することのできる人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)数学や理科の基礎科目を修めていること。 (2)基本的な思考力・判断力をもち、自分の考えを他者に伝える文章力と表現力を備えていること。
口腔保健学科	求める人物像 人々の健康増進の担い手としての使命感をもち、修得した口腔保健に関する高度な知識・技術及び問題解決能力を、保健・医療・福祉等の現場で多職種と連携して発揮できる、福祉のマインドをもった専門性の高い歯科衛生士を養成します。そのために、次のような人を求めます。 (1)歯や口及び全身の健康に興味をもち、歯科の病気の予防に貢献したい人 (2)「一生口からおいしく安全に食べること」を支える口腔保健の専門職に就いて、健康長寿に貢献したい人 (3)コミュニケーション能力と協調性のある人 (4)医療や福祉などに興味・関心をもち、その課題解決に貢献したいと考える人 高等学校等で修得が望ましい内容 (1)国語や理科、英語の基礎科目を修めていること。 (2)部活動やボランティア等さまざまな活動に、自ら積極的に取り組んでいること。

【短期大学部】

1 学部の求める人物像 (1)人間に対する深い思いやりなど豊かな心をもつ人 (2)旺盛な学習意欲があり、継続的な努力のできる人 (3)明確な目的意識をもち、自分の意見を発言する積極性がある人 (4)主体性をもって他者と協調・協力してあらゆる問題解決にあたり、関わりをとおして成長できる人 2 高等学校等で修得が望ましい内容 自分の考えを他者に伝える基本的な表現力を備えていること。 3 入学試験の基本方針 (1)教科の履修と達成度を直接測る一般選抜 (2)教科の履修と達成度に加えて、思考力・判断力・表現力等を測る学校推薦型選抜 (3)体験授業をとおして、多くを学び取る能力を測る総合型選抜入試体験型 (4)何かに挑戦した実績と、その発表をとおして表現力を測る総合型選抜入試自己アピール型 (5)継続的な努力のできる能力を測る総合型選抜入試課題提出型 (6)資格を踏まえ、より高度な内容を学ぶ意欲と能力を測る総合型選抜入試資格利用型 4 各学科・専攻の求める人物像	
生活科学科	生活科学専攻 (1)感性が豊かで、表現することに強い興味・関心がある人 (2)パティシエとして創作の基礎とその美的センスを磨きたい人 (3)ブライダルやデザインなどに興味・関心がある人
	食物専攻 (1)人とのつながりを大切に、主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を有する人 (2)健康や栄養、調理に興味・関心があり、食に関する学習に継続的に取り組むことができる人 (3)各種資格取得に励み、食の専門家をめざす人
保育科	(1)保育者をめざして努力できる人 (2)マナーを尊重し、他者とコミュニケーションをとりながら良好な人間関係を築くことができる社会性のある人 (3)子どもの保育及び教育に関心をもち、子どもに対し豊かな感性と温かい愛情をもって接し、人のために役立ちたい人
言語コミュニケーション学科	(1)観光ビジネス業界、航空ビジネス業界などに興味のある人 (2)英語学習に興味のある人 (3)文学・音楽・絵画・動画などを通じた異文化理解に興味のある人
音楽科	(1)音楽あるいは音楽療法に対する強い意欲と情熱を有する人 (2)音楽あるいは音楽療法を深く学び、社会に貢献したい人
商科	(1)社会で必要とされる各種資格取得に励み、就職に活かしたい人 (2)政治や経済などに興味・関心をもちとともに、自分の適性に相応しい進路を模索したい人 (3)他者とコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築くことができる社会性のある人

4. 就職状況

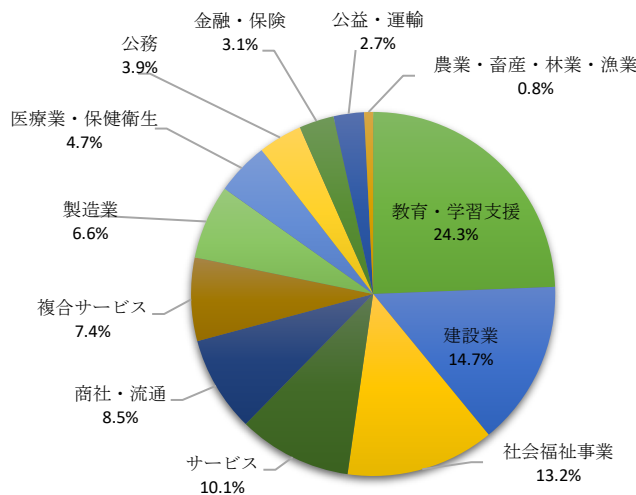
(1) 就職率

令和5年度卒業生	【大学】98.8%	【短期大学部】96.6%
令和4年度卒業生	【大学】99.0%	【短期大学部】100.0%
令和3年度卒業生	【大学】98.1%	【短期大学部】100.0%

(2) 学部別・業種別就職先

令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

【人間生活学部】



■人間生活学科

徳島市立福島小学校、愛媛県立しげのぶ特別支援学校、高松市立龍雲中学校、高松市立古高松中学校、三好市立山城中学校、高知県立須崎総合高等学校、那賀町立鷺敷小学校、松山市立桑原中学校、名護市立東江小学校、尼崎市役所、勝浦町役場、学校法人湘央学園 浦添看護学校、徳島バス株式会社、富士フエニチア、徳島県市町村職員共済組合、株式会社ティプロス、徳島日産自動車株式会社、株式会社マルワ メディカル事業部 等

■食物栄養学科

松山市立みどり小学校、徳島市立川内北小学校、美波町立日和佐中学校、香川県庁、徳島県立徳島視覚支援学校、新居浜市十全総合病院、シダックス株式会社、たねやグループ、チノパン、ディオクリニック 大阪梅田院、ベストリハ株式会社、愛の家 グループホーム 土佐蓮池、伊東電機株式会社、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人三成会 水の都記念病院、医療法人志誠会、医療法人社団阿南歯科クリニック、医療法人社団光風会 三光病院、医療法人真成会 原田内科、医療法人雙和会 クワヤ病院、株式会社 Buy Sell Technologies、株式会社 土井志ば漬け本舗、株式会社 IMKホールディングス、株式会社T o b e、株式会社アテックス、株式会社キョーエイ、株式会社さわ、株式会社ハローズ、株式会社メフォス、株式会社ロック・フィールド、株式会社中央、株式会社東洋食品、株式会社徳島航空サービス、株式会社徳島大正銀行、株式会社母恵夢、四国乳業株式会社、社会福祉法人ウィステリア r i c c o 保育園、社会福祉法人鶴足津福祉会、社会福祉法人西室苑、社会福祉法人博栄福祉会 博栄保育園、東果大阪株式会社、日清医療食品株式会社、認定こども園 未来図こども園、富士産業株式会社、有限会社新居パイオ花き研究所 等

■児童学科

つるぎ町立貞光小学校、まんのう町立琴南小学校、岡山市立幡多小学校、岡山市立興除小学校、沖縄市立北美小学校、海士町立福井小学校、串本町立出雲小学校、高知市立初月小学校、高知市立小高坂小学校、四国中央市立長津小学校、四国中央市立三島小学校、糸島市立前原小学校、糸島市立前原南小学校、小松島市児安小学校、小田原市立豊川小学校、松山市立北久米小学校、松山市立味生第二小学校、上勝町立上勝小学校、上板町立高志幼稚園、寝屋川市立国松緑丘小学校、須崎市立浦ノ内小学校、西脇市立西脇小学校、長岡京市立長岡第三小学校、土成中央認定こども園、那賀町立鷺敷小学校、南国市立岡豊小学校、八重瀬町立東風平小学校、美馬市立木屋平小学校、豊中市立刀根山小学校、北島町立北島小学校、北島町立北島北小学校、徳島市立大松小学校、徳島市立南部中学校、徳島市立福島小学校、学校法人清和幼稚園、学校法人村崎学園 徳島文理大学附属幼稚園、学校法人明正学園 幼保連携型認定こども園桃の木幼稚園、阿南市立富岡保育所、古津賀保育所、石井町立高川原保育所、板野町立板野保育園、吉野川衛生有限会社、H I T O W A キッズライフ株式会社 わらべうた桜新町保育園、ぐんも調剤薬局、ワンハート合同会社 児童デイワンハート、株式会社 くま高原ドライビングスクール、株式会社セイコーハウジング、株式会社ユニクロ、株式会社新来島徳島どつく、社会福祉法人 あけぼの福祉会 わかくさこども園、社会福祉法人 靖美福祉会、社会福祉法人あゆみ福祉会 あゆみ園、社会福祉法人いずみ福祉会 幼保連携型認定こども園 I Z U M I、社会福祉法人つつみ会 たんぼぼ学園、社会福祉法人ハート福祉会 エクセレント南部こども園、社会福祉法人みずほ会 みずほ保育園、社会福祉法人嬌風会 徳島児童ホーム、社会福祉法人親愛福祉会 松茂ひまわり保育園、社会福祉法人和田島福祉会 かがやき保育園、徳島バス株式会社

【進学】鳴門教育大学大学院 高度学校教育実践専攻科 等

■メディアデザイン学科

アスカ株式会社、エイム株式会社、スカイレンタカー四国株式会社、テック情報株式会社、トランスコスモス株式会社、株式会社 氷上ナーセリー、株式会社 I 2 C、株式会社 I D O M、株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社アルテニカ、株式会社シーエーシー、株式会社スズキ自販徳島、株式会社テレコメディア、株式会社パートナー、株式会社桶幸ウチダ造花、高知ヤクルト販売株式会社、佐藤電設工業株式会社、大成技研株式会社

【進学】代々木アニメーション学院 クリエイター学部 イラスト科 等

■建築デザイン学科

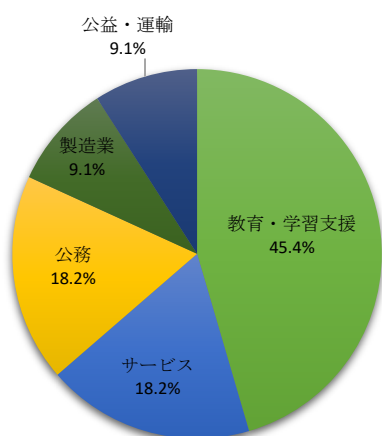
セントラルデザイン株式会社、株式会社阿波設計事務所、株式会社大建設工務、株式会社補償実務、アビリティセンター株式会社、株式会社コロナワールド、愛媛県土地改良事業団体連合会、あなぶきホーム株式会社、タマホーム株式会社、ミサワホーム四国株式会社、株式会社クラス、株式会社セントホームズ、株式会社サンフラワー、株式会社マリモハウス、大和ハウス工業株式会社、日亜化学工業株式会社、インフラテック株式会社、アール・エスホーム株式会社、株式会社岸之上工務店、吉田建設株式会社、大東建託株式会社、鳳建設株式会社、有限会社永高建設、株式会社 E V E R R I S E、株式会社四電工、ミタニ建設工業株式会社、井原工業株式会社、井上建設株式会社、株式会社アズマ建設、株式会社グリーンシステム、株式会社合田工務店、株式会社三木組、株式会社小竹組、株式会社新井組、株式会社石川組、株式会社北島建設、五洋建設株式会社、上村建設株式会社、西松建設株式会社、大旺新洋株式会社、中山建設株式会社、株式会社松本建設 等

■心理学科

愛媛県教育委員会、鳥取県教育委員会、羽村市役所、高知県庁、東大阪市役所、徳島県警察本部、徳島県庁、E v a n d 株式会社、S O M P O ケア株式会社、エイチ・アンド・エム ヘネス・アンド・マウリッツ・ジャパン株式会社、コーナン商事株式会社、プライムブラネットエナジー&ソリューションズ株式会社、マックスバリュウ西日本株式会社、ライクスタッフィング株式会社、阿南信用金庫、医療法人研富歯科医院、一宮運輸株式会社、株式会社 三葉、株式会社 e l e v e n n i n e、株式会社 MCC マネジメント ココカラファイングループ、株式会社 S O U、株式会社かんぽ生命保険、株式会社グランドプラス、株式会社コープ葬祭、株式会社コスモス薬品、株式会社ティプロス、株式会社バル、株式会社フェイスグループ、株式会社マーキュリー、株式会社阿波銀行、株式会社育星会、株式会社桶幸ウチダ造花、株式会社関西シー・アイ・シー、株式会社高知銀行、株式会社四国自動車部品商會、株式会社四国中検、株式会社東京日商エステム、高知県農業協同組合 (J A 高知県)、児童発達支援・放課後等デイサービス あさがお、社会福祉法人弘善会 児童養護施設讃岐学園、社会福祉法人四恩学園、社会福祉法人清浄園、社会福祉法人福知山学園、徳島トヨタ自動車株式会社、南商事株式会社、日亜化学工業株式会社、日本フレン株式会社、日本興業株式会社、日本赤十字社 徳島赤十字病院、有限会社エスエヌ企画、有限会社ケアーズ

【進学】専門学校徳島穴吹カレッジ、芦屋大学大学院教育研究科教育学専攻、徳島文理大学大学院人間生活研究科心理学専攻 等

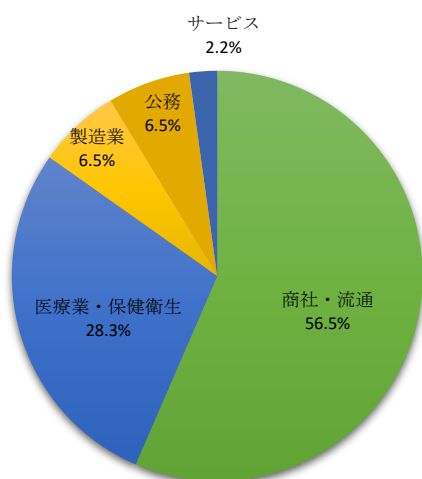
【音楽学部】



■音楽学科

岡山県教育委員会、香川県教育委員会、徳島県教育委員会、姫路市教育委員会、徳島県庁、那賀町役場、日商友希株式会社、来待運送有限会社、ヤマハ株式会社、黒崎楽器、都ユニリス株式会社 等

【薬学部】

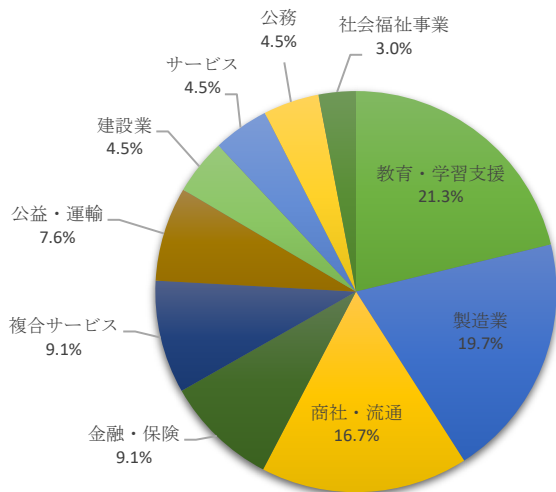


■薬学科

徳島県庁、国立大学法人徳島大学病院、独立行政法人国立病院機構 四国こどもととなの医療センター、I & H株式会社、SMS GROUP（ひかり薬局グループ）、イービーエス株式会社、ウエルシア薬局株式会社、クラフト株式会社（さくら薬局グループ）、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人むつみホスピタル、医療法人清和会 協立病院、医療法人倚山会 田岡病院、一般財団法人倉敷成人病センター、株式会社Yell Pharmacy、株式会社アインファーマシーズ、株式会社アルカ、株式会社ウィーズ、株式会社グローバル・アシスト、株式会社ジーセットメディカル、株式会社スギ薬局、株式会社バフモ、株式会社メディカルシステムネットワーク（なの花薬局）、株式会社レデイ薬局、株式会社新日本科学P P D、株式会社西部ファーマシー、協和キリン株式会社、社会医療法人生長会 ベルランド総合病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 有田病院、総合メディカル株式会社 福岡本社、大塚製薬株式会社、南日本薬品株式会社、日本赤十字社 徳島赤十字病院、富田製薬株式会社

【進学】徳島文理大学大学院薬学研究科 等

【文学部】



■日本文学科

国立大学法人高知大学、東かがわ市役所、コニックス株式会社、ネットヨタ香川株式会社、株式会社アイテック、株式会社ウィルオブ・ワーク、株式会社ウッドホーム、株式会社エースワン、株式会社コスモネット、株式会社ジェイコム、株式会社テルミ・エンタープライズ、株式会社ベルモニー、株式会社マーキュリー、株式会社レデイ薬局、株式会社村上製作所、株式会社百十四システムサービス、株式会社百十四銀行、関株式会社、高橋水道有限会社、四国開発建設株式会社、四国段ボール株式会社、社会福祉法人瑞祥会、浄福寺、日本エネルギー総合システム株式会社、学校法人村上学園 村上学園高等学校 高松校、愛媛県教育委員会、広島県教育委員会、香川県教育委員会、島根県教育委員会 等

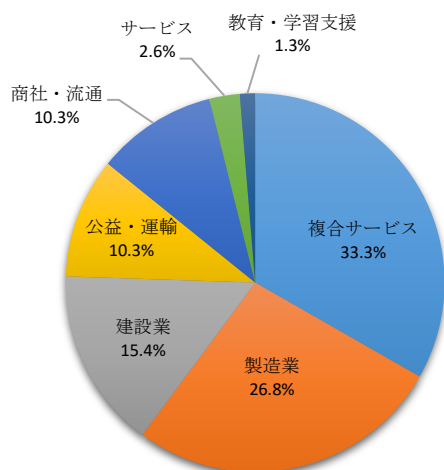
■英語英米文化学科

アイングループ 四国支店、アオイ電子株式会社、株式会社Kishida、株式会社コスモス薬品、株式会社サカイ引越センター、株式会社ツチヨシアクティ、株式会社バンクチュアル、株式会社香川銀行、株式会社保険ひろば 等

■文化財学科

行橋市役所、洲本市役所、学校法人KTC学園 屋久島おおぞら高等学校、学校法人香川県明善学園 英明高等学校、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、香川県教育委員会、高知県教育委員会、鳥取県教育委員会、ITXコミュニケーションズ株式会社、ダイレックス株式会社、伊丹産業株式会社、株式会社RISING、株式会社いのうえ、株式会社クラ・ゼミ、株式会社バイク館イエローハット、株式会社フジコー、株式会社マルキン、株式会社香川銀行、株式会社四国シキマパン、株式会社四国銀行、株式会社四国電子計算センター、株式会社村上製作所、公益財団法人やなせたかし記念アンパンマンミュージアム 振興財団、四国乳業株式会社、森山工業株式会社 等

【理工学部】



■機械創造工学科

コアスリー株式会社、ダイキンエアテクノ株式会社、ディーアンドアイ株式会社、パーソルエクセルHRパートナーズ株式会社、伊丹産業株式会社、株式会社K・クリエイト、株式会社KENKOU、株式会社SANN、株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社タイホー、株式会社テクノプロ テクノプロ・IT社、株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社、株式会社トーコー、株式会社トップエンジニアリング、株式会社メイテックフィルダーズ、株式会社四電工、株式会社寺内製作所、株式会社日本キャリア工業、四国化工機株式会社、四国計測工業株式会社、住友金属鉱山株式会社、誠和工機株式会社、多度津造船株式会社、竹田設計工業株式会社

【進学】京都工芸繊維大学工学部物質・材料科学域応用化学課程、徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻 等

■電子情報工学科

ALSOCK香川株式会社、WDB工学株式会社、トーテックアムニティ株式会社 東京本社、パソナ・パナソニックビジネスサービス株式会社、ワールドビジネスシステム株式会社、旭電業株式会社 岡山本社、株式会社アイビス、株式会社アウトソーシングテクノロジー、株式会社アビスト、株式会社アポロン、株式会社ウフル、株式会社エイジェック、株式会社ザグザグ、株式会社テクノプロ テクノプロ・デザイン社、株式会社フォーラムエンジニアリング、株式会社フジキン、株式会社メイテックフィルダーズ、株式会社ヤマダデンキ、株式会社穴吹カレッジサービス、株式会社四国電子計算センター、株式会社四国日立システムズ、株式会社四電工、株式会社菱友システム技術、三井E&Sシステム技研株式会社、山英電機株式会社、四国段ボール株式会社、創興業株式会社、東京コンピュータサービス株式会社、宝田電産株式会社、有限会社九天商店

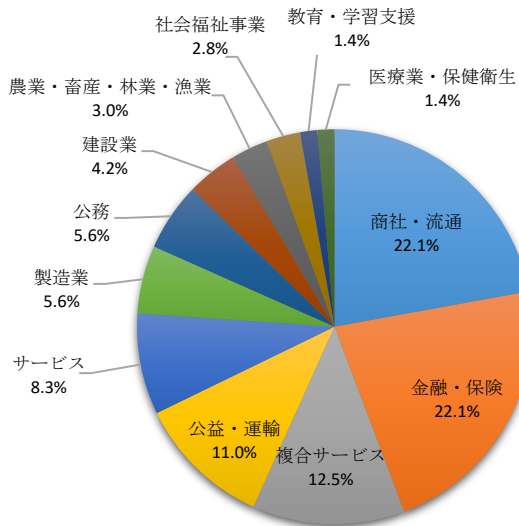
【進学】徳島文理大学大学院工学研究科システム制御工学専攻 等

■ナノ物質工学科

WDB工学株式会社、学校法人村崎学園 徳島文理大学、株式会社 一宮鉄工所、株式会社KSK、株式会社コスモス薬品、株式会社サニックス、株式会社ワイドエンジニアリング、株式会社一宮工務店、株式会社共立、泉鋼業株式会社、船場化成株式会社、創興業株式会社、東亜合成株式会社、徳真電機工業株式会社、日生化学株式会社、明星産商株式会社

【進学】徳島文理大学大学院工学研究科ナノ物質工学専攻 等

【総合政策学部】

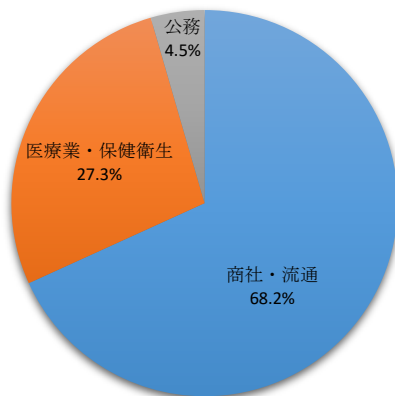


■総合政策学科

高知県警察本部、徳島県庁、徳島市役所、美波町役場、アルフレッサメディカルサービス株式会社、エコトラスト株式会社、コムチュア株式会社、ゼビオ株式会社、セントケア・ホールディング株式会社（セントケア・グループ）、トヨタカローラ徳島株式会社、トヨタモビリティパーツ株式会社、ニホンフラッシュ株式会社、ネットヨタ徳島株式会社、はるやま商事株式会社、阿南信用金庫、愛媛信用金庫、医療法人勝榮会 いりたに内科クリニック、宇和島信用金庫、越智今治農業協同組合（JAおちいまばり）、学校法人村崎学園、株式会社LASSIC、株式会社NEXT ONE、株式会社NEXTスタッフサービス、株式会社うるるBPO、株式会社エス・ビー・シー、株式会社グッドライフ、株式会社ケアリッツ・アンド・パートナーズ、株式会社ケー・シー・ジー・センター、株式会社シーエー・アドバンス、株式会社スズキ自販徳島、株式会社スタッフサービス・エンジニアリング、株式会社トラスト、株式会社ドラッグストアモリ、株式会社パジェット・レンタカー四国、株式会社ハローズ、株式会社ビッグ・エス、株式会社メディコム、株式会社リーガロイヤルホテル広島、株式会社ワールドインテック、株式会社阿波銀行、株式会社愛媛銀行、株式会社京屋サンティアー、株式会社高知銀行、株式会社西原商会、株式会社徳島大正銀行、株式会社浜幸、株式会社母恵夢、株式会社韋駄天、機動建設工業株式会社、四国三菱電機販売株式会社、全国共済農業協同組合連合会 愛媛県本部、大阪商工会議所、中山建設株式会社、徳島県国民健康保険団体連合会、徳島県信用保証協会、徳島県農業共済組合、徳島市農業協同組合（JA徳島市）、徳島信用金庫、日本エネルギー総合システム株式会社、日本セラミック株式会社、有限会社樫山農園、宮崎基礎建設株式会社、独立行政法人水資源機構

【進学】ECCコンピュータ専門学校 マルチメディア研究学科 等

【香川薬学部】

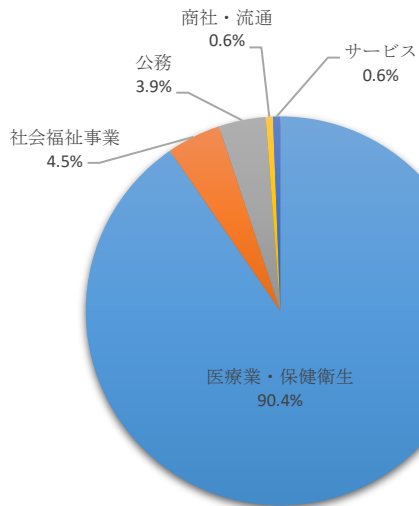


■薬学科

香川県庁、香川県病院局、三豊総合病院企業団 三豊総合病院、国立大学法人高知大学 高知大学医学部附属病院、国立大学法人大阪大学 大阪大学医学部附属病院、エバグリーン廣基株式会社、ファルメディコ株式会社、株式会社アインファーマシーズ、株式会社クスリのアオキ、株式会社ザグザグ、株式会社ホリスティック、丸十株式会社、香川県厚生農業協同組合連合会 屋島総合病院、有限会社エコ薬局、有限会社エムシーアシスト（えむ調剤薬局） 等

【保健福祉学部】

徳島キャンパス：人間福祉学科、看護学科、理学療法学科、口腔保健学科



■人間福祉学科

西条市役所、徳島県人事委員会、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人青樹会 城南病院、医療法人養生園 T A O K A こころの医療センター、株式会社SMILE、社会医療法人近森会 近森病院、社会福祉法人ふるさと会、社会福祉法人高知県社会福祉協議会、社会福祉法人徳島県社会福祉事業団、徳島健康生活協同組合 徳島健生病院

【進学】徳島文理大学大学院看護学研究科看護学専攻、河原デザイン・アート専門学校 等

■看護学科

愛媛県人事委員会、愛媛県庁（病院）、沖縄県立病院、加古川市役所、高松市立みんなの病院、高知県・高知市病院企業団 高知医療センター、坂出市立病院、市立八幡浜総合病院、東みよし町役場、徳島県病院局、兵庫県立 こども病院、兵庫県立 加古川医療センター、兵庫県立 淡路医療センター、（独）地域医療機能推進機構 りつりん病院、（独）地域医療機能推進機構 中京病院、国立大学法人京都大学 医学部附属病院、国立大学法人香川大学 香川大学医学部附属病院、国立大学法人神戸大学 医学部附属病院、国立大学法人徳島大学病院、神戸市民病院機構 神戸市立医療センター中央市民病院、地方独立行政法人神戸市民病院機構 神戸市立西神戸医療センター、地方独立行政法人那覇市立病院、独立行政法人国立病院機構 四国こどもととなの医療センター、独立行政法人国立病院機構 徳島病院、独立行政法人国立病院機構 姫路医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構 関東労災病院、独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院、（福）兵庫県社会福祉事業団 リハビリテーション中央病院、医療法人がじまるの会、医療法人橘会 東住吉森本病院、医療法人社団白療会 ブランクリニック、医療法人聖和錦秀会 阪和いずみ病院、医療法人徳洲会 吹田徳洲会病院、医療法人徳洲会 名古屋徳洲会総合病院、医療法人明和会 たまき青空病院、医療法人養生園 T A O K A こころの医療センター、医療法人倚山会 田岡病院、沖縄医療生活協同組合 沖縄協同病院、学校法人近畿大学 近畿大学病院、公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター、社会医療法人敬愛会 中頭病院、社会医療法人財団大樹会 総合病院回生病院、社会医療法人同心会 西条中央病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 大阪府済生会中津病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 兵庫県病院、東日本電信電話株式会社（NTT東日本） 関東病院、徳島県厚生農業協同組合連合会 吉野川医療センター、日本赤十字社 愛知医療センター名古屋第一病院、日本赤十字社 高松赤十字病院、日本赤十字社 神戸赤十字病院、日本赤十字社 福岡赤十字病院

【進学】徳島文理大学助産学専攻科 等

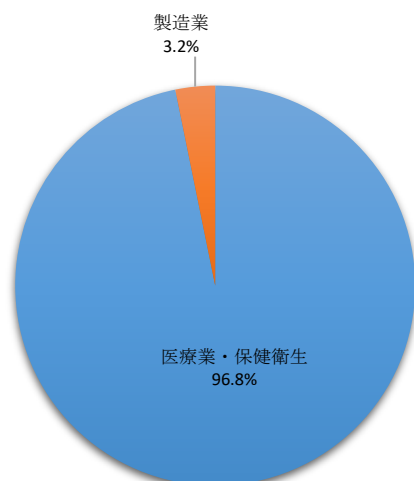
■理学療法学科

（独）地域医療機能推進機構（JCHO）神戸中央病院、国立大学法人高知大学 高知大学医学部附属病院、国立大学法人徳島大学病院、独立行政法人国立病院機構 近畿グループ舞鶴医療センター、独立行政法人国立病院機構 中国四国グループ 高松医療センター、NPO法人メディカルケア くによし整形外科、ベストケア株式会社、医療法人きたじま倚山会 きたじま田岡病院、医療法人ひまわり会 中洲八木病院、医療法人愛寿会 西条愛寿会病院、医療法人愛生会 兼松病院、医療法人協和会 協和会病院、医療法人橋本病院、医療法人財団博仁会 キナシ大林病院、医療法人社団K N I 北原国際病院、医療法人社団つばき会 牟礼病院、医療法人社団ふけ会 富家千葉病院、医療法人社団みのり会 三瓶病院、医療法人社団淡路平成会 東浦平成病院、医療法人社団和風会 橋本病院、医療法人道志社 リハビリテーション大神子病院、医療法人道志社 小松島病院、医療法人徳松会 松永病院、医療法人八重瀬会 同仁病院、医療法人平成博愛会 博愛記念病院、医療法人北辰会 西条市民病院、医療法人倚山会 田岡病院、一般財団法人弘潤会 野崎東病院、宇治武田病院、学校法人兵庫医科大学 兵庫医科大学病院、高橋整形外科リハビリクリニック、三条整形外科スポーツクリニック、社会医療法人近森会 近森病院、社会医療法人財団大樹会 総合病院回生病院、社会医療法人友愛会 豊見城中央病院、社会福祉法人かがわ総合リハビリテーション事業団、社会福祉法人白寿会、徳島健康生活協同組合 徳島健生病院 等

■口腔保健学科

いしかわ歯科医院、医療法人沖浜会 沖浜デンタルクリニック、医療法人河内友誼会 河内総合病院、医療法人輝樹会 喜多デンタルクリニック、医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院、医療法人小川歯科医院、株式会社モリタ、徳島健康生活協同組合、板東歯科医院 八万オフィス

【進学】徳島大学大学院口腔科学研究科 等



■診療放射線学科

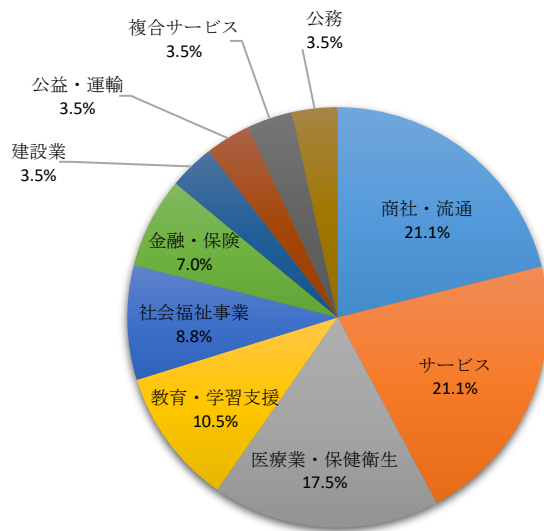
沖縄県立南部医療センター・こども医療センター、公立八鹿病院組合、香川県病院局、公立大学法人奈良県立医科大学 医科大学附属病院、国立大学法人広島大学 広島大学病院、国立大学法人香川大学 香川大学医学部附属病院、国立大学法人高知大学 高知大学医学部附属病院、独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター、独立行政法人労働者健康安全機構 和歌山労災病院、トリニティクリニック、医療法人賀新会 プライムホスピタル玉島、医療法人高川会 虹の橋病院、医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院、医療法人社団新進会 おさか脳神経外科病院、医療法人社団豊南会 香川井下病院、医療法人新松田会 愛宕病院、医療法人団仲会 奥島病院、医療法人満願会 画像診断クリニック、医療法人利光会 五反田病院、医療法人倚山会 田岡病院、一般財団法人積善会 十全総合病院、学校法人東京医科大学 茨城医療センター、吉峰病院、高知県厚生農業協同組合連合会 J A高知病院、社会医療法人愛仁会 明石医療センター、社会医療法人近森会 近森病院、社会医療法人鴻仁会 岡山中央病院、社会医療法人阪南医療福祉センター 阪南中央病院、社会医療法人真泉会 今治第一病院、社会医療法人仁愛会 浦添総合病院、社会医療法人仁友会 南松山病院、社会医療法人生長会 府中病院、社会医療法人千秋会 井野口病院、社会福祉法人恩賜財団済生会 今治病院、日本赤十字社 徳島赤十字病院 等

■臨床工学科

(大) 東海国立大学機構 名古屋大学医学部附属病院、IMS グループ (板橋中央総合病院グループ)、エア・ウォーター防災株式会社、医療法人協和会、医療法人康仁会 西の京病院、医療法人社団 宝樹みやの会 人工透析センター宮野病院、医療法人社団健愛会、医療法人住友別子病院、医療法人尽心会 亀井病院、医療法人伯鳳会 東京曳舟病院、香川県病院局、高松市立みんなの病院、国立大学法人香川大学 香川大学医学部附属病院、三豊総合病院企業団 三豊総合病院、社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院、社会医療法人愛仁会 明石医療センター、社会医療法人敬愛会 中頭病院、社会医療法人祥和会 脳神経センター大田記念病院、社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院、社会福祉法人聖隷福祉事業団、独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター、日本光電工業株式会社、日本赤十字社 高松赤十字病院、洛和会ヘルスケアシステム

【進学】高知大学大学院総合人間自然科学研究科医科学専攻 等

【短期大学部】



■生活科学科生活科学専攻

株式会社ジェイ・アイ・ティ、株式会社 ITX ジャパン、株式会社エヌディシージャパン、日本マニュファクチャリングサービス株式会社 等

■生活科学科食物専攻

ジャルロイヤルケータリング株式会社、レストラン オリーブキッチン、医療法人雙和会 クワヤ病院、一富士フードサービス株式会社、株式会社コスモス薬品、株式会社メフォス、株式会社神戸ポートピアホテル、日清医療食品株式会社、有限会社つくし のいち幼稚学園

【進学】徳島文理大学総合政策学部総合政策学科 等

■保育科

むつみ福祉会 福良こども園、阿南 5 star インターナショナル保育園、株式会社日本保育サービス（J P ホールディングスグループ）、社会福祉法人 川内南アコール会、社会福祉法人 島田会、社会福祉法人鴨島ひかり会、特定非営利活動法人こどもの発達研究室きりん

【進学】徳島文理大学人間生活学部児童学科 等

■言語コミュニケーション学科

防衛省 海上自衛隊、ラッフルズホーム株式会社、西日本旅客鉄道株式会社（J R 西日本）、株式会社エイチオーエス アオアヲナルトリゾート、総合警備保障株式会社、NOVA ホールディングス株式会社、MT & ヒルトンホテル株式会社 コンラッド東京、メリケンホテルマネージメント有限会社 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 等

■音楽科

医療法人たかがわ 虹の橋クリニック、株式会社ヤマハミュージックリテイリング、徳島トヨタ自動車株式会社 等

■商科

名護市役所、ウェルズベルモニーグループ、エステティッククラブ、ダイレックス株式会社、ネットトヨタ徳島株式会社、医療法人小川歯科医院、医療法人新松田会 愛宕病院、医療法人泊和会 はのうら眼科、医療法人明和会 たまき青空病院、医療法人養生園 T A O K A ころの医療センター、医療法人倚山会 田岡病院、株式会社ニチイ学館、株式会社阿波銀行、株式会社香川銀行、株式会社百十四銀行、関口建設、山添運送有限会社、生活協同組合とくしま生協、徳島三菱自動車販売株式会社、有限会社正木薬局

【進学】徳島文理大学人間生活学部メディアデザイン学科 等

5. 管理運営の概要

(1) 管理運営

法人の管理運営は、「寄附行為」「理事会規則」「常任理事会規則」及び「評議員会規程」に基づき、適切に行っている。

大学の円滑な運営を図るため、学園本部、教学部門及び事務部門の連絡調整機関として部局長会を設置し、大学の運営に関する重要事項の審議及び連絡調整を行っている。教育研究に関する重要事項を審議する場としては合同教授会を設けている。また、各学部には教授会があり、教授会は教育研究に関する事項を審議するとともに、学長に意見具申を行っている。

本学は徳島キャンパスと香川キャンパスを有しているが、効率化と負担軽減を図るため合同教授会にオンラインシステムを活用するなど、両キャンパス相互の連携・協力機能の保持に配慮した運営を行っている。

(2) 自己点検・評価

本学では、自己点検・評価について、大学全体として次のような取り組みを行っている。

教育と研究水準のさらなる向上をめざし、また、管理運営の健全化を図ること等を目的に平成4(1992)年7月、「自己点検・自己評価に関する規程」を制定した。平成19(2007)年10月、同規程を改定し、「自己点検・評価に関する規程」及び「自己点検・評価に関する細則」を設けた。これに基づき設置した自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を実施し、教育研究活動ならびに大学運営の改善・向上に努めている。平成27(2015)年10月に、自己点検・評価実施委員会を立ち上げ機能的に自己点検評価活動を行っている。

第3期認証評価(平成30(2018)年～令和6(2024)年)においては、内部質保証を重点評価項目として自己点検・評価の実施が求められており、本学でも中間年にあたる令和3(2021)年度に自己点検・評価を実施した。自己点検・評価結果については、報告書にまとめるとともにホームページに公開している。また、令和5(2023)年度には、評価機関による認証評価に向けて「自己点検評価書」及びエビデンス集一覧や法令等の遵守状況一覧の作成を行った。令和6年(2024)年度には、自己点検・評価実施委員会が作成した「自己点検評価書」を自己点検・評価委員会で承認し、評価機関に提出した。

(3) 情報公開

情報の公開は、私立学校法第47条ならびに学校教育法施行規則第172条の2に基づき、財務、経営情報および教育情報を大学ホームページにより公表している。

財務情報については「財務情報の公開に関する規程」等を制定し、学園本部に備え置き、学内関係者やその他の利害関係者からの閲覧請求に対応するとともに、学内通信「徳島文理大学通信」に掲載している。

(4) 施設設備

本学は徳島市と香川県さぬき市にキャンパスを展開している。

両キャンパスは校地・校舎ともに大学設置基準を十分に満たした面積を有している。

耐震化は既に完了しており、施設設備の計画的な改修等を行い、適切な維持、管理に努めている。

令和7(2025)年4月高松駅キャンパス開設に向けた建物建設工事の進捗管理及び備品調達管理を行った。

(5) 認証評価

平成16(2004)年4月1日からすべての大学、短期大学及び高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める期間(7年以内)ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関(「認証評価機関」)の実施する評価を受けることが義務付けられている。(学校教育法第109条第2項)

本学では、令和6(2024)年度に文部科学大臣が認証する公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受け、令和7(2025)年3月13日付で、「評価の結果、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している」と認定された。指摘された「改善を要する点」については、「改善報告書」を令和9(2027)年7月までに評価機構に提出する予定である。

また、徳島文理大学短期大学部は一般財団法人大学・短期大学基準協会から、令和7(2025)年3月14日付で、「徳島文理大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、適格」と認められている。

一方、分野別評価として、令和4(2022)年3月には保健福祉学部理学療法学科が一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査を受審し、認定された。また、令和2(2020)年2月に、香川薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。同じく、令和5(2023)年3月に、薬学部が一般社団法人薬学教育評価機構の6年制薬学教育評価を受審し、適合とされた。令和5年(2023)年度に教職課程自己点検・評価を行い、令和6(2024)年1月26日付けで一般社団法人全国私立大学教職課程協会より、事業の完了を認定された。

6. 中期目標・中期計画

(1) 計画期間

令和2年1月1日～令和8年3月31日

(2) 徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部中期目標・中期計画

○育成する人材像

本学は教育基本法及び学校教育法の趣旨に則り、自立協同の建学精神に基づき、次のような人物を育成することを目的とする。

大学は、広く高い教養と高度の専門的知識技能を教授研究し、人格の陶冶を図り、もって、教育研究の成果を社会に提供するとともに、文化の創造と地域及び世界の発展に貢献することのできる人物を育成する。

短期大学部は、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健な人格を涵養するとともに、我が国文化の高揚と地域の発展に貢献する有為な人材を育成する。

大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、もって、文化の進展と地域及び世界の発展に寄与することのできる人物を育成する。

項 目	中 期 目 標	中 期 計 画
教育研究	○教育研究の質の向上	
	(1) 教育課程の体系化を図ります。	・ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの一体性、整合性が確保されているか検証し、必要に応じ見直しを実施します。
		・ディプロマポリシーに沿った体系的な教育課程を編成するため、ナンバリングおよびカリキュラムツリーの活用等による順次性のある体系的なカリキュラムへの改定を推進します。
		・本学に相応しい教養教育のあり方について検討を行い、専門教育とバランスのとれた教育課程を実施します。
	(2) 教授方法の工夫改善を行います。	・年間履修登録単位数の上限の適正化や、シラバスの記載内容の見直し、学生の事前事後学修の検証を行う等、単位の実質化を図ります。
		・安心できる教育を実現するため、FDの取り組みを強化し、教育内容および教育方法等の改善を行います。
		・総合大学の特性を生かした文理融合の教育を充実し、各学部学科間の交流の拡充に取り組みます。
	(3) 学修成果の点検・評価を推進します。	・適切かつ効果的な方法で情報を収集・把握し、学修成果の可視化を図ります。
		・国家資格を目指す学部・学科等において、国家試験の合格率を向上・維持します。 教員採用試験、公務員試験等を目指す学生が在学する学部学科等において、合格者数を増やすための指導を充実します。
	○教育研究環境の充実	
	(1) 教育研究組織を整備します。	・社会的要請に積極的に応えるため、教学組織の見直しを随時行います。
		・本学の研究力の向上および研究活動の活性化を推進します。
	(2) 教育研究の施設設備を整備します。	・既存の土地や施設を有効活用し、安全で快適な教育研究環境を提供します。
		・ファシリティマネジメントの体系的な推進を図り、教育研究施設の維持・管理を徹底します。
	(3) 研究活動を支援します。	・科研費を含む外部研究資金確保に努めます。
		・研究活動にかかる不正行為防止に取り組むため、研究倫理を確立します。
大学運営	○大学運営組織の充実	
	(1) 入学定員を確保します。	・社会の状況、高校生の進学希望等を見極め、各学科の魅力を発信することにより入学定員を確保します。
		・高校生・保護者・教員をはじめとするステークホルダーに興味関心を持ってもらうため広報活動の充実を図ります。
	(2) 内部質保証を推進します。	・教育研究活動の質と学生の学修成果の水準等の内部質保証のため、自己点検・評価委員会を中心に自己点検・評価を推進します。
		・PDCAサイクルの仕組みを確立し、内部質保証システムを構築します。

項 目	中 期 目 標	中 期 計 画
大学運営	(3) 学生支援体制を整備します。	・充実した大学生活のために入学前教育、新入生導入教育等の改善に取り組みます。
		・学生からの意見・要望を生かし、学修支援、学校生活、学習環境等の充実に取り組みます。
		・学生一人ひとりの多様なニーズに対応するため、学生の心身に関する健康相談、生活相談等に取り組みます。
		・学生一人ひとりのキャリア形成および就職活動支援の充実に図り、進路選択の満足度を高める取り組みを行います。
		・学業成績および人物が優秀な学生、または経済的に就学が困難となった学生等に対する奨学金制度を整備します。
		・図書館における学術情報資源を充実させるとともに、利用方法の周知など利用の促進を図ります。
	(4) 管理運営体制を整備します。	・円滑に大学運営業務を遂行するため、学内規程の整備を進めるとともに、大学に求められる社会的責任を果たすため、コンプライアンス体制を整備します。
		・大学運営に関わる教職員の知識および技能等の修得、ならびに能力および資質等の向上を目的として、SDを推進します。
		・組織の活性化を図るため、人材の流動性を高め、教職員の適切な配置を行います。
		・緊急時の危機管理等、幅広いリスクマネジメント体制の確立を図ります。
	(5) 安定した財政基盤を確立します。	・安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保を図るため、中長期的な財務計画を設定します。
	(6) 広報活動を強化します。	・教職員との連携を密にし、多様な広報媒体により情報発信を図ります。
		・高等教育機関としての社会的説明責任を果たすため、教育研究活動等の情報の公表を促進します。
入試制度	○入試制度改革	
	(1) アドミッション・ポリシーの検証を行います。	・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの整合性を図りながら、アドミッション・ポリシーにおける養成したい人材像や必要な素養について検証します。
	(2) 新しい入試制度を整備します。	・高大接続改革に対応した入試制度を構築するため、継続的な見直し・検討を行います。 ・アドミッション・ポリシーに即して、資質の高い学生を受け入れることができるように、入試選抜方法別に選抜方法の適切性を検証します。
国際化	○国際化の推進	
	(1) 海外大学等との連携を推進します。	・学術交流協定、高大連携協定等に基づく海外大学等との各種プログラム等を通じた連携を推進します。
	(2) 国際交流を促進します。	・学生にグローバル人材としての知力・感性を付与し得る環境と機会を提供します。このため、留学生の受入れを促進するとともに、海外留学・研修制度／留学相談の充実強化を図ります。 ・海外からの留学生受入れを促進するため、留学生にとって柔軟で魅力的な学内体制を整備します。
ICT化	○ICT化の推進	
	(1) ICTによる教育・学修の支援を行います。	・学生が情報を適切に活用する技術を習得するとともに、情報モラルや情報に対する責任を持つ態度を身につけることに取り組みます。
	(2) 情報セキュリティ管理を行います。	・組織としての情報セキュリティ対策を確立します。
地域貢献	○地域連携の推進	
	(1) 地域社会との連携を推進します。	・多彩な教育・研究をともに行い、研究成果を社会に還元するため、産学官連携を推進します。
		・各キャンパスが地域の拠点として貢献できるように、地域連携事業を推進します。
		・高校生の学習・進学に対する意欲向上、および大学の学びへの接続を目的として、高校生のための公開講座を充実します。

(3)進捗状況

1)教育研究の質の向上

「自立協同」の建学の精神のもと、文化の創造と世界の発展に貢献することのできる人材育成を目指し次の取り組みを行った。

- ・デジタル社会で活躍できる人材を育成するため導入した「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の実績を踏まえたプログラム認定申請による認可
- ・総合大学の強みを生かして他学部他学科との相互連携を図り多職種連携講義を実施
- ・産学官連携による研究活動の拡充推進
- ・学生に対する教育の充実を図るための全学授業アンケート及び学修状況アンケート等の実施
- ・教育のさらなる質保証のため、f-GPA制度の導入
- ・学生の学修改善のための電子化した学修ポートフォリオの活用
- ・学習成果の可視化を図るため、卒業生にディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を発行

2)教育研究環境の充実

学生に高度な知識技術を身につけさせるため、教育研究を行うための頼りになる教職員組織、最先端の研究設備を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・新規採用及び学科間・事務局内等の人材交流による教職員組織の整備
- ・SD推進基本方針に基づく校内外の研修会への参加促進
- ・施設設備の調査、効率的な資金配分による施設設備の整備
- ・施設設備の修繕・改修時期の明確化並びに施設設備の効率的運用・管理
- ・高松駅キャンパス開設に向けた建設工事の進捗管理及び備品調達
- ・科学研究費を含む外部研究資金確保支援のための情報提供
- ・研究活動にかかる不正行為防止のための研究倫理の確立

3)大学運営組織の充実

急速に変化する時代や複雑化する社会からのニーズに対応した大学運営を行うとともに、学生が「安全」に学べる環境を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・令和6年度の認証評価を踏まえた大学運営の検討
- ・事前・災害発生時の危機管理体制を整備(危機管理マニュアルの改訂)
- ・公正・公平な業務遂行のためのコンプライアンス体制の整備
- ・財務基盤の確立と適正な会計処理の確立、経費削減の実施
- ・時代のニーズ等を踏まえた経営学科の設置並びに少子化等を踏まえた入学定員の削減
- ・積極的な本学の魅力発信のため、Webオープンキャンパス、HPやSNSを活用した広報活動の強化

4)学生支援体制の整備

学生からの学習、生活、就職における様々なニーズに対応した支援体制を整備するため以下の取り組みを行った。

- ・大学での学びに円滑に繋がる入学前教育、新入生導入教育の実施
- ・学生からの意見要望を生かしたより良い支援を行うための「学生生活に関する学長との懇談会」の実施
- ・本学独自の奨学金制度「徳島文理大学短期大学部修学支援制度」の導入準備
- ・在学中を通して就職活動を支援するキャリア推進プログラムの実施
- ・電子書籍およびラーニングコモンズ活用の推進など学生の満足度を高める図書館運営
- ・障がいのある学生への合理的配慮の提供への取組促進

5)国際化・ICT化・地域貢献の推進

複雑化する国際社会、急速に進展する情報社会で活躍する人材を育成するために国際化・ICT化を推進するとともに、地域の拠点として地域社会に貢献するために以下の取り組みを行った。

- ・薬学臨床体験学習ツールとして導入したVirtual Reality (VR) システムの活用
- ・学習用電子カルテ、高機能シミュレーター、ライブ配信システムなど看護教育のDX化の推進
- ・機能の充実とスマートフォンによる操作性向上のため導入した新学生ポータルサイトの検証改善
- ・国際社会での知力・感性を身につけることができる海外留学・研修制度の提供
- ・オンラインによる海外研修の成果確認に基づいた交流計画の見直し
- ・新しい時代に適応した教育実施のため整備した教室Wi-Fi環境の活用
- ・Sinet回線接続やBYODの導入など高松駅キャンパスのICT環境の整備
- ・地域の拠点として貢献するため、本学の教育力を活かした地域連携事業の推進

7. 特長ある取り組み

(1) 新型コロナウイルス感染拡大を契機とした学生支援の継続

1) 「100円カレー」と「50円うどん」の提供を継続

新型コロナウイルス感染拡大の影響で経済的に困難な状況に陥っている学生を支援するため、令和3(2021)年4月から徳島・香川両キャンパスの食堂で「100円カレー」と「50円うどん」の提供を実施している。昼食の時間帯に実施し、通常410円のカレーライス(ミニサラダ付き)を100円、210円のうどんを50円で提供、開始時は差額を大学が負担した。コロナ後も物価高が続いており学生支援の必要性から、令和6(2024)年度は、保護者会から差額のご支援をいただきこの取り組みを継続した。



2) 無料コピー機による支援を継続

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、学生支援の一環として、令和3(2021)年12月から学生が無料で使用できるコピー機を学生支援課前に設置している。令和6(2024)年度も継続し、使用実績は、174,536枚であった。



(2) 教育活動

1) 新入生導入教育等

平成19(2007)年度より新入生導入教育として理事長、学長等による「文理学」を開講した。また、教育目標の達成のために、年度初めに学生に履修ガイド、要覧を配布するとともに、オリエンテーションを実施し、教育課程の編制方針、学生にとって卒業に必要な単位数、履修科目について説明を行っている。低年次に一般総合科目・専門導入科目の履修を取り入れた、くさび型の教育課程を編成している。

2) シラバス

学生が授業科目・授業内容について、キャンパスガイド及びWeb上で公開されたシラバスにより常時確認できる体制を整えている。平成25(2013)年度より、授業形態と授業時間外学習の欄を設け、学生に時間外学習を促すための取組を行っている。また、平成29(2017)年からは学生からの相談に対応するため、備考欄に「オフィスアワー」を記載している。

3) f-GPA

令和6(2024)年度よりf-GPA (Functional Grade Point Average) 制度を導入し、教育のさらなる質保証に努めている。

f-GPAは、各科目の成績(100点法)を0~4.5の数値(0.1点刻みの値:グレード・ポイントという)に置き換え、該当科目のグレード・ポイントにその科目の単位数を乗じて、その合計値を総履修単位数で除した値であり、学生は学修成果を総合的に判断する指標として、自分の学修到達度を客観的かつ的確に把握することができている。

成績通知書には、その学期に履修した科目のみについて算出した「当期f-GPA」と当該年度の「年間f-GPA」、入学後全ての学期で履修した科目について算出した「累積f-GPA」の3種類を記載する。学科ごとにf-GPAによる個別指導基準(学科・学年毎の下位1/4f-GPA値程度)を定め、成績下位の学生に対して指導・助言している。

4) クォーター制の導入

平成26(2014)年度から一部科目においてクォーター制を導入した。本学では、科目の特性によりクォーター制とセメスター制を併用している。クォーター制では、講義が週2回行われるため、学修に集中ができ、講義毎の理解度を向上させることができる。また、定期試験が分散し一度に行われる試験科目が減少するため、学生は一科目への取り組みを強化することができる。

5) ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)の発行

令和4(2022)年度の卒業生(全学部・学科)から、ディプロマ・サプリメント(学位証書補足資料)を学科ごとに発行し、学修成果の可視化を図っている。令和5(2023)年度からは社会人基礎力の測定を行っており、社会人基礎力育成の指導に役立てている。

6) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

文理を問わず全ての学生にこれからのデジタル社会において必要とされる「数理・データサイエンス・AI」に関する基礎的な知識や技術を身に付けさせるため、令和5(2023)年度から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」を大学、短期大学部の全学科において、さらに理工学部と人間生活学部において、応用基礎レベルのプログラムを実施した。それらの実績を踏まえ、令和6(2024)年5月に、リテラシーレベルと応用基礎レベルの両プログラム認定の申請をし、同年8月に認可されたことを機に、プログラムの更なる充実を図っている。

7)3大学医療連携事業

本学が代表校となり平成20(2008)年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「香川総合医療教育研究コンソーシアム」をさらに発展させた事業で、本学、香川大学、香川県立保健医療大学の3大学が連携して、地域に密着したチーム医療を実践できる高度な総合医療人の養成に継続的に取り組んでいる。令和6(2024)年度は、香川大学と徳島文理大学を結んでの遠隔配信授業や交互の学生の授業見学のほか、香川大学医学部を会場として学術交流会を実施し、教員の講演と各大学の学生による研究内容表を行い、交流を深めた。

(3)研究活動

1) 特色ある教育・研究

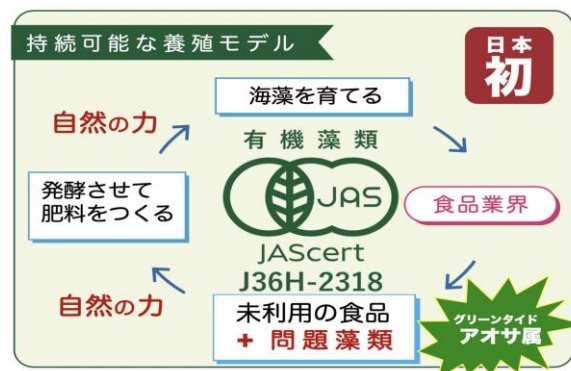
本学は科学研究費補助金、各種財団の研究助成金を獲得することを奨励しているが、それらの研究資金を補完するため大学独自の「学内競争資金制度」を有している。平成7(1995)年度より、若手教職員の育成、外部資金の獲得支援ならびに業務基盤の強化等を目的に、教職員を対象に学内公募を行い「特色ある教育・研究」に取り組んでいる。

令和6(2024)年度は、(1)大学教育充実事業(多様化する学生の意識と実態を踏まえ、退学防止に向けて学生の自立心・社会性・生きる力を育成するための教育・学習方法等の改善並びに、学生の生活指導及び支援の取組など)、(2)共同研究事業(応募者が主体となって、学内(学部・学科・研究科等にまたがるもの)あるいは学外(国内外の大学・産業界等)の研究者と行う共同研究)、(3)地域活性化・社会貢献事業(産官学連携、地場産業振興、社会貢献、学生と地域の協働企画など地域活性化・地域支援につながる取組など)に加え、本学が指定する事業(特定研究)として、(4)SDGsを支援する教育・研究(環境、社会、健康、経済などの分野でSDGsを支援する取組)の4つの事業内容で学内公募を行い、合計13件の応募があった。厳正な審査の結果、それぞれ4件、5件、1件、1件の合計11件が採択された。

また、令和6(2024)年9月12日(木)に全学発表会を開催し、令和5年度終了研究者による研究成果が口頭発表された。さらに、終了研究者の中から参加者による投票により優秀研究を選出し、2件の研究が表彰された。

2) 特別推進研究事業(藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション)

平成29(2017)年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択され、その後3年間、全学を挙げて本研究事業「藻類成長因子を用いた海藻栽培技術イノベーション」に取り組んできた。令和2(2020)年度からは、ブランディング委員会と全学研究委員会の承諾を得て、本学独自の特別推進研究事業として活動している。本研究は、本学が独自に開発した「緑藻類成長因子サルーンを用いた革新的海藻種苗生産技術」を核に、海藻類の安定栽培技術(陸上養殖システム)を確立し、地域の海藻養殖産業の発展と活性化に貢献することを目的にしており、薬学・環境科学・生物(理工)学・栄養学・総合政策学を専門とする学部学科が横断的に協働することで、地域を支える人材の育成と大学ブランド海藻の創生を目指した活動である。令和6(2024)年度は、大学発ベンチャーを牟岐町水産資源栽培センター横に整備し、令和5(2023)年に取得した国内初の有機藻類JAS認証に続き、国内では2例目となるJAS認証を大学発ベンチャーとして取得した。さらに、令和6(2024)年度は、食品ロスの軽減にも繋がるSDGs対応の次世代技術として、新たな海藻培養法を開発し、栽培した海藻においては、国内最大手の流通企業であるイオンホールディングスのプライベートブランド商品(トップバリュ)をはじめ、老舗佃煮メーカーの海藻原料に採用されることが決定した。これらの成果については、徳島県をはじめ、本学でも記者発表を行い、多くの注目を集めることができた。また、産学官の連携事業として進めてきた海藻養殖に関わる一連の取り組みが、今後の世界の課題を解決する重要なプロジェクトとして、大阪・関西万博のベストプラクティスに選定され、万博での常設展示が決定した。令和7(2025)年1月16日に開催された万博参加国事前会議(IPM 2025)では、ベストプラクティスのパビリオンを代表して講演させて頂いた。その後、徳島県からも、県パビリオンSDGs+Beyondに出展依頼があり、次年度も万博の活動を含め、精力的に研究事業を展開すると共に本学の広報活動に努めたいと考えている。



合同記者会見



万博参加国事前会議(IPM 2025)

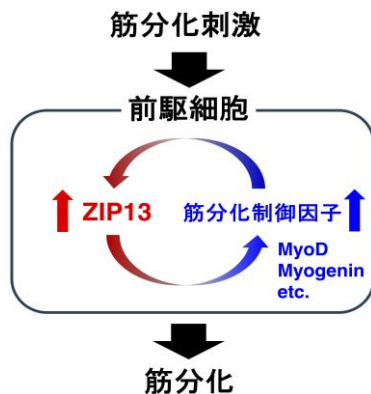


SDGs対応の次世代海藻培養法の開発

NHKをはじめとしたメディア取材、報道等

3) 骨格筋の形成に亜鉛が関わることを発見

薬学部薬学科共同研究グループは、マウスの培養細胞およびヒトの人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた研究から、亜鉛輸送分子ZIP13が骨格筋の分化に関与することを、世界で初めて明らかにした。脊椎手掌異形成型エーラス・ダンロス症候群（EDSSPD3）は、ZIP13の機能喪失が引き起こす病気であり、筋力低下などの異常を示すが、亜鉛がどのように骨格筋の分化に関わるのかについては不明であり、この病気に対する治療方法も確立されていない。共同研究グループは、マウスの培養細胞と患者由来のiPS細胞を用いた実験から、ZIP13が輸送する亜鉛が、骨格筋の分化に重要な筋分化制御因子の発現に必要であることを示した（Shoji et al., Scientific Reports 14:8052, 2024）。開発したiPS細胞が、脊椎手掌異形成型エーラス・ダンロス症候群の研究と、現在では治療が困難なフレイルやサルコペニア等の筋肉の病気の治療法開発に寄与すると考え、研究を進めている。本研究の成果は、新聞にも掲載された。



亜鉛輸送分子ZIP13は、骨格筋の分化に必要である。亜鉛輸送分子ZIP13と筋分化制御因子は、それぞれの発現を協調的に誘導して、筋分化を促進する。

4) オリゴ核酸合成に使用する固相担体の開発

オリゴ核酸（短鎖のDNAやRNA）はライフサイエンス研究の材料や遺伝子診断薬だけでなく、次世代医薬品として注目を集めている核酸医薬にも使用されている。これらオリゴ核酸はホスホロアミダイト法と呼ばれる手法を用いて固相合成されており、今回、薬学部の研究グループは、本手法のオリゴ核酸固相合成に用いる新材料としてPT-リンカーCPGを開発し（Synthesis 2023, 55, 1112 他）、富士フイルム和光純薬株式会社との共同研究により製品化され、販売に至った。

PT-リンカーCPGの特徴は、リンカー部分が高脂溶性であり、UV照射により検出可能といった特徴を有している。これら特徴により、既存の固相担体と比べて、合成したオリゴ核酸の精製を容易にし、目的のオリゴ核酸を高純度で得ることが可能になる。現在、CPG以外の固相担体（PS樹脂など）に適用し、PT-リンカーのラインナップの拡大を目指している。製品化されたPT-リンカー担体は、オリゴ核酸を利用する研究領域の発展に貢献し、さらに核酸医薬の製造コストの低減に繋がることも期待されている。

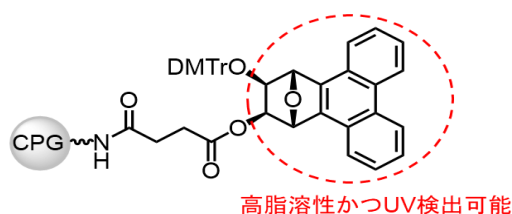


図 PT-リンカーCPGの構造

5) 浅川義範教授：2024ISE0名誉メダル受賞

令和6(2024)年9月11日、ハンガリーで開催された第54回国際精油シンポジウムにおいて、本学生薬研究所の浅川義範教授がISE0名誉メダルを受賞した。本メダルは天然物化学分野のうち、特に精油科学に関して国際的に貢献している1名ないし2名に授与されるもので、今回の受賞は同教授の長年にわたる藓苔類の化学成分研究のうち、藓苔類含有精油成分の有機化学、薬学および植物分類学の国際的成果が評価されたものである。特に藓苔類にマツタケやシソの香りを通年創成させることに成功した功績と、ある種の藓苔類が海藻類から進化したとする進化論に関する分子系統的証拠を発見したことなどが高く評価されたもので、アジア、オセアニア、太平洋地域から初の受賞である。本学では、浅川義範教授の功績と本メダルの受賞を記念して、本学2号館アカンサスホールにおいて、「ISE0名誉メダル受賞記念講演会」を令和6(2024)年10月5日(土)に開催した。「藓苔類(コケ)の成分に魅せられて」と題し、同教授の半世紀にも渡る研究成果について講演を行った。



ISE0名誉メダルを受賞した浅川教授



受賞されたISE0名誉メダル

6) 食糧増産光による大豆の登熟促進技術を開発

理工学部ナノ物質工学科アグリバイオ研究室は、世界で初めて、特定の時間周期で強度が変動している光（食糧増産光）が、光合成を大きく増幅させることを見出した(Kajiyama *et al.*, Journal of Physics and Chemistry Research 6(2),172)。食糧増産光は、星あかりと同程度の明るさであるが、光合成の飢餓状態を作り出すことで、植物の生存本能を刺激する作用がある。

当研究室は、令和6(2024)年9月より、薬学部と共同で、大豆の生育に及ぼす食糧増産光の影響を調べている。その結果、光合成のための主光(LED光)に食糧増産光を追加して照射すると、大豆の生育が促進されるだけでなく、枝豆から大豆に変化する「登熟」が加速することを確認した。図1の左図は「食糧増産光なし」、右図は「食糧増産光あり」で栽培した大豆の生育写真である。左図では枝葉の多くが「青立ち」しているが、右図では青立ちがなく、大豆さやの登熟も進んでいる。「食糧増産光」により、大豆の収量は130%増、登熟期間は30%短縮であった。今後も、薬学部と共同で、大豆の高速栽培技術の研究を進めていく予定である。



図1 食糧増産光による大豆の登熟促進事例

7) ICTを活用した教育

①VRシステムを活用した臨床体験学習

香川薬学部では、VRゴーグルと一斉視聴システムを使った双方向型の「VR体験学習」を、全国に先駆けて令和4(2022)年度より1年生の必修科目「早期体験学習」に本格的に導入している。令和6(2024)年度は、新型コロナウイルス感染症の流行により中止していた病院・調剤薬局の医療施設訪問を4年ぶりに再開することができた。VRゴーグル数を拡充して実施した「VR体験学習」と薬剤師を加えたスモールグループ・ディスカッションで医療施設や薬剤師の仕事について知識を深めた上で、医療施設を訪問したため、学生たちは非常に興味を持って実地見学に臨み、コロナ禍以前よりもさらに充実した実地見学を行うことができた。VRシステムやICTを効果的に活用することで、遠隔地や大人数での見学が難しい施設を同時に多くの学生に平等に体験させることが可能となるだけでなく、医療現場に対する学生の興味・関心を大きく引き出すことができるようになり、講師の病院・薬局薬剤師からも大変好評であった。



②看護教育のDX化

近年、看護の世界もデジタル社会への環境変化に対応し、Digital Transformation(DX)を活用した教育カリキュラムが導入されている。看護学科では、令和5(2023)年度から高機能シミュレーターモデルを使用した学内演習を実施し、効果を検証している。令和6(2024)年度は、シミュレーション教育に教育DXを融合し、録画配信機能のあるPCシステムを活用したデブリーフィングの学修効果を検証した。高機能シミュレーターモデルで演習し、その配信動画を視聴しながらデブリーフィングした。実習に臨む自信として「アセスメントに必要な情報を得る力」「観察する力」「他者と協同し解決する力」「自己に気づき分析する力」「発展させる力」の5項目をループリック評価表で演習前後に測定した。結果、「自己に気づき分析する力」と「発展させる力」が演習前に比べ演習後に有意に高くなった。動画視聴によるデブリーフィングは、それまで気づいていなかった自己の技術課題に気づく機会となり、実習に向けた課題を見出す力が高められた。その成果の一部を「特色ある教育・研究」で発表した。今後も学生が自信をもって臨地実習に臨むことができるように演習を継続していく。



(4) 教職員の職能開発

1) FD(Faculty Development)

平成19(2007)年度にFD(Faculty Development)研究部会を設置し、学生の声を授業の改善に反映させることを目的に平成20(2008)年度後期から年2回、全学授業評価アンケートを実施している。平成21(2009)年度より卒業生予定者を対象とした大学生生活満足度アンケートを実施し、授業改善をはじめ大学生生活全般についても改善に向け取り組んできた。なお、令和元(2019)年度からはWeb上でアンケートに回答できるよう改善を行い、名称も全学授業アンケートと変更した。令和6(2024)年度は、FD研究部会を5回開催し、在学生対象・学修状況アンケートの質問事項を協議するなど、授業改善に関しての議論を行った。また、全学FD研修会では「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」の動画を視聴し、授業改善に役立てた。

2) SD(Staff Development)

高等教育機関としての教育機能の質的向上を支援するため、SD推進委員会(3月)のもと年度計画を立て教職員等の能力開発等の研修を実施している。令和6(2024)年度は、新任教員研修会(4月)、防火・防災管理委・自衛消防隊合同研修会(8月)、全学防災訓練(11月)、全学SD研修会(2月)、ハラスメント防止委員・相談員合同研修会(8月)、人権教育講演会(11月)などを実施した。

3) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)

平成20(2008)年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業としてスタートしたSPOD(四国地区の35の高等教育機関が加盟)に参画し、FDとSDという2つの事業の効率化、高度化、実質化を行い、教育の質の保証を図り、学生の豊かな学びと成長を支援する実践的な力量をもった高等教育のプロフェッショナルの育成に取り組んでいる。

(5) 学生支援

1) 入学前教育

総合型選抜入試や学校推薦型選抜入試合格により、早くから本学への入学が内定している高校生を対象に、学習意欲の維持、高校レベルの学習の貫徹を目的に、一般総合科目の教科書、参考書、書籍等の配布、レポート提出等を実施し、e-ラーニング学習補助教材も導入している。さらに、学科の教員に個別相談ができるようメールアドレスを発行している。これらの取組は、入学後に必要となる文章読解能力やレポート作成能力を助け、大学に入学する心の準備を促している。

2) 学習ポートフォリオの電子化

本学では、従来の紙媒体ではなく、電子化学習ポートフォリオを導入し、学生のモチベーションと学修到達度を高める体制を整えている。ここでは、学生が自宅等での学修やアルバイト等に費やした時間も調査して分析し、担任やチューターによる指導に役立てている。

3) 学生と企業等との交流会

就職活動が早期化する中、新規卒業予定学生の就職促進を図るため、昨年度に引き続き「学生と企業等との交流会」を徳島・香川両キャンパスの共催で令和7(2025)年1月12日(日)及び2月8日(土)に対面で開催した。

1月12日は一般企業を中心に徳島キャンパスで69社、香川キャンパスで32社の事業所が出展され、両キャンパス合わせてのべ275名の学生が参加した。2月8日は病院・薬局等を中心に徳島キャンパスで開催し、徳島キャンパスの学生に加えて香川薬学部の学生も参加した。出展された事業所は62社、参加学生はのべ184名であった。

4) 「UNIVAS SSC」認証の取得 大学スポーツ協会安全安心認証

UNIVASは、安全で安心な大学スポーツ活動の環境を整備するため、日本初の安全安心認証「UNIVAS Safety and Security Certification」(以下:UNIVAS SSC)制度を構築している。

本学は、令和6(2024)年9月1日、本制度の第26号会員として、四国初の安全安心認証「UNIVAS SSC」を取得した。この認証付与を通じて、UNIVAS SSC補償制度(保険)が自動付帯され、環境面・補償面から安全で安心な環境の構築や、学生および教職員の運動部活動の安全安心に対する意識の向上に繋がる。

(6) 国際交流

本学は、アメリカの有名なマサチューセッツ工科大学と協定を結んだ日本で最初の大学である。以来、教員の国際交流がいろいろな学術領域で活発に行われている。

同様に、本学は、日本でも早期に音楽療法を導入した。これに際しては、音楽療法の先駆者であるマイケル・ローバック博士に師事した教員が教育に当たっている。また、ローバック博士は定期的に来日し、特別講義やモデルセッションの直接指導を行っている。

これらの国際学術交流を基に、現在、北米各地、欧州、オセアニア、及び、アジア各地の32大学と大学間の学術交流協定を結び、留学生の受け入れ、共同研究などの交流を積極的に推進している。

学生が将来真のグローバルセンスを体得するためには、大学時代からの人材教育が最も重要であると捉え、語学研修・異文化体験を目的として海外留学の機会を積極的に提供してきた。また、新型コロナウイルス感染症禍にあっても、令和3(2021)年度には、韓国檀国大学校への交換留学生を派遣し、令和4(2022)年度夏以降は、短期の留学プログラムを催行するなど、他大学に先駆けて正常化に取組んできた。さらに、コロナ禍で渡航が困難になったことをきっかけに導入したオンラインによる海外研修、交流のプログラムについては留学プログラム催行後も、継続実施している。

また、本学で受け入れている留学生を主対象とした史跡・文化研修を企画しており、特に令和5(2023)年度及び令和6(2024)年度は、1泊2日で美波町の日和佐八幡宮の例大祭に参加し、地域住民との交流を行った。このプログラムについては、日本人学生も参加し学生間の交流活同としても成果を挙げた。

各プログラムの令和6(2024)年度の状況は、以下のとおりであった。

1) 主な国際交流研修等

① 派遣

(ア) カナダ・ランガラ大学夏期英語短期留学

カナダの協定校であるランガラ大学が、8月の約3週間に実施している英語・異文化理解研修。研修中はカナダ人家庭でホームステイを経験し、英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和6(2024)年度は本学から1名の学生が参加した。

(イ) 韓国・檀国大学校夏期

韓国の協定校である檀国大学校が、8月の約3週間実施している韓国語・韓国文化研修。本学学生は多様な国々の学生と共に参加する。研修中は檀国大学校の学生寮に滞在し、各国の学生と生活を共有する。令和6(2024)年度の夏期短期留学に10名の学生が参加した。

(ウ) オーストラリア・グリフィス大学夏期及び春期英語短期留学

8月及び2月から3月にかけての約2週間又は約3週間、オーストラリアの協定校であるグリフィス大学で英語・異文化理解研修を実施している。グリフィス大学の5つのキャンパスのうち、ゴールドコースト校でホームステイをしながら、各国の学生と共に英語を学びながら英語力のみならず国際理解の精神を養う。令和6(2024)年度は夏期1名、春期4名の学生が参加した。

(エ) 中山医学大学秋期短期留学

従来、2月～3月にかけての約2週間インターンシップ型留学を実施していたが、同時期に台湾の留学が集中することから、時期を変更し期間も1週間のプログラムに短縮し、参加しやすいプログラムとして計画した。内容は、近傍のホテルに滞在し、日本語教育のアシスタントを行うとともに、同大学学生や近傍に所在する高大連携校新新高級中学の生徒と交流を実施した。令和6(2024)年度は1名が参加した。

(オ) 中山医学大学看護学科・理学療法学科研修プログラム

令和6(2024)年度から開始した中山医学大学との学科間交流プログラムで、派遣については9月の短期留学と同じ時期に計画した。令和6(2024)年度は看護学科6名、理学療法学科3名が参加した。

なお、受入については、先方に希望者がいなかったため実施しなかった。

(カ) 中国・広東省外語芸術職業学院 秋期中国語短期留学

令和元(2019)年度に新設した、広東省外語芸術職業学院における中国語・中国文化研修。研修中は同学院の学生寮に滞在し、中国の学生と交流する。新型コロナウイルス感染症対策のためのビザ制約がなくなったことから、令和6(2024)年度の再開を企図したが応募者がおらず未催行となった。

(キ) 韓国・水原大学校春期短期留学

韓国の協定校である水原大学校が、令和5(2023)年度から開始した2月の約10日間の韓国語・韓国文化研修を中心としたプログラムであるが、令和6(2024)年度は先方が計画しなかったため中止した。

(ク) 台湾・淡江大学春期中国語短期留学

台湾の協定校である淡江大学が、3月の約2週間実施している中国語・中国文化研修。令和6(2024)年度は3名が参加した。

(ケ) 台湾・義守大学春期短期留学参加者

3月の約4週間、台湾の協定校である義守大学の学生寮に滞在し、中国語学修を行う留学であり、令和元(2019)年度から日本語教育アシスタントを含むインターンシップ型留学として企画し、令和5(2023)年度に初めて催行したが、日本語教育アシスタントについての参加者の満足度が著しく低かったことから、中国語学修と学生交流を主とするプログラムに再編した。令和6(2024)年度は2名が参加した。

(コ) 香港・香港伍倫貢学院(旧香港城市大学専上学院) 春期英語・中国語短期留学

香港の協定校である香港伍倫貢学院、2月～3月の約10日間実施している英語及び中国語研修。令和6(2024)年度は2名が参加した。

(サ) 令和5(2023)年度交換留学(韓国檀国大学校及び水原大学校)

令和6(2024)年2月から12月に韓国檀国大学校及び水原大学校にそれぞれ1名、計2名を派遣した。

② オンラインプログラム

(ア) 台湾中山医学大学オンライン台湾留学

コロナ感染症禍に短期派遣留学プログラムとして開始した台湾中山医学大学と本学学生の2日間交流のプログラムであり、令和6(2024)年8月に14名の学生が参加した。

(イ) フィリピンSDGsオンライン海外研修

コロナ感染症禍の代替プログラムとして開始したSDGsへの理解の端緒とするために発展途上国の現状を知ることが目的としたオンラインプログラムである。現地のストリートチルドレン支援のNGOの報告、ゴミ山問題の現地中継レポートや現地のオンライン家庭訪問を行うほか、現地学生との意見交換会を企画している。また、このプログラムの一部(現地学生との意見交換会以外)は、人間生活学科2年必修の「コミュニティデザインⅡ」、言語コミュニケーション学科選択・児童学科の教員免許中二種(英語)取得希望者の必修「異文化間コミュニケーション」の一部として利用している。

令和6(2024)年は8月に実施し45名が参加、うち9名は、現地学生との意見交換会にも参加した。

③ 受入

(ア) 夏期日本語・日本文化研修

毎年、7月の10～14日間、台湾及び韓国並びに香港及びイタリアの交流協定校より留学生を受入れ日本語・日本文化研修を実施している。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2(2020)年度以降中止していたが、令和5(2023)年度、再開した。徳島キャンパスにおいては、台湾及び韓国の協定校を対象に大学生コースと高校生コースを開催しており、令和5(2023)年度は大学生コースのみを再開したが、令和6(2024)は、高校生コースについても実施した。

(イ) 令和6(2024)年度交換留学

以下のとおり受け入れた。

令和6(2024)年度前期、台湾中山医学大学から3名、広東省外語芸術職業学院から2名

令和6(2024)年度後期、台湾義守大学から1名、台湾中山医学大学から2名、広東省外語芸術職業学院から2名、韓国檀国大学校から1名

④ 海外からの受入れおよび海外派遣

令和6(2024)年度(留学生の数は、5月1日現在)(人)

		大学	短大	計	備 考
ア) 学生受入	留学生	67	0	67	
	招致学生	62	4	66	短期研修を含む
イ) 海外派遣	学生	33	5	38	
	教員	0	0	0	

令和5(2023)年度(留学生の数は、5月1日現在)(人)

		大学	短大	計	備 考
ア) 学生受入	留学生	77	0	77	
	招致学生	54	2	56	短期研修を含む
イ) 海外派遣	学生	30	2	32	
	教員	0	0	0	

令和4(2022)年度（留学生の数は、5月1日現在）（人）

		大学	短大	計
ア) 学生受入	留学生	75	1	76
	招致学生	8	0	8
イ) 海外派遣	学生	30	2	32
	教員	0	0	0

2) 留学生文化・史跡研修

従来、日帰りのバス旅行として史跡研究を実施していたが、令和5(2023)年度から、一泊二日で日和佐八幡宮の例大祭に本格的に参加するという形式で実施している。令和6(2024)年度は、学生14名、うち留学生8名、日本人学生6名が参加した。

例大祭では、男子学生は「ちょうさ」と呼ばれる太鼓台の担ぎ手として、また女子学生は子供神輿の引手・担ぎ手として地域住民とともに参加した。また、前年度の教訓を反映し、太鼓演奏体験などを計画し、地域住民と交流しやすい環境を醸成した。このプログラムにより、留学生は日本の伝統的な文化を体感するとともに、過疎地域における伝統文化の継承にかける地域住民の思いにふれ、直面する課題を理解するなど、貴重な機会となった。

(7) 地域・社会貢献

大学における地域・社会貢献と言え、まず人材育成、とりわけ地元社会に貢献できる人材を育成することである。したがって、ただ単に地元イベントを提供するという姿勢だけでは不十分だと考えている。地域・社会貢献は、目的であると同時に、学生を育むための手段として位置づけられるべきである。すなわち、当初は教職員が何らかの誘導を行うものの、やがて学生たちが自ら学び育つ、つまり地域・社会貢献が学生の成長の場となることを意識している。

1) 地域連携センターの主な活動

① 地域学

地域の魅力を知り、課題を発見し、その解決能力を身につけた人材育成を目的として実施している。

- (ア) 今後の学びや研究、活動の推進を目的として徳島キャンパスの1年生全員に、前年度に顕著な地域貢献活動を行った本学学生による「地域貢献取組発表会」、徳島県知事による講演会などを実施した。
- (イ) 学びや生活の基盤となる「さぬき市」について関心や理解を深め、地域志向の気持ちや地域への愛着心を醸成し、大学で修得する専門知識が地域課題とどのように関係するのかを考える契機とすることを目的として、香川キャンパスの1年生全体に、さぬき市長による講演会を実施した。
- (ウ) 地域の方々との交流を行うことで、地域活性化やまちづくり・創業などについて学ぶ、地域学スタートアップコース「万代中央ふ頭フィールドワーク」、「文化の森博物館探訪！」と地域学アドバンストコース「鳴門を知る旅～環境学習と鳴門深堀りの旅編～」を実施した。
- (エ) 徳島の活性化や魅力の再発見を目指し、令和5(2023)年度に発足した、学生の自主活動である「とくしまサイコー塾」を支援している。学生自身が企画し、地域活性化をテーマにした座談会や「とくしまサイコー塾～商店街編～」を実施した。
- (オ) 地域連携活動を行う「レインボーの会」等の取組を支援している。香川県警の防犯キャンペーン活動、さぬき市民文化祭の実行委員としての活動、サンポート高松地区のプロムナード化区間の愛称募集に係る選考などの活動を実施した。

② 防災・減災

- (ア) 地域と考える防災講座「地方災害における災害ボランティアを考える」を実施し、地域住民や学生が参加した。
- (イ) 災害時に車いすを使用する要配慮者等を安全に避難場所へ移動支援ができる技術を身につけることを目指し、「車いす避難サポーター養成講座」を徳島県・和歌山県で実施し多くの学生及び一般受講者の避難活動における意識の高揚につながった。
- (ウ) 平成27(2015)年度からスタートした減災科学プロジェクトは、国際的地震学者を講師に迎え、学生・行政・企業関係者の聴講による減災科学シンポジウムの開催や三好市「ウマバSDGsアカデミー」において、気象災害の原因ともなっている地球温暖化の問題などについて、企業や行政などの聴講生を対象に学生が活動報告を行った。

③ 自治体等との連携

- (ア) 短期大学部や食物栄養学科などの取組をもとに「エシカル消費者自主宣言」を行い、食育や環境問題解決、シカ肉の利用などの観点から消費者教育と研究を推進するとともに、海藻の通年陸上養殖システムの開発などを通じて地域水産業の発展に貢献した点が評価され、消費者支援功労者表彰(消費者庁)の「ベスト消費者サポーター章」を受賞した。
- (イ) 「上板町STOPフレイル! With徳島文理大学」を上板町と連携して開催し、理学療法学科、口腔保健学科、人間福祉学科、音楽学科音楽療法コース、短期大学部生活科学科食物専攻が講演や体験活動等を行い地域の健康啓発に努めた。
- (ウ) 徳島県大学連携課との連携事業について、美術教育従事者を対象とした「とくしまリカレント教育推進事業」では、短期大学部生活科学科生活科学専攻による美術教育のスキルアップを目指し、専門的な技法や用具の扱いを学ぶ「アート&クラフトで美術教育スキルアップ講座」を開講した。また、学生を対象とした「大学・地域連携課題解決フィールドワーク事業」では、人間生活学科が、上勝町において、かみかつ茅葺き学校や阿波晩茶協会などと連携し、地域の課題解決につながる体験プログラムを実施した。
- (エ) 徳島県文化の森総合公園内にある3施設(県立博物館、県立近代美術館、県立鳥居龍蔵記念博物館)の常設観覧料が無料となる「徳島県キャンパスメンバーズ制度」を平成30(2018)年度より実施しており、令和4(2022)年度64人、令和5(2023)年度74人、令和6(2024)年度120人が利用した。

- (オ) 栗林公園、県立ミュージアム、玉藻公園などの公共施設に無料で入園・観覧できる「香川県キャンパスメンバーズ制度」及び「高松市キャンパスメンバーズ制度」に加入しており、新入生セミナーなどで活用した。「高松市キャンパスメンバーズ制度」は、令和6(2024)年度93人が利用した。
 - (カ) 土庄町との連携協定により、瀬戸内海タートル・フルマラソン全国大会の運営補助員として、令和5(2023)年度7人、令和6(2024)年度7人の学生が参加し、参加賞の受付やゴールでの給水などを行った。
 - (キ) 大学・地域共創プラットフォーム香川主催「産学官連携交流会～なんがでつきょんな香川」において、「就職&採用のギャップを考えよう」をテーマにした学生・企業によるディスカッションに学生1名がパネラーとして参加した。教職員も交流会に参加し自治体や企業等と情報交換を行った。
 - (ク) 産学官が連携した街づくりの推進を図る目的で、香川県補助金を活用し、学生有志(文学部・香川薬学部)が、高松市や企業等と連携してサンポートエリアの魅力的な施設・建造物の動画やバーチャルツアーサイトを作成し、「バーチャル360」上に特設ページを設けて動画やスポットの紹介文を公開した。1月末時点で、動画バーチャルツアーサイトの閲覧数は46,514、動画の視聴・閲覧数は、7,313、高松シンボルタワー設置のパネル2次元コードのアクセス数は1,488といずれも目標値を上回る成果を収めた。
- ④ 他大学等との連携
- (ア) 「とくしま産学官連携プラットフォーム」に参画し、高等教育機関の魅力の共同発信、高校生への共同講義、共同でのFD・SDの開催等を実施した。
 - (イ) 「コンソーシアムとくしま」に参画し、遠隔授業コンテンツの作成、単位互換科目受講生の募集、就業体験型インターンシップへの参加等を実施した。
 - (ウ) 「大学・地域共創プラットフォーム香川」に参画し、進学・教育部会幹事として高等教育機関の魅力の共同発信、留学生の交流、共同でのFD・SD研修の開催等を実施した。
 - (エ) 「海外大学とのオンライン交流事業」において、本学学生が県内及びASEAN諸国の大学間で意見交換を行い、令和4(2022)年度に各校(県内及びASEAN諸国の大学)で作成した「持続可能な消費に向けたハンドブック」の改訂版を令和6(2024)年度に作成し、「消費者行動宣言」を取りまとめた。
 - (オ) 香川県内の小学生を対象とした講座を令和元(2019)年度から「徳島文理こども大学」として実施しており、令和6(2024)年度は他大学・短大と連携して、香川キャンパスの6学科が「香川わくわく子ども大学」として8講座を開講し、親子98組(小学生104人)が参加した。
- ⑤ 公開講座等
- (ア) 地方創生を担う人材育成を目的とした公開授業(集客交流産業論)や思春期ピアカウンセラー養成講座を実施し、地域住民及び本学学生が受講した。
 - (イ) 地域と考えるSDGs講座「子どもの権利を守る専門職とは」、「つながろう！ひびきあうせかい」、「音楽でつながろう！ひびきあうせかい」及び「広げよう！音楽の輪」を実施し、地域住民及び本学学生等が受講した。
 - (ウ) 地域貢献の推進を図ることを目的に「地域連携型出張講義プログラム」を実施しており、本学が有する人的資源及び教育・研究を広く地域の学校に還元し、地域の学校に有用な情報を発信している。令和6(2024)年度、48校59講座を実施した。

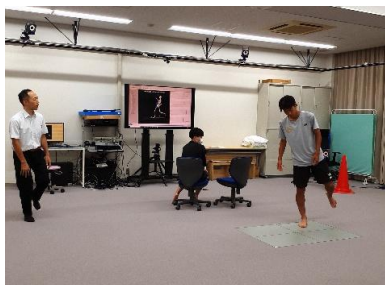
2) 徳島音楽コンクール

第16回徳島音楽コンクールを令和6(2024)年10月12日(土)に徳島キャンパスにおいて開催した。本コンクールは、音楽学習者の能力を育み、さらに音楽に対する理解と関心を高めることを目的に、会長本学理事長、顧問徳島県知事、徳島新聞社理事社長をはじめとする本学実行委員会が主催し、徳島新聞社共催、徳島県、NHK徳島放送局と四国放送の後援により毎年開催している。審査部門は、ピアノ、声楽、弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器、電子楽器、邦楽器の8部門で、今回は全国から227人(組)の参加があった。また11月9日(土)には、むらさきホールにおいて「徳島音楽フェスティバル」を開催し、各部門の全金賞受賞者が演奏した。審査の結果、グランプリ1名、徳島新聞社賞1名、部門最優秀賞5名、前回新たに創設した未来賞1名を選出した。



3) 高大接続セミナー2024

高大接続改革の一環として、高校生に大学で学ぶ学問の魅力に触れてもらうことを目的として開催している。令和6(2024)年度は、徳島・香川両キャンパスで8講座を開催し、15名の高校生が参加した。参加者の中からは、「動作解析装置を使った運動フォームの分析ができて新たな発見がたくさんあった」「自己分析の重要性や面接に応用する具体的な手法を学ぶことができてよかった」などの感想が寄せられた。今後は、高大接続のためのセミナーとして、高校生が高校の学びの段階で思考力・判断力・表現力などを育み、主体的な学びにつながるようセミナーの内容を検討する。



4) おしごとキッズマルシェ

令和6(2024)年9月29日(日)、徳島青年会議所主催の「おしごとキッズマルシェ」が徳島市内の籠屋町商店街にて開催された。小学生1～6年生が対象で、子供たちにさまざまな仕事を体験してもらう目的で行われた。地元の企業、警察、消防など15のブースが設けられ、徳島文理大学口腔保健学科は教員2名と学生6名が参加し、歯科衛生士のお仕事体験ブースを担当した。計182名の参加があり大盛況であった。歯科衛生士の体験をした10歳の女の子は「いつも歯医者でやってもらってることが体験できて楽しかったです」と喜んでいて、歯科衛生士の知名度向上に貢献した。



5) 学内ライトアップ

平成18(2006)年度から、地域の住民の方に大学に親しみを持ってもらい、地域と共に発展する大学となることを目的に、キャンパス内をLEDによるイルミネーションでライトアップしている。令和6(2024)年度は教職員と学生による点灯式を11月29日に香川キャンパスで、12月3日に徳島キャンパスで行った。点灯後は音楽学部によるコンサートや和太鼓部「億」によるパフォーマンス・軽音フリーミュージック部による演奏、ダンス部によるパフォーマンスで盛り上がった。徳島キャンパスでは約35万球のLEDがむらさきホール前のメインストリートを中心に、香川キャンパスでは7万5千球のLEDが正門から管理棟までを中心に1月末までキャンパスを彩った。長年この催しを行っているので認知度も上がり、この時期の観光スポットになっており、地元はもとより遠方からの問い合わせもある。冬を楽しもうと例年以上に多くの一般客がキャンパスに足を運んでくれた。なお、香川キャンパスが高松駅横に全面移転することにより、志度でのライトアップは今回で終了する。



6) とくしまボランティアパスポート

令和7(2025)年2月14日、徳島県庁において「とくしまボランティアパスポート(上級編)」を修了した大学生15名のうち、本学学生6名に後藤田徳島県知事から表彰状が授与された。この制度は、本学と徳島県が連携して、『次代を担う人材の育成と若者の社会参加の促進に資すること』を目的に平成28(2016)年4月から始まり、今年で8回目の受賞となる。学生の皆さんが入学後、県内各地域でボランティア活動に積極的に取り組み、累計120時間以上ボランティア活動に参加したことが認められての表彰となった。



7) 全学地域清掃ボランティア活動

「ゴミゼロの日全学地域清掃ボランティア活動」を令和6(2024)年5月30日、12月2日の2日間、授業が始まる8:00から8:40までの時間、徳島キャンパス内とその周辺道路、歩道で行った。早朝にもかかわらず、学生、教職員100名以上で活動を行った。終了後は、清々しい気分で授業に臨めた。



8) 台湾東部沖地震救援金

被災された方々を支援するため、令和6(2024)年4月9日から4月30日まで学生・教職員を対象に救援金活動を実施した。徳島キャンパスでは、防災委員会有志19人が、4月10日から4月16日の昼休みに、学内で「救援金キャンペーン」を行った。また、学内11カ所に募金箱を設置し協力を呼びかけた。集まった救援金108,534円は、5月9日に、学生代表3名が「日本赤十字社徳島県支部」を訪れ贈呈した。



9) 徳島文理大学連ハーネス連より感謝状

令和6(2024)年9月17日、視覚障害者等をつくる阿波踊りの「ハーネス連」の鳴り物に協力した徳島文理大学連に、徳島の盲導犬を育てる会より感謝状をいただいた。ハーネス連には鳴り物がなく、徳島文理大学連が平成18(2006)年から協力をしている。コロナ禍による休止を挟んで5年ぶりの協力となったが、これからも交流を続けていきたい。



10) 行政と連携した思春期ピアカウンセラーの活動

思春期ピアカウンセリングとは、同年代の仲間(ピア)による傾聴・共感を通し、性=生(命)の正しい知識を伝えるカウンセリングである。その養成講座を受講しカウンセリング手法を学んだ学生を思春期ピアカウンセラーと呼ぶ。本学看護学科でも毎年、数名の思春期ピアカウンセラーを養成し、活動をしている。その一環として、令和6(2024)年度は、徳島県内の中学校3校、高校4校、視覚支援学校へ出向き、思春期ピアカウンセリング活動を行った。

また、思春期ピアカウンセラーは徳島県子ども未来部子育て応援課と協同して、「とくしま性と妊娠 LINE相談」啓発資材(カード)作成したり、中国・四国地区女性支援事業研究協議会で思春期ピア活動を報告した。

この一連の活動は高い評価を得て、今年度も徳島新聞に取り上げられ、ピアエデュケーションを希望する中学校・高校が多い。今後も行政と連携して、思春期ピア活動を継続していく。



11) 車いす避難サポーター養成講座

令和元(2019)年度から災害時の要配慮者への新たな取り組みとして、中学生や高校生、一般市民、医療福祉関係者、自治体、企業、自主防災会などの方々を対象とし、車いす避難サポーター養成講座を開講している。令和6(2024)年度は徳島県、和歌山県で計19回開催して554名が受講、受講者は延べ2,178名となった。各講座では大学内で実施している避難サポート技術に関する最新知見も紹介した。参加者からは「車椅子のサポート技術のポイントを理解することができた。地域や職場で広げたい。」などの感想が寄せられた。今後も、各関係機関や教育機関などとも連携し、地域防災力の向上に向けて多くの方々に普及啓発を行っていく。



12) ひらめきときめきサイエンス

令和6(2024)年度科学研究費助成事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」として、令和6(2024)年8月6日、7日の2日間、体験実験プログラム「医薬品はどのようにつくるの?～現代の錬金術・有機合成化学を体験～」を徳島キャンパス薬学部で開催した。本プログラムには高校生計29名が参加し、有機合成化学実験をテーマにした体験実験に取り組んだ。本プログラムを通じて、受講生に安価に手に入る物質を高価な医薬品へと変貌させることができる有機合成化学の魅力について紹介した。参加者のアンケート回答は良好であり、本プログラムを通じて、参加者に「分子レベルでのものづくり」の魅力、「くすりをつくる」ことの面白さについて伝えることができた。近年高校生の科学離れが問題となっているが、本プログラムの実施により、参加した高校生が化学・薬学・研究に対する興味をもって頂けた。



13)阿南市那賀川町の地域活性化に貢献「黒米ビール」

総合政策学部生と那賀川町商工会青年部員たちがクラフトビール会社の「(株)JouZo」にご協力いただき、黒米ビールを作った。黒米の収穫や干し作業、ラベルデザイン、ビールのかき混ぜ作業など、ビールとしての形になるまで、学生と地域の方々が二人三脚で作り上げた。

地域農業の再生と青年部が取り組んでいる「出島壁画再創造プロジェクト」の発展に貢献したいとの思いで活動してきた。令和7(2025)年2月15日には、音楽学部生とコラボした展示販売会を阿波おどり会館にある「あるでよ徳島」で開催し、大勢の方々にお買い求めいただいた。その収益はすべて壁画再創造プロジェクトに充当していただくこととした。



14)「2024年デコリメイクチャレンジコンテスト展」特別賞とコンテスト入賞&手づくりフェア展

令和6(2024)年9月6日・7日、「OSAKA手づくりフェア展」(マイドーム大阪会場)において、本学人間生活学科のイベントを開催した。イベント内容は社会的体験教育を目的として、徳島地域文化継承を焦点に置き①学生がつくる「阿波晩茶」紹介・試飲、②学生と製造元のコラボ「徳島おへぎ」紹介・試食・販売、③学生と一緒に楽しく作品制作するワークショップ、この3構成で学生達主体として行った。学生達はこのイベントを通じて地域貢献とコミュニケーション力の大切さを実感できたと考える。

また、SDGsを概念として、学生が自由な発想で廃棄の副資材や古着を活用し、アイデア溢れる独自の作品を企画制作するコンテスト「デコリメイクチャレンジコンテスト」に応募し、「特別賞」「コンテスト入賞」を受賞することができた。この受賞を励みに、今後もSDGsを概念として、衣服のあり方や価値観等を見直し、衣服に対する知識を深め、制作意欲の向上を図ることが期待できる。



特別賞作品



コンテスト入賞作品

15) 上勝町におけるローカルSDGsの実践ー農山村の暮らし体験と地域文化の魅力発信ー

徳島県の大学・地域連携課題解決フィールドワーク推進事業の一環として、令和6(2024)年8月2日に徳島県上勝町において、学生37名が上勝阿波晩茶づくりを行った。この阿波晩茶づくりの活動は、人間生活学科が令和4(2022)年度から3年間継続している活動であり、阿波晩茶文化を継承する取り組みとして行っている。近年、集落の過疎高齢化により晩茶農家の急減が課題となっていることから、「桶オーナー制度」(主催：一般社団法人上勝阿波晩茶協会)に参加し、酷暑の中の茶摘み、舟擦り、桶入れ、茶干し等一連の行程を行い、完成した茶葉は「にんにんの阿波(our)晩茶」として地域イベント等で提供している。この活動を通して、持続可能な暮らしの魅力や地域文化の継承意義について学び、その成果を学科Instagramに掲載したり、地域活性化フォーラム等で発表したりするなど、発信に務めている。



16) 産官学連携で、もち麦とモリンガの販売拡大による健康増進・地域活性化

食物栄養学科「もちっとむぎゅっとの会」では、令和6(2024)年度も昨年度に引き続き、学生が牟岐町産の「もち麦(ダイシモチ)」と「モリンガ」の認知度向上・地産地消促進を目指し、以下の活動を行った。

- ① イベントでの物産販売・栄養相談(とくしまエシカルマルシェ、第6回牟岐町にぎわい産業祭)
- ② 「もち麦」「モリンガ」料理の提供(山城祭、もちっとむぎゅっとカフェ)
 - ・ 山城祭でもち麦入りピラフとモリンガドーナツ、もちっとむぎゅっとカフェでもち麦ご飯のキーマカレー、モリンガパウダー入りのベリースムージー、モリンガパウダーともち麦粉を使ったシフォンケーキを提供し、美味しいとの評価を得た。
- ③ 地元ヘルスメイトとの連携事業
 - ・ もちっとむぎゅっとの会」活動、「もち麦(ダイシモチ)」と「モリンガ」の栄養的な魅力等の学生による情報発信
 - ・ 調理実習(郷土料理・モリンガ入りグリーンスムージー)
 - ・ グループワークを通じた情報共有

これらの活動を通じて、食生活改善を推進するヘルスメイトとの協働体制を構築できた。加えて、参加学生は学びを深めるとともに、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の上達につながっている。



17) 情報発信ウォッチャー

人間生活学部メディアデザイン学科は、徳島県警との間に「情報発信ウォッチャー」事業での連携を結んでいる。

令和6(2024)年11月5日(火)、本学にて委嘱式を行い、代表してメディアデザイン学科4年生の学生が委嘱状を受け取った。

今後、「情報セキュリティ論」の授業の中で徳島県警が開設しているH Pのセキュリティやモニタリング、効果的に情報発信を行うための改善点等をレポートにまとめ提言し、利便性の高いH P作成に協力する。



18) 3Dプリンタによる建築模型の寄贈

徳島県吉野川市奥野井の地に建設された「徳島県立山川少年自然の家」は著名な建築家、黒川紀章氏による設計で昭和52(1977)年に開設し、平成18(2006)年に閉鎖された。

この間小中学生の自然体験活動に使用され、今回制作に関わった学生の保護者が小学生の時に利用した思い出の多い体験施設である。

この「山川少年自然の家」を本学建築デザイン学科が独自に開発した3Dプリンタによる精巧な200分の1建築模型で再現した。製作期間は令和6(2024)年9月から令和7(2025)年3月である。

令和7(2025)年3月に吉野川市に寄贈し、製作者である建築デザイン学科2年生6名が、令和7(2025)年3月12日吉野川市長室で贈呈式を行った。吉野川市では市役所内で展示し、多くの市民に公開する。



19) 「広げよう！音楽の輪」～人に寄り添い、地域とつながるプロジェクトの発信～

音楽は、演奏表現や創作、鑑賞に限られるものではなく、企画や広報、情報提供をはじめ、いわば裏方的な行為にもなくてはならないものである。広く地域の方々にご参加いただき、音楽する楽しさを十分に体験していただくために「地域と考えるSDG s 講座」のひとつとして、各種演奏会を開催している。

令和6(2024)年10月1日には、むらさきホールにおいて、本学音楽学部客員教授で尺八の新たな魅力を拓く第一人者として幅広いジャンルで活動を展開されている尺八演奏家の藤原道山氏をお迎えして、演奏会を開催した。藤原道山氏の演奏のみならず、音楽学部の学生とも共演していただくなど、参加者全員が音楽の楽しさを堪能できるようにご配慮いただいた。

翌日には、徳島文理小学校においても、尺八演奏会を行っていただいた。尺八を見たことがない子どもも多い中、アメイジンググレイスや春の海などを演奏していただき、子どもたちは美しい音色に聴き入っていた。また、尺八の吹き方や、楽器の大きさによる音の違いなどについても教えていただき、子どもたちは日本の伝統的な木管楽器に興味津々であった。



20) 瀬戸内海歴史民俗資料館 子ども向け展示解説シート寄贈

文学部「博物館実習Ⅰ」の課題「瀬戸内海歴史民俗資料館展示資料に関して子ども向け展示解説シートの作成」として優れたものが数多く提出された。同館学芸職員に御指導いただき、6名の学生による6種類の展示解説シートを寄贈した。令和6(2024)年4月13日、同館において、松岡館長に対し、学生から贈呈するセレモニーが開催された。

この取り組みは、平成26(2014)年度締結の本学と香川県との包括連携・協力に関する協定に基づくものでもあるとともに、学芸員としての素養を向上させる上で学生にとってはこの上ない研鑽の場ともなった。今後、この展示解説シートを活用していただき、瀬戸内海地域の歴史や民俗について、子どもたちを始めとする来館者の学びが深まることを期待している。



21) 短期大学部・保育科の地域貢献

①第41回おとぎのくに

学生が自分たちで創作したミュージカルやブラックシアター、ハンドベルなどを近隣の保育所や附属幼稚園の幼児と保育者を招待して上演する行事である。令和6(2024)年度は11月27日・28日の2日にわたり開催し、約1,000人に観覧していただいた。参加した園の保育者から、素晴らしいホールで観覧できるのは貴重な体験である、子どもの表現活動への意欲が高まるなどの声を頂いている。後日、子どもたちの手紙や絵を送ってくださる園もあり、学生の励みになっている。



②第20回保育セミナー

学生と保育者が共に学ぶ機会として開催している。第20回になる令和6(2024)年度は7月13日にオンラインで開催し、保育関係者、学生・教職員合わせて約170名が参加した。第1部は学生が手遊びやパネルシアターなど保育実技を発表した。第2部では、テレビ等のメディアでも活躍されている井桁容子(いげたようこ)氏によるご講演「こどもも保育者も幸せになる保育」を行っていただいた。保育の基本的な考え方を、事例を通して分かりやすくお話しいただいた。



③ペンギンクラブ子育て支援イベント

主に未就園の子どもと保護者を対象とした子育て支援イベントである。教員が指導する運動遊びやリズム遊びなどの他、学生がスタッフとして参加して絵本の読み聞かせや手遊びを行っており実践的な学びの機会となっている。令和6(2024)年度は親子体操やリズム遊び、口腔保健学科の協力による「歯の健康」などをテーマに開催し、いずれの回も参加者に好評であった。参加した親子は、のべ119組267人である。



22) 短期大学部・生活科学科の地域貢献

①SDGsの観点から取り組む「あおさのりスイーツ」の開発

令和4(2022)年以降の取り組みであるあおさのりスイーツ開発について継続して活動を行っている。

一つは、商品化できた「あおサブレ」について、徳島文理大学発のスイーツとしての認知度を上げることである。令和6(2024)年3月の発売以降、取扱店舗も増えているが、パッケージデザインや価格の見直しなどについて関係者会議で協議しリニューアルを図ることとした。令和6(2024)年5月の消費者まつり、8月のとくしまエシカルマルシェ、11月のビジネスチャレンジメッセ、11月のとくしま食育ストリートなど、機会あるごとにブース出展（パネル展示、学生による活動紹介、動画上映、試食品の配布など）を行い、「あおさのりプロジェクト」を紹介している。

二つ目は学生による新たなスイーツの提案である。総合科目D(スイーツ開発)」において他学部他学科の学生と共に新たなスイーツを試作し、10月の短大フェスタにおいて試験的に学内販売を行った。

令和7(2025)年度は、あおサブレ販売を継続的に発展させることに加え、新スイーツの商品化を検討する。また、関西万博で「あおサブレ」を販売について、何らかの形での協力を行う予定である。産官学の連携事業としてさらに発展させることを目指す。



とくしまエシカルマルシェ



とくしま食育
ストリート学生発表



ビジネスチャレンジメッセ宇宙飛行士の
若田光一氏がブースを来訪し学生と交流

②シカ肉の有効活用としてシカ肉献立提供とシカ肉普及活動の実施

短期大学部生活科学科食物専攻は、平成28(2016)年から地域連携フィールドワーク講座に参加してきた。野生鳥獣による農産物の食被害に対し捕獲された野生鳥獣の有効活用として、エシカル消費を目指し、学生たちは様々な活動に取り組んでいる。

シカ肉を利用したレシピを学生が考案し、学生食堂での提供を令和6(2024)年度も継続した。学生が考案した献立提供は、TFTとのコラボレーションを行い大学食堂パウゼにおいて3回販売、カフェロティではシカ肉ソーセージと「あおさのり」ソースを使用したジビエドッグを5回販売、提供した献立はいずれも予定数を完売した。

令和6(2024)年度は、8月にとくしまエシカルマルシェへ出展し、シカ肉ソーセージを販売、11月には徳島ビジネスチャレンジメッセへ出展し、食物専攻の活動を紹介した。1月には「とくしま食育ストリート」に参加し、シカ肉普及活動のプレゼンと試食提供を行い、好評を得た。エシカル消費活動の実践で、地域の活性化にも貢献している。



(8) 徳島文理中学・高等学校、小学校、附属幼稚園の活動

1) 徳島文理中学・高等学校の教育

建学の精神 : 「自立協同」
教育方針 : 「進学指導を中核とした人間形成」
「品位と知性に富む豊かな人間性の育成」
「21世紀をリードする国際人の育成」

－真にゆとりある私立中高一貫教育－

- ① 豊富な授業時間と6年間の継続的・系統的な指導によって、受験科目については6年間の内容を5年間で終える先取り学習を実施している。
- ② 高校3年生では類型別コースで志望する大学・学部・学科に応じた難易度の科目を自由に選び、「ゆとり」を持った受験対策によって顕著な難関大学合格実績を上げている。
- ③ 中学2年生より「応用」「発展」の習熟度別クラス編制とし、さらに高校2年生からは文系・理系別に「難関」「応用」「発展」クラスなどに細分化して、習熟度に応じた効果的な指導を行っている。
- ④ 最新の耐震基準に基づく環境に優しい安心・安全な本館と広々とした運動場、本格的な日本庭園を有し、本校の教育環境は理想的なものとなっている。
- ⑤ 中学校入試では前期・後期入試を実施するとともに、高校入試では推薦選抜と一般選抜を実施するなどして生徒募集に努め、難関大学・学部への現役合格を目指している。
- ⑥ 私学魅力アップ事業を活用して、卒業生による全校生徒対象の「トップ講演会」を開催したり、大学教授等を招き、医歯薬系、工学系、文系の分野別講演会を高1、高2生対象に3回実施している。中3生対象には「国際理解（世界の国々を知ろう）」のテーマで県内在住の外国人やJICA関係者を招いた講演会をシリーズで開催している。
- ⑦ 代々木ゼミナール講師（英数国）を招いた中3生対象の90分2コマの講演会は、90～98%の生徒が勉強の仕方を学ぶ上で参考になったと好評だった。駿台予備学校講師（英数国）を招いた高2生対象の「特設スーパー講座」と題した50分4コマの講義は、94～95%の生徒が受験勉強の参考になったと答えるなど好評だった。
- ⑧ オーストラリアでの語学研修はコロナで中断していたが、令和6(2024)年にシドニー郊外のキラハイスクールと相互訪問するなどして再開した。本校から32名が訪問し、先方から23名が来校して、授業や各種アクティビティで交流し、多文化社会やグローバル社会を肌で感じるよい機会となった。英語がコミュニケーション・ツールであることを再認識して、英語検定試験へのモチベーションを高めるよい機会となった。
- ⑨ 県内外の強豪チームを招いた小中学生対象の本校主催「第17回文理杯争奪剣道大会」には、県内外から小学生の部に28チーム、中学生女子の部に21校、男子の部に31校が参加し熱戦が繰り広げられた。また、フェンシング部は、中学生、高校生共に全国大会に出場するなど活躍している。サッカー部やソフトボール部も活躍している。
- ⑩ 「いじめに関する調査」や「学校評価アンケート調査」を実施し、関係者で分析し、冊子にまとめ、公表し、今年度の反省と次年度の組織づくりに反映させた。多くの項目で改善が見られた。
- ⑪ 「教職員指導力アップ事業」と題して、様々な分野の講師を招き、教職員、生徒、保護者対象の各種講演会、研修会を開催して、「人権教育」「生徒理解」「大学入試」「職業・仕事オリエンテーション」「アクティブラーニング」などについて理解を深めた。
- ⑫ ICT環境整備に努め、タブレットを中学校で1人1台、高校で必要数購入し、電子黒板機能を備えたプロジェクターを各教室に設置した。調べ学習や課題研究、日々の教育活動に積極的に活用している。各教科におけるデジタル教材の効果的活用が目下の課題である。



2) 徳島文理小学校の教育

建学の精神

「自立協同」

校訓

「正しく 強く 美しく」

めざす子ども像

- ①思いやりのある美しい心をもった子ども（自他の尊重）
- ②なかよく助け合い協力できる子ども（連帯と協調）
- ③よく考え、正しい行いのできる子ども（自主・自立の精神）
- ④苦しいことに負けずに努力する子ども（強い意志）
- ⑤じょうぶな体をもった子ども（健康と安全の習慣）
- ⑥あいさつのできる礼儀正しい子ども（礼節・品位）
- ⑦学習に力いっぱいがんばる子ども（旺盛な学習意欲）

① 充実した授業内容

文理小学校の6年間では、国公立小学校より約900時間多くの授業時間数を設定している。授業時間数にゆとりを持たせ、独自のカリキュラムを編成し教育内容を充実させ、児童一人一人に行き届いた教育を実践している。また、基礎基本はもとより、応用・発展にも十分踏み込んでいる。さらに、3年生以上で国語と算数も教科担任制を導入したり、全学年で一人一台のタブレットを使ったICT活用教育等を行ったりして、指導方法にも工夫をしている。1年生では、「架け橋プログラム」に基づいたスタートカリキュラムを実施して、スムーズな学校生活を開始している。低学年・中学年・高学年の発達段階に応じたステージで、個別指導・先取り学習・6年生の補習等を実施して、成果をあげている。

② 学習の基盤としての国語力の育成

読書入門の1～3年生までは、親子読書会をとおして読書に興味と親しみを持たせ、読書への意欲づけと習慣化する態度を育てている。また、各学年毎に課題図書「これだけは読もう20冊」の奨励を契機とし、読後の感想文を校内・全国各分野コンクールへ応募し、優秀な成果をあげている。低・中・高学年別の3つの図書室に、国の基準冊数の約5.5倍の蔵書を誇っている。さらに、国語科を重視するとともに、毎日の日記指導・適宜の作文指導を充実させるとともに、豊かな言語活動を展開して、国語力を高めている。

③ 伝統文化の尊重

・日本の伝統文化にふれ、作法を体験してお茶の心を学ぶため全校茶会を行っている。

・古典等の音読を行い、日本の伝統文化に慣れ親しむ。

1年（俳句） 2年（詩歌） 3年（論語） 4年（百人一首） 5年（古典） 6年（自作短歌）

④ 一味会

むらさきホールにて、日頃の音楽成果を発表する学習発表会を行っている。

4年生では、学級ごとに英語力を活かした英語劇を披露している。

⑤ 遷都学習

5～6年生の2年間で首都変遷の歴史をたどり史実を確かめる臨地学習を行っている。

5年生で飛鳥・奈良、6年生で京都・東京に行き、特に、東京では国会見学をしている。

⑥ 英語教育

昭和59(1984)年の開校以来、教科として特設された英語の時間では、1年生から6年生まで段階的・発展的な授業を展開している。各学年とも週に2時間の授業があり、高学年(5、6年生)ではそのうち1時間をネイティブスピーカーの教師が指導している。6年間で学習する単語数も約1500語となっており、国公立小学校が目指す約600～700語を大きく上回っている。英語になれ親しみ、将来において使える英語の基礎をつくること、広い視野をもつ子どもを育てることを目標として、聞く・話す・読む・書くの4技能を生かした先進的な指導を行っている。

⑦ ICT活用教育・デジタル化の推進

ICTを効果的に活用でき、学習の基盤として、情報モラルを含めた情報活用能力を育成している。次の4つの柱を定めて取り組んでいる。欠席や自宅待機時に、オンライン授業も実施している。校内のWiFi環境等も整備済みで、校務もデジタル化を進めている。

・目的に応じた情報活用のための技能・実践力を高める。

・電子黒板・書画カメラ・デジタル教科書等を利用して、各教科等でのICT活用を図る。

・プログラミングツールを活用して、その理解と論理的思考力を育成する。

・情報社会で適正に活動できるように、情報モラル・セキュリティ力を身につける。

校内ネットワークを高速化・大容量化するとともに、一人一台の最新高機能タブレット端末を活用して効果をあげている。



3) 附属幼稚園の教育

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、その事を教職員全員が自覚した上で、環境を通した教育に当たっている。また、優秀な教員の援助と助言のもと、一人ひとりに寄り添い、幼児期にふさわしい生活を展開している。

① 教育方針

- 【健康】 自分のことは自分でできる、心身ともに健康な子どもに
- 【知性】 ものをよく認識し、よく思考し、理性的に行動できる子どもに
- 【徳性】 優しさと思いやりがあり、お友達と仲良くできる子どもに

② 7つの特色

(ア) 一貫教育体制

徳島文理小学校、徳島文理中学校、徳島文理高等学校と強い連携を保っている。

(イ) 教育環境の充実

- ・運動場を拡張し芝生を張り、園児が思いきり遊び、のびのびと活動できる環境、また、菜園や花壇を広げ季節の野菜や草花の栽培、うさぎの飼育を行い、自然や動物とふれあえる環境となっている。
- ・安全面や衛生面には配慮し、床暖房、指詰め防止用ゴムパッキン、アクリルガラス窓、滑り止め、各教室には冷暖房等を備え、園内の各所に防犯カメラを設置している。
- ・衛生面ではトイレとシャワールームを2つの保育室の間に設置し、「安心感」「清潔さ」「使いやすさ」に留意している。

(ウ) 大学・短期大学部の学生との連携

徳島文理大学・短期大学部の学生と接することで、多様な経験を豊かにし、幼児の人間関係の発達を促している。

(エ) 特設保育の設定

通常保育のプラスαとして、専門の指導員のもと、音楽や英会話、絵画・造形、体育遊び、茶道などの特別な教育を通じて、感性や感覚を養うことを目的として教育を行っている。

(オ) 大学内の施設・設備の利用

大学イベントへの参加、構内施設の施設・設備の利用により、多様な環境体験を積み、豊かな知性を養っている。また、地震・津波の避難訓練では学生と園児が手を取り合って避難を行うなど、園児が安心して参加できる避難訓練を実施している。

(カ) 子育て支援体制

望ましい子育てのあり方や、育児不安の解消のために、随時、子育て相談を実施している。また、平成25(2013)年10月から3歳の誕生日を迎えた子どもの入園を開始した。

(キ) 預かり保育の実施

園内の教室にて預かり保育を実施している。専任教諭による保育を行い、制服から普段着に着替え、子ども達がリラックスした雰囲気の中で過ごせるよう努めている。(月～金曜：保育終了後～18:30 春・夏・冬休み：8:00～18:30)

③ 令和6(2024)年度の特長ある取り組み

安全管理の実施

「子どもの育ちのためにすべきこと」を熟慮し、日々の保育や行事のあり方を検討した。各組、各特設保育室、リズム室等の全保育室に空気清浄機を設置し、サーキュレーター、天井扇風機を使用するなど環境整備を図った。手洗いうがいの習慣化を図り、保育の中で丁寧に説明し自分たちなりに考えて行動できるようにしている。性被害防止対策として、道路側にカフェカーテンを設置し、目隠し対応を行い、子どもたちの安全確保に努めた。

情報発信

HPをリニューアルし、Instagramを駆使して、広く敏速に園行事や保育内容について発信することで、保育の「見える化」につなげ、多くの方に園の魅力を理解していただけるよう努めた。

小学校との連携・接続

一年間を通して、徳島文理小学校1年生児童と年長組幼児が交流を行った。一緒に活動することにより、小学生に憧れを持ち、自身の成長を喜び、小学校という施設、児童、先生を身近に感じられるようになった。アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムが連動できるように円滑な移行となるよう取り組んだ。



Ⅲ. 財務の概要

1. 決算の概要

(1) 貸借対照表関係

1) 貸借対照表の状況と経年比較

(百万円)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産	88,685	88,633	89,074	89,462	88,812
流動資産	9,451	9,729	9,257	8,164	7,392
資産の部合計	98,136	98,362	98,331	97,626	96,203
固定負債	1,611	1,605	1,604	1,568	1,601
流動負債	1,262	1,346	1,184	1,026	1,366
負債の部合計	2,873	2,951	2,789	2,594	2,967
基本金	110,377	111,133	117,736	126,034	139,579
繰越収支差額	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001	△ 46,342
純資産の部合計	95,263	95,411	95,542	95,033	93,237
負債及び純資産の部合計	98,136	98,362	98,331	97,626	96,203

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 財務比率の経年比較

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
固定資産構成比率	90.4%	90.1%	90.6%	91.6%	92.3%
有形固定資産構成比率	50.1%	49.1%	54.5%	61.9%	76.8%
特定資産構成比率	40.1%	40.9%	35.9%	29.5%	15.3%
流動資産構成比率	9.6%	9.9%	9.4%	8.4%	7.7%
固定負債構成比率	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.7%
流動負債構成比率	1.3%	1.4%	1.2%	1.1%	1.4%
内部留保資産比率	46.6%	47.6%	42.2%	34.9%	19.5%
運用資産余裕比率(年)	5.2	5.6	5.0	4.0	2.2
純資産構成比率	97.1%	97.0%	97.2%	97.3%	96.9%
繰越収支差額構成比率	-15.4%	-16.0%	-22.6%	-31.8%	-48.2%
固定比率	93.1%	92.9%	93.2%	94.1%	95.3%
固定長期適合率	91.5%	91.4%	91.7%	92.6%	93.6%
流動比率	748.7%	722.7%	781.6%	795.7%	541.3%
総負債比率	2.9%	3.0%	2.8%	2.7%	3.1%
負債比率	3.0%	3.1%	2.9%	2.7%	3.2%
前受金保有率	892.2%	837.6%	874.4%	917.3%	659.0%
退職給与引当特定資産保有率	99.3%	99.7%	99.7%	102.1%	99.9%
基本金比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.9%
減価償却比率	67.4%	68.6%	64.8%	60.6%	53.9%
積立率	78.4%	78.2%	68.3%	55.3%	32.7%

(2) 資金収支計算書関係

1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(百万円)

収入の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
学生生徒等納付金収入	7,017	6,706	6,708	6,440	5,923
手数料収入	75	82	74	62	69
寄付金収入	33	25	38	47	55
補助金収入	1,271	1,252	1,328	1,099	1,053
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	123	126	106	115	104
受取利息・配当金収入	579	621	492	446	381
雑収入	188	250	246	354	316
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	1,026	1,126	1,015	843	1,049
その他の収入	4,953	2,492	8,277	9,822	16,740
資金収入調整勘定	△ 1,398	△ 1,262	△ 1,386	△ 1,344	△ 1,195
前年度繰越支払資金	9,150	9,153	9,430	8,879	7,736
収入の部合計	23,017	20,571	26,327	26,762	32,232

(百万円)

支出の部	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費支出	4,639	4,567	4,583	4,879	4,780
教育研究経費支出	2,384	2,172	2,246	2,267	2,389
管理経費支出	486	489	546	544	657
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	3,117	442	6,502	8,043	11,521
設備関係支出	341	320	345	258	3,762
資産運用支出	1,505	1,505	1,505	1,505	1,005
その他の支出	1,578	1,822	1,878	1,710	1,519
資金支出調整勘定	△ 184	△ 175	△ 156	△ 180	△ 313
翌年度繰越支払資金	9,153	9,430	8,879	7,736	6,912
支出の部合計	23,017	20,571	26,327	26,762	32,232

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 活動区分資金収支計算書

(百万円)

科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	8,662	8,395	8,441	8,095	7,508
教育活動資金支出計	7,508	7,228	7,375	7,690	7,826
差引	1,153	1,167	1,066	404	△ 318
調整勘定等	△ 68	89	△ 184	△ 250	160
教育活動資金収支差額	1,086	1,257	882	154	△ 157
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	3,272	672	6,484	8,021	15,112
施設整備等活動資金支出計	4,957	2,261	8,347	9,801	16,283
差引	△ 1,686	△ 1,590	△ 1,862	△ 1,780	△ 1,171
調整勘定等	19	1	△ 12	39	134
施設整備等活動資金収支差額	△ 1,667	△ 1,588	△ 1,874	△ 1,741	△ 1,038
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 581	△ 332	△ 992	△ 1,587	△ 1,195
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	2,022	2,269	2,107	2,008	1,693
その他の活動資金支出計	1,439	1,661	1,665	1,565	1,321
差引	583	609	442	443	371
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	583	609	442	443	371
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	2	277	△ 550	△ 1,144	△ 824
前年度繰越支払資金	9,150	9,153	9,430	8,879	7,736
翌年度繰越支払資金	9,153	9,430	8,879	7,736	6,912

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

3) 財務比率の経年比較

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動資金収支差額比率	12.5%	15.0%	10.4%	1.9%	-2.1%

(3) 事業活動収支計算書関係

1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(百万円)

科目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	7,017	6,706	6,708	6,440	5,923
	手数料	75	82	74	62	69
	寄付金	31	25	36	45	60
	経常費等補助金	1,228	1,207	1,272	1,080	1,045
	付随事業収入	123	126	106	115	104
	雑収入	131	248	200	336	278
	教育活動収入計	8,605	8,393	8,395	8,077	7,479
	事業活動支出の部					
	人件費	4,576	4,558	4,537	4,824	4,776
	教育研究経費	4,159	3,753	3,633	3,584	4,068
	管理経費	600	599	645	643	837
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	9,335	8,910	8,815	9,051	9,682
	教育活動収支差額	△ 729	△ 517	△ 420	△ 974	△ 2,203
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	579	621	492	446	381
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	579	621	492	446	381
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	579	621	492	446	381
経常収支差額		△ 151	104	71	△ 528	△ 1,821
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	65	55	77	43	34
	特別収入計	65	55	77	43	34
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	12	10	17	25	9
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	12	10	17	25	9
	特別収支差額	53	44	60	18	26
基本金組入前当年度収支差額		△ 97	149	131	△ 509	△ 1,796
基本金組入額合計		△ 3,422	△ 759	△ 6,609	△ 8,300	△ 13,547
当年度収支差額		△ 3,520	△ 611	△ 6,478	△ 8,809	△ 15,343
前年度繰越収支差額		△ 11,595	△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001
基本金取崩額		0	4	6	2	2
翌年度繰越収支差額		△ 15,114	△ 15,722	△ 22,194	△ 31,001	△ 46,342
(参考)						
事業活動収入計		9,249	9,069	8,963	8,566	7,895
事業活動支出計		9,347	8,920	8,832	9,076	9,691

※四捨五入の関係から差し引き並びに計が一致しない場合がある

2) 財務比率の経年比較表

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
人件費比率	49.8%	50.6%	51.1%	56.6%	60.8%
人件費依存率	65.2%	68.0%	67.6%	74.9%	80.6%
教育研究経費比率	45.3%	41.6%	40.9%	42.1%	51.8%
管理経費比率	6.5%	6.6%	7.3%	7.5%	10.7%
借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	-1.1%	1.6%	1.5%	-5.9%	-22.7%
基本金組入後収支比率	160.4%	107.4%	375.2%	3410.3%	-171.4%
学生生徒等納付金比率	76.4%	74.4%	75.5%	75.6%	75.4%
寄付金比率	0.6%	0.4%	0.6%	0.8%	1.1%
経常寄付金比率	0.3%	0.3%	0.4%	0.5%	0.8%
補助金比率	13.7%	13.8%	14.8%	12.8%	13.3%
経常補助金比率	13.4%	13.4%	14.3%	12.7%	13.3%
基本金組入率	37.0%	8.4%	73.7%	96.9%	171.6%
減価償却額比率	20.2%	19.0%	16.9%	15.6%	19.1%
経常収支差額比率	-1.6%	1.2%	0.8%	-6.2%	-23.2%
教育活動収支差額比率	-8.5%	-6.2%	-5.0%	-12.1%	-29.4%

2. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

(1) 経営状況の分析

教育活動収支において、学生数減少による学生生徒等納付金収入減少が主要因となり、事業活動収入が6億7,143万円減少しました。

事業活動支出については、減価償却費の増加などが主要因となり、6億1,501万円の増加となった結果、経常収支差額は18億2,129万円の支出超過となりました。

純資産構成比率については96.9%と、引き続き高い水準を維持しており、財務状況は安定しています。

(2) 経営上の成果と課題

令和7年4月の香川キャンパスの移転・高松駅キャンパス開学により、教育環境の充実がより図られ、今後の学生数の増加は十分に期待できます。

他方で、学生の選択肢を減らさないように、現在の学部・学科を維持し、必要に応じて定員の調整などを検討してまいります。

今後、新校舎建設に伴う償却負担増加や光熱水費の上昇等の課題に対し、引き続き適正な経費管理を実施し、安定的な経常収支を確保することが重要な経営課題となっています。

(3) 今後の方針・対応方策

18歳人口が減少するこの状況においても、学生募集強化を継続し、学生数の増加を図ることで、学生生徒等納付金を主体とした収入の安定化を目指します。

予算執行にあたっては、教育の質の向上を目指すと同時に、その必要性を十分に考慮し執行することで、健全な財務状況を維持いたします。

監査報告書

令和 7 年 5 月 19 日

学校法人 村 崎 学 園
理 事 会 御 中

学校法人 村崎学園

監 事 新 見 延 子

監 事 細 澤 菜 一

私たち監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人村崎学園寄附行為第11条第3項に基づき、学校法人村崎学園の令和6年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況等について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 監査方法の概要

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務の執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、公認会計士の監査に立ち会い、諸会計帳票の点検及び実地調査等を行い、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に学校法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以 上

監査報告書

令和 7 年 5 月 19 日

学校法人 村崎学園
評議員会 御中

学校法人 村崎学園

監事 新見 延子

監事 細 絲 菜 一

私たち監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人村崎学園寄附行為第11条第3項に基づき、学校法人村崎学園の令和6年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況等について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 監査方法の概要

理事会、評議員会、部局長会、合同教授会等、重要な会議に出席し、理事長及び幹部職員等から業務の執行について説明・報告を聴取するとともに、重要な決裁書類等を閲覧しました。また、公認会計士の監査に立ち会い、諸会計帳票の点検及び実地調査等を行い、学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況を監査しました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に学校法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務及び財産の状況並びに理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はありません。

以 上